

11  
344



始



新編裁縫全書

羽織袴之卷

中

11

344



新編裁縫全書

目次

第一章 共通要項

第一	本裁羽織衿の折り方	二
第二	羽織乳の折り方	二
第三	羽織の畳み方	三
第四	被布小衿寸法割り出し方及び芯の裁方	四
第五	被布小衿の縫ひ方	四
第六	被布の畳み方	六
第七	合羽の畳み方	六

目次

大正  
10.9.13  
内交

第八 女袴(三つ鬘)普通仕立上り寸法割り出し方……………七

第九 女袴紐飾りの附け方……………八

第十 女袴の疊み方……………一〇

第十一 男女袴相引門留の仕方……………一一

第十二 男袴仕立上り寸法割り出し方……………一一

第十三 男袴腰板及び附菱の貼り方……………一三

第十四 男袴腰板に後紐の附け方……………一七

第十五 男袴の疊み方……………一八

第二章 綿入羽織

第一節 本裁女物……………二〇

第一 普通仕立上り寸法及び圖並に各部の名稱……………二〇

第二 並幅物にて本裁女綿入羽織表の裁ち方積り方及び切り離し方……………二二

第三 並幅物にて本裁女綿入羽織裏の裁ち方積り方及び切り離し方……………二四

第四 本裁女綿入羽織篋の附方及び説明……………二六

第五 本裁女綿入羽織縫方順序……………三〇

第六 本裁女綿入羽織紵方順序……………三三

第二節 本裁男物……………三六

第一 普通仕立上り寸法及び圖並に各部の名稱……………三六

第二 並幅物にて本裁男綿入羽織表の裁方……………三七

第三 並幅物にて本裁男綿入羽織裏の裁方……………三九

第四 本裁男綿入羽織篋の附方及び説明……………三九

第五節 本裁男綿入羽織縫方順序……………四〇

第四節 四つ身……………四一

第三節 普通仕立上り寸法……………四一

第二節 普通半反にて四つ身筒袖裁ち綿入羽織表の裁ち方積り方及び切り離し方……………四二

第三節 普通幅物にて四つ身筒袖裁ち綿入羽織裏の裁ち方積り方……………四四

第四節 大幅物(二尺)にて四つ身元祿袖裁ち綿入羽織の裁ち方積り方及び切り離し方……………四六

第五節 四つ身綿入羽織篋の附方及び説明……………四八

第六節 四つ身綿入羽織縫方及び紵方順序……………五〇

第四節 三つ身……………五一

第一節 普通仕立上り寸法……………五一

第二節 普通幅物にて三つ身元祿袖裁ち綿入羽織表の裁ち方積り方及び切り離し方……………五三

第三節 並幅物にて三つ身元祿袖裁ち綿入羽織裏の裁ち方積り方……………五四

第四節 大幅物(二尺)にて三つ身相當の羽織表の裁ち方積り方及び切り離し方……………五六

第五節 三つ身綿入羽織篋の附け方……………五七

第六節 三つ身綿入羽織縫方及び紵方順序……………五八

第五節 一つ身……………五八

第一節 一つ身袖無綿入羽織普通仕立上り寸法及び圖並に各部の名稱……………五九

第二	一尺幅にて一つ身袖無綿入羽織表の裁ち方積り方及び切り離し方	六
第三	一尺幅にて一つ身袖無綿入羽織裏の裁ち方	五九
第四	一つ身袖無綿入羽織篋の附方及び説明	六〇
第五	一つ身袖無綿入羽織縫方順序	六一
第六	一つ身袖無綿入羽織綿の入方及び紵方	六三
<b>第三章 袷羽織</b>		
第一節	本裁男物	六六
第一	二尺幅にて男袷羽織表の裁方積り方及び切り離し方	六六

第二	本裁男袷羽織篋の附方及び説明	六六
第三	本裁男物袷羽織縫方順序	六七
第二節	本裁女物	七二
第一	本裁女物袷羽織篋の附方及び縫方順序	七二

**第四章 単羽織**

第一節	本裁男物	七六
第一	本裁男單羽織仕立上りの圖	七六
第二	並幅物にて男單羽織の裁ち方積り方及び切り離し方	七七
第三	本裁男單羽織篋の附方及び説明	七九
第四	本裁男單羽織縫方順序	八一

第五章 被布

第一節 本裁女物 ..... 八五

第一 普通仕立上り寸法及び圖並に各部の名稱 ..... 八五

第二 並幅物にて本裁被布表の裁ち方積り方及び切り離し方 ..... 八七

第三 並幅物にて本裁被布裏の裁ち方及び切り離し方 ..... 八八

第四 二尺幅にて本裁被布表の裁ち方積り方及び切り離し方 ..... 九〇

第五 本裁被布篋の附方及び説明 ..... 九二

第六 本裁被布縫方順序 ..... 九六

第七 本裁被布紵方順序 ..... 九九

第二節 四つ身 ..... 一〇〇

第一 普通仕立上り寸法及び圖 ..... 一〇一

第二 並幅物にて四つ身長袖裁ち被布表の裁ち方積り方及び切り離し方 ..... 一〇二

第三 並幅物にて四つ身長袖裁ち被布裏の裁ち方 ..... 一〇四

第四 二尺幅にて四つ身元祿袖裁ち被布表の裁ち方積り方及び切り離し方 ..... 一〇五

第五 四つ身被布篋の附方及び説明 ..... 一〇七

第三節 三つ身 ..... 一〇八

第一 普通仕立上り寸法 ..... 一〇八

第二 一尺幅の片面物にて三つ身元祿袖裁ち被布表の裁ち方積り方及び切り離し方……………一〇九

第三 並幅物にて三つ身元祿袖裁ち被布裏の裁ち方……………一一一

第四節 一つ身……………一一二

第一 一つ身袖無被布普通仕立上り寸法……………一一二

第二 一尺幅にて一つ身袖無被布表の裁ち方積り方及び切り離し方……………一一三

第三 一尺幅にて一つ身袖無被布裏の裁ち方……………一一四

第四 一つ身袖無被布篋の附方及び説明……………一一五

第五 一つ身袖無被布縫方順序……………一一七

第六 一つ身袖無被布綿の入れ方及び紵け方……………一一八

第六章 飾紐結數種

第一 しゃか結……………一二〇

第二 梅結……………一二〇

第三 蝶結……………一二二

第四 くろうば結……………一二三

第五 しんばし結……………一二四

第六 わらび結……………一二五

第七章 合羽

第一節 本裁女物道行衿……………一二六

第一 普通仕立上り寸法及び圖並に各部の名稱……………一二六



第二 並幅物にて道行衿合羽の裁ち方積り方及び切り離し方……………一三七

第三 本裁女物道行衿合羽の附方及び説明……………一三九

第四 本裁女物道行衿合羽縫方順序……………一三一

第二節 本裁女物被布衿……………一三五

第一 並幅物にて被布衿合羽の裁ち方積り方及び切り離し方……………一三五

第二 本裁女物被布衿合羽の附方及び説明……………一三七

第三 本裁女物被布衿合羽縫方順序……………一三八

第三節 四つ身……………一四一

第一 並幅物にて四つ身合羽元祿袖裁の裁ち方積り方及び切り離し方……………一四一

第八章 女袴

第一節 本裁女袴……………一四八

第一 普通仕立上り寸法及び圖並に各部の名稱……………一四九

第二 三尺幅物にて女袴の裁方及び積り方……………一五〇

第三 本裁女袴の附け方及び説明……………一五一

第四 本裁女袴縫方順序及び襷の取り方圖……………一五二

第五 二尺幅にて後三つ襷女袴の裁ち方及び積り方……………一五八

第六 本裁女袴縫合せ及び襷の取り方圖……………一五九

第二節 中裁及び小裁……………一六〇

第一 二尺幅にて十一二歳女兒袴の裁方及び積り方……………一六一

第二 十一二歳女兒袴の縫合せ及び襷の取り方圖……………一六二

第三 二尺幅にて六七歳女兒袴の裁ち方及び積り方……………一六三

第四 六七歳女兒袴の縫合及び襷の取り方圖……………一六四

第九章 男袴

第一節 本裁單袴……………一六六

第一 普通仕立上り寸法及び圖並に各部の名稱……………一六七

第二 並幅二丈四尺一寸の袴地にて本裁男袴の裁方積り方及び切り離し方……………一六九

第三 本裁男單袴篋の附け方及び各部の裁ち落とし方の説明……………一七一

第四 本裁男單袴縫方順序及び襷の取り方圖……………一七五

第五 一尺幅二丈七尺の袴地にて十布遣男袴の裁方及び積り方……………一八四

第六 十布遣男袴縫合及び襷の取り方圖……………一八六

第七 二尺幅一丈二尺四寸の袴地にて本裁男袴の裁方積り方及び切り離し方……………一八七

第八 四布遣男袴の裁方及び積り方(十八九歳用)……………一八九

第九 四布遣男袴の縫合及び襷の取り方圖……………一九〇

第二節 中裁及び小裁 ..... 一九一

第一 十三四歳用男袴の裁方積り方及び縫合襷取りの圖 ..... 一九一

第二 十歳用男兒袴の裁方積り方及び縫合襷取りの圖 ..... 一九三

第三 八九歳用男兒袴の裁方積り方及び縫合襷取りの圖 ..... 一九六

第四 六七歳用男兒袴の裁方積り方及び縫合襷取りの圖 ..... 一九八

第五 五六歳用男兒褌無袴の裁ち方積り方及び縫合襷取りの圖 ..... 二〇〇

第三節 本裁男袴 ..... 二〇三

第十章 参考之部

第一 本裁男袴表の裁ち方及び積り方 ..... 二〇三

第二 本裁男袴裏の裁ち方及び積り方 ..... 二〇四

第三 本裁男袴袴籠附の説明及び縫合せ圖 ..... 二〇六

第四 本裁男袴縫方順序 ..... 二〇八

第一 幅二尺長さ一丈一尺の片面物にて本裁女羽織表の裁方 ..... 二二三

第二 幅二尺長さ一丈一尺五寸の両面物にて本裁女羽織表の裁方 ..... 二二四

第三 幅二尺長さ一丈四尺の両面物にて本裁女羽織表の裁ち方 ..... 二二五

第四 幅二尺長さ一丈二尺の片面物にて元祿袖裁  
四つ身及三つ身相當の羽織表の裁ち方……………二二六

第五 長さ二丈五尺五寸の博多織袴地にて男袴の  
裁ち方及積り方……………二二七

第六 二丈三尺六寸の小倉地にて紐下二尺三寸上  
り位の男袴の裁ち方及積り方……………二三〇

第七 二丈四尺五寸の袴地にて紐下二尺四寸上り  
の男袴の裁ち方及積り方……………二三二

第八 幅二尺長さ一丈五寸の布にて紐下二尺二寸  
五分上りの男袴の裁ち方及積り方……………二三三

第九 本裁長着を男袴に仕立替る時の裁ち方……………二三五

第十 本裁羽織を男袴に仕立替る時の裁ち方……………二三六

第十一 袴仕立の前掛の裁方及び縫方順序……………二二七

第十二 雪袴仕立上りの圖……………二二九

第十三 雪袴の裁ち方及び縫ひ方……………二三〇

第十四 本裁長着を羽織に仕立替る時の裁ち方……………二三三

第十五 四つ身長着を羽織に仕立替る時の裁ち方……………二三四

第十六 本裁羽織を長着に仕立替る場合……………二三五

第十七 四つ身羽織を長着に仕立替る場合……………二三六

第十八 羽織を被布に仕立替る場合……………二三六

第十九 經濟裁袖無羽織(衿なし)仕立上りの圖及裁  
ち方……………二三六

第二十 並幅半反にて四つ身合羽の裁ち方積り方  
及縫方順序(立衿)……………二三八

目次

第二十一 女兒體操用改良袴……………二四二

第二十二 並幅物にて男單羽織の裁方(肩當附)……………二四四

第三十三 並幅物にて男襠無袴の裁ち方……………二四五

目次終

新編裁縫全書(羽織袴の巻)中

高遠 藤 久 錠 子 共 著



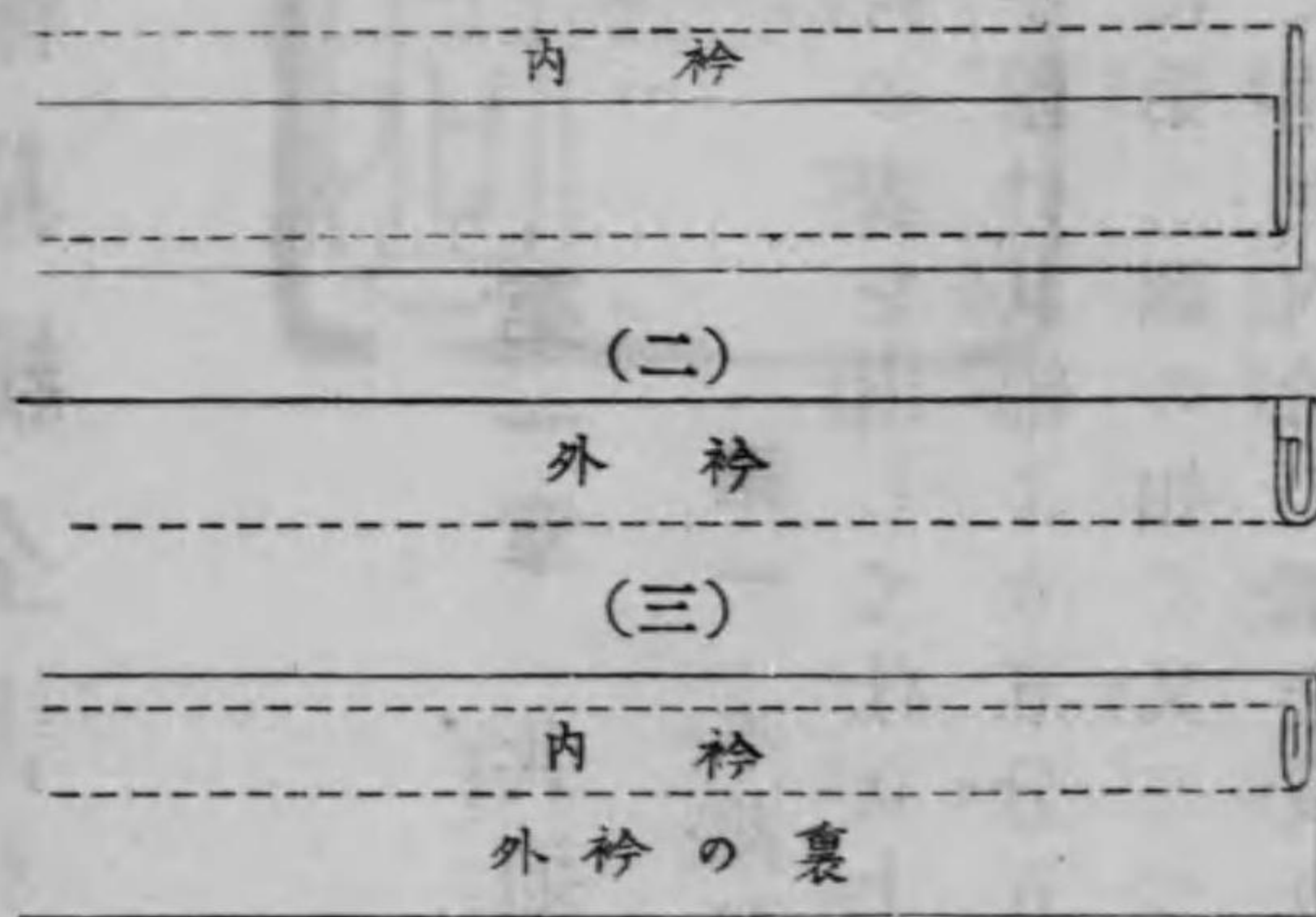
第一章 共通要項

第一 本裁羽織袴の折り方

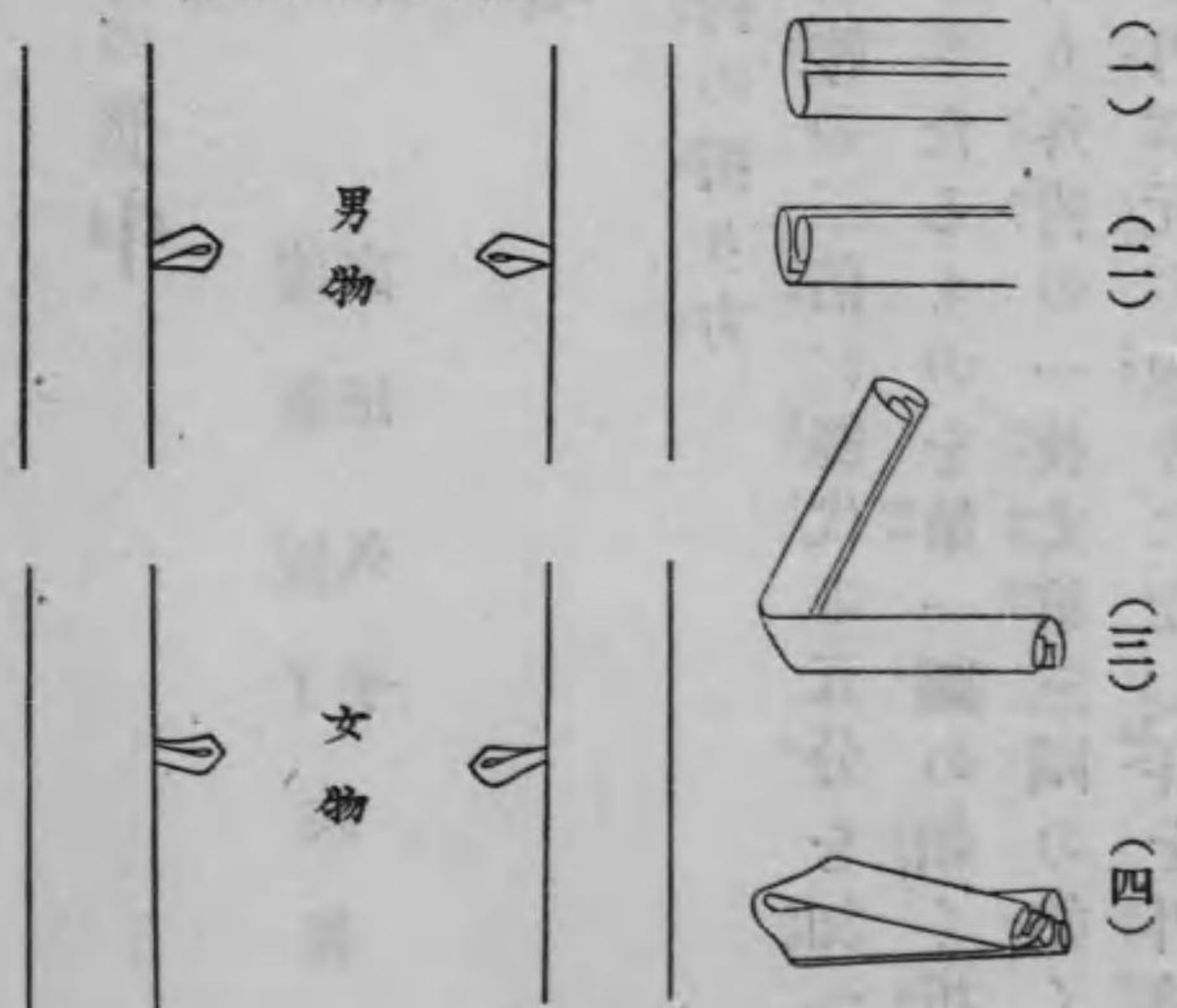
一 衿の表を出して仕立上り衿幅の二倍に縫代の五分を加へて折を附け、其幅より五分五厘ひきたるものを第一圖の如く折り、次に第二圖の如く又二つに折り、外衿の一枚丈第三圖の如く手前に開き、内衿の幅を度り置き再び元の通りになし、耳を外側になして丈を二つに折り置くべし。

第一章 共通要項

(一) 方り折の衿



乳を附けたる圖



第二 羽織乳の折方

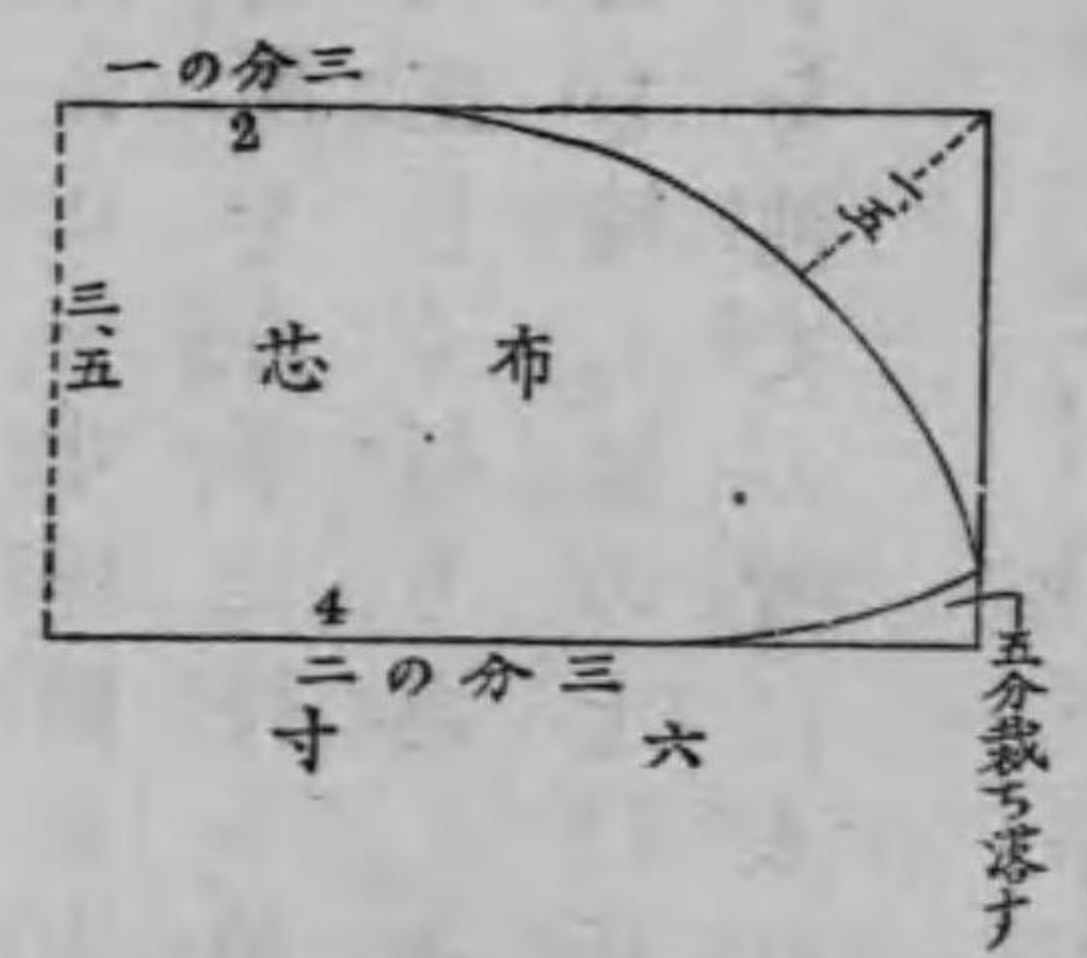
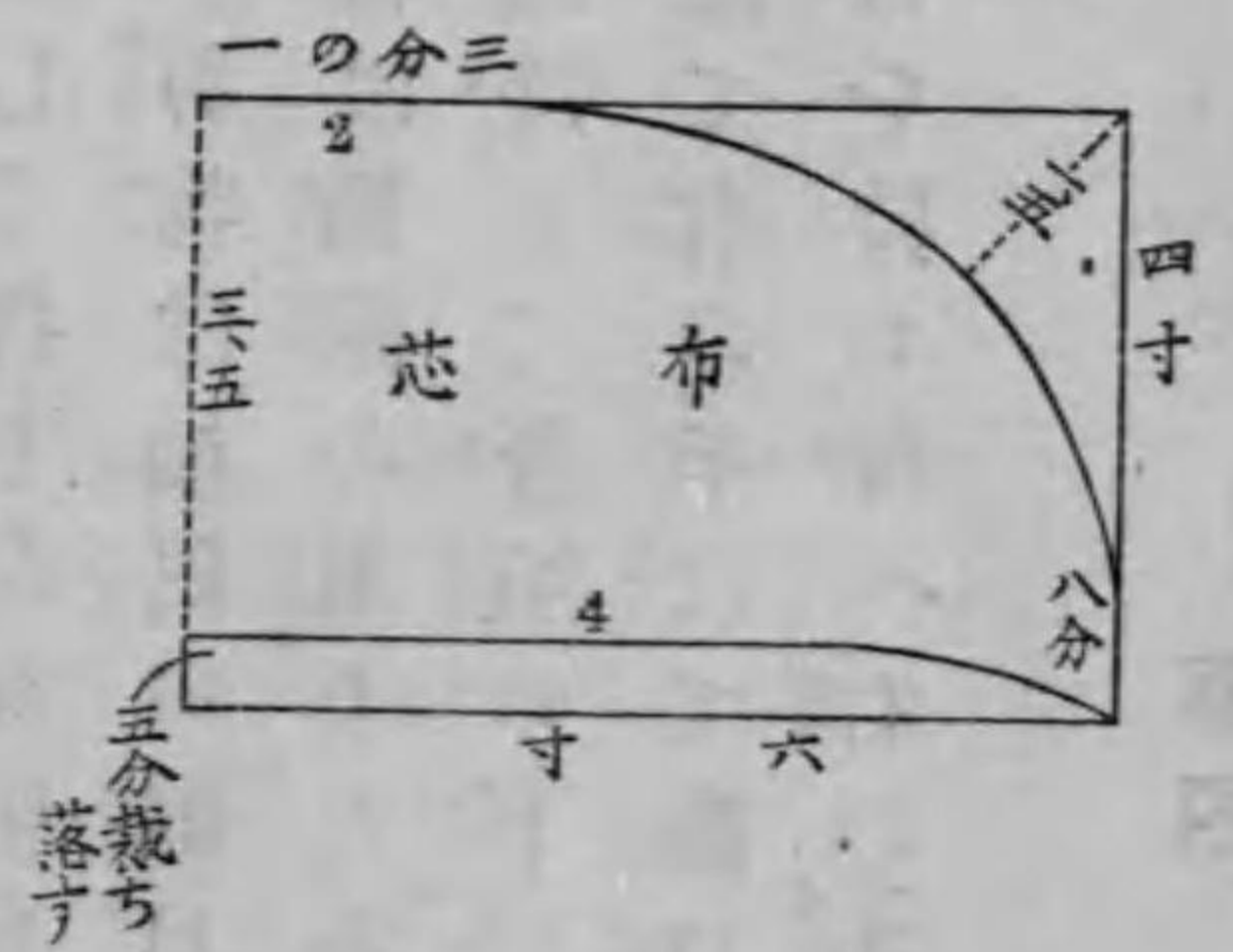
第三 羽織の疊み方

裾口を右に肩を左になして下に置き、襟幅の中央より右の前  
 身を後身の上に折り重ね、衿を手前に折り返し、左の前身も同様  
 になし、肩明の所即ち三つ衿を衿附の縫目より後身頃の裏の方  
 に正しく折り、左身頃を右に重ね、左袖を袖附の縫目より向ふに  
 折り、(男物は袖附の縫目より一寸程袖の方に寄りたる所を折る  
 右袖は袖附の重りたる所を左手に持ち、袖丈の所と身頃とを右  
 手に持ち、右の身頃の下の所に正しく折り返し、次に左の手を袖丈の所  
 に當て、右の手にて裾口を持ち、袖の上に入り、正しく疊み置くべ  
 し。

第四

被布小衿寸法割出し方及び芯の裁方

方り切の芯衿小  $\frac{1}{5}$

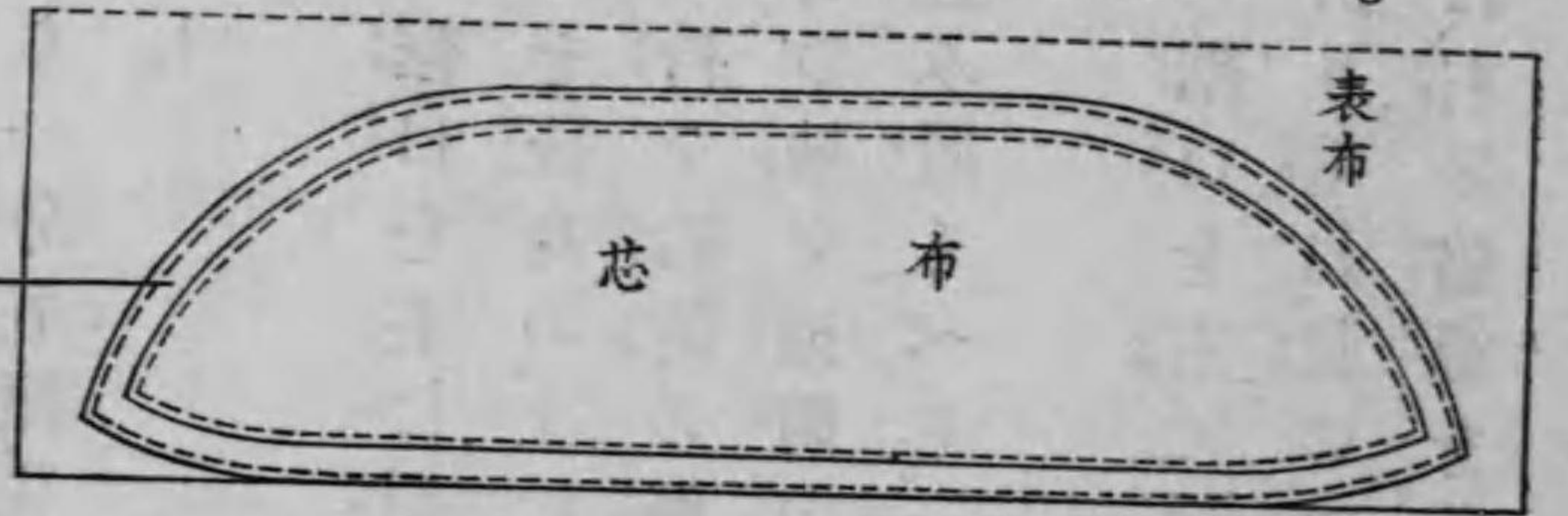


小衿幅は  
堅衿上部  
の幅と同  
寸なれど  
も人の好  
みにより  
隨意とす  
又丸みも  
好みによ  
り適宜に  
加減する  
もよし

一丈 堅衿下り  
の二倍  
衿丈の三  
幅の一分

第五 被布小衿の縫方  
 衿布を出來上り寸法に一枚裁ち之を他の芯布の上に載せ廻  
 りを襷糸にて綴ち附け三分廻り大きく裁ち落し之を小衿布の  
 裏に圖の如く載せ襷にて假に綴ち小衿布を中表に二つに折り

二枚芯小衿布に載せ綴ち附けたる圖  $\frac{1}{5}$



第一章 共通要項

狭き芯布の廻りの一分五厘先に襷を附け芯の  
 ある方は襷通り一方は襷より二分下りたる所  
 に待針を刺し丸みの所は弛みたるまゝ布のね  
 ぢれぬやうに待針を刺し其所を縫ひ合せ丸み  
 の所を縫目の糸より三分位づゝ離して二三本  
 を縫ひ縮め芯のなき方に折り縫縮めの糸を引  
 き芯の形に倣ひて格好よく糸を引きしめて止  
 め襷を平になし表に返し廻りを一分程裏の方  
 にふかせて裏表一所に廻りに襷を掛るべし。  
 一枚芯の時出來上り寸法に通し襷を附け  
 其の餘より三分廻り大きく裁ち之を小衿布の裏  
 に載せ襷にて假に綴ち小衿布を中表に二つに

折り一分五厘先に筥を付け、縫ひ方は二枚芯の時と同様になすべし。

第六 被布の疊み方

裾口を右に肩を左になして下に置き、襷幅の中央より右の前身を後身の上に折り重ね、左も同様に襷幅の中央より前に折り、小衿を衿附の縫目より後身頃の裏の方に正しく折り、其上に左の袖を袖附の縫目より折り重ね、丈を二つ折或は三つ折りに疊み置くべし。

第七 合羽の疊み方

裾口を右に肩を左になして下に置き、右の前身を後身の上に折り重ね、脇の縫目の處を正しく折り、其上に左の前身を折り重ね、右の脇縫を後布と重りたるまゝ、後幅の中央より折り、袖を平

に伸し袖口の方を後の折山の際まで折り返し、左も同様に折り、丈を二つに折り置くべし。

第八 女袴(後三つ襷)普通仕立上り寸法割り出し方

紐下

着物の着丈の凡十分の七

相引

紐下の三分の二へ一寸五分か二寸を加ふ

後幅

紐下の三分の一に八分加ふ(子供物は五分位)

後の中襷

後布より後幅を減じ其残りを二分したるもの

前後の重ね

一寸或は八分

後脇幅

後幅の四分の三

後の寄襷幅

上後幅の八分の一下後幅の四分の一



前の中襷幅

前布より後幅を減じ其残りを三分したるも

の

後幅の五分の三

上後幅の十分の一 下後幅の五分の一

後幅と同寸

前脇幅の凡四分の一

後脇幅の四分の一

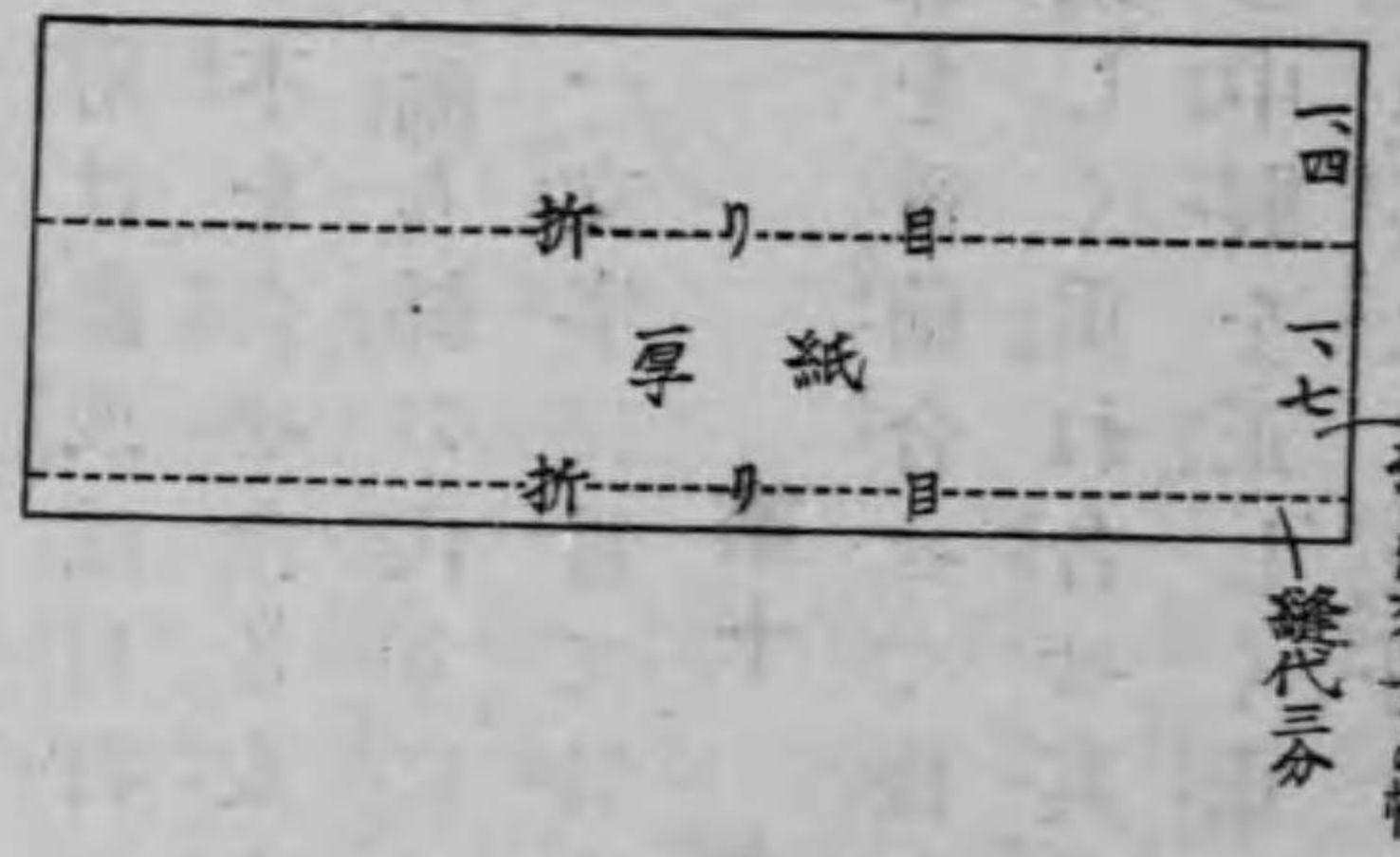
後幅と同寸或は五分増し

第九 女袴紐飾りの附け方

厚紙を後紐幅の二倍に丈を腰幅より一寸長く裁ち切り、第一の如く折り合せ両端の上角を三分程の丸みに裁ち落とし、第二の如く之を開きて其縫代の折山より三分程上に飾り糸を通

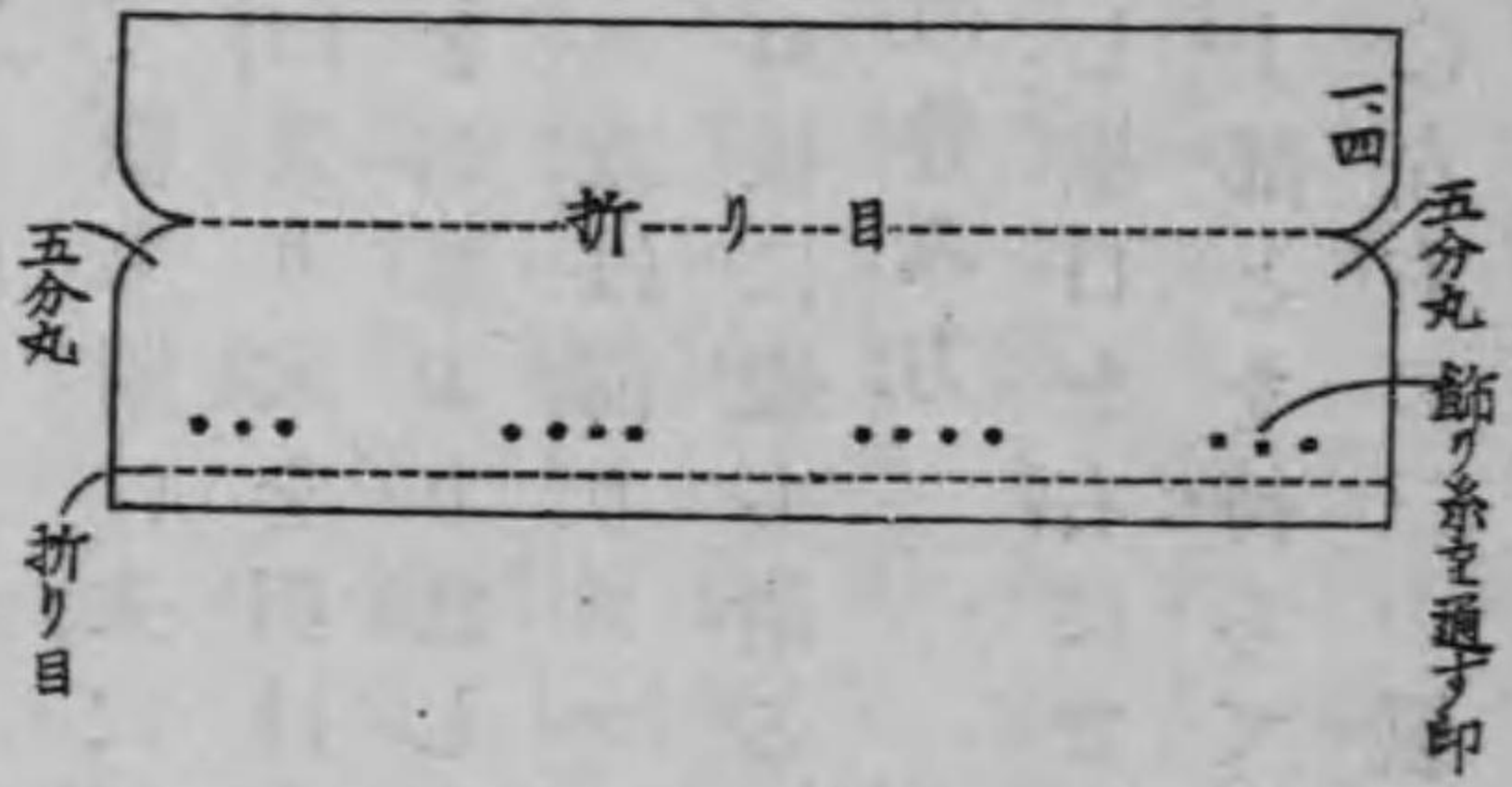
す印を附け、飾糸は普通大針三つ小針を四つとし、第二圖の如き

後紐に厚紙の入り厚紙の切り方 (一)



厚紙の長さは腰幅より一寸長きもの幅は紐幅の二倍

(二)



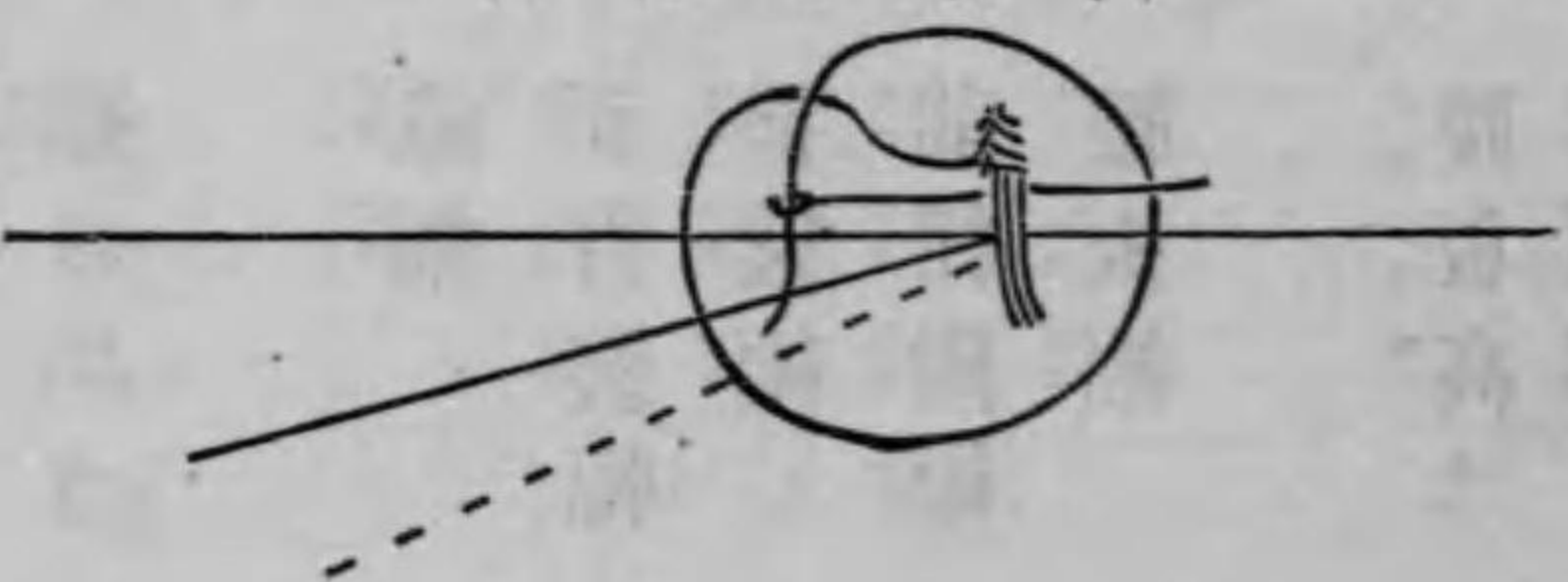
腰幅 (8-3-3x10)÷3=1.57 大針の針目  
小針の針目 3  
両端一分五厘づゝ

割り出し方にて針目を定む之を眞の上より紐丈の中央に重ねて縫代の折山を合せて鏝にて綴ち附け次に紐幅の眞中も厚紙に綴ち附け、或は目打にて印通り穴を明けながら左撚り、右撚りの二本を合せたる太白絲を始裏より通し其兩端を厚紙に綴ち附け、飾り絲の代りにレース或は飾りテツブを附る時は紐の表側に一文字に當て目立たぬ様に綴ち附る。

第十 女袴の疊み方

上部を後前合せて後を出し裾口を右になして下に置き、後の裏を正しく重ね合せ其處と上部とを持ちて之を向に返して前を出し中裏を正しく重ね次に左右の二の裏一の裏を順序に正しく重ね、其上に後前の紐を丈の中央までに十文字に重ね合せ、紐丈の残りは横に平に疊み丈を三つ折になし置くべし。

門留の仕方



第十一 男女袴相引門留の仕方

始め裏より針を出し前布と後布に掛けて一分五厘位の針目に三度程絲を渡し其絲の續きを圖の如く向ふより廻わして左の方に輪を作り、右の方より先に渡したる絲を抄ひて輪の上に出し之を能く引しめ斯の如く順次手前の方に縫り、中央にて二針位布地を共に抄ひて手前の端まで縫り、裏に抜き出して留めるべし。

第十二 男袴仕立上り寸法割り出し

着物の着丈の凡そ十分の六  
紐下の凡三分の二

後幅  
腰幅  
襠の高さ

脇幅  
前寄襷幅

前紐附幅  
前襷幅

腰板高さ  
附菱幅

紐下の凡三分の一に八分を加ふ

後幅の四分の三に五分を加ふ

相引の高さより凡一寸を減ず(子供物は二寸を減ず)

後幅の五分の三

上後幅の十分の一 下後幅の五分一

脇幅の四分の一

後幅と同寸

上腰幅の六分の四(六分の一を左右にて裁ち落す) 下腰幅と同寸

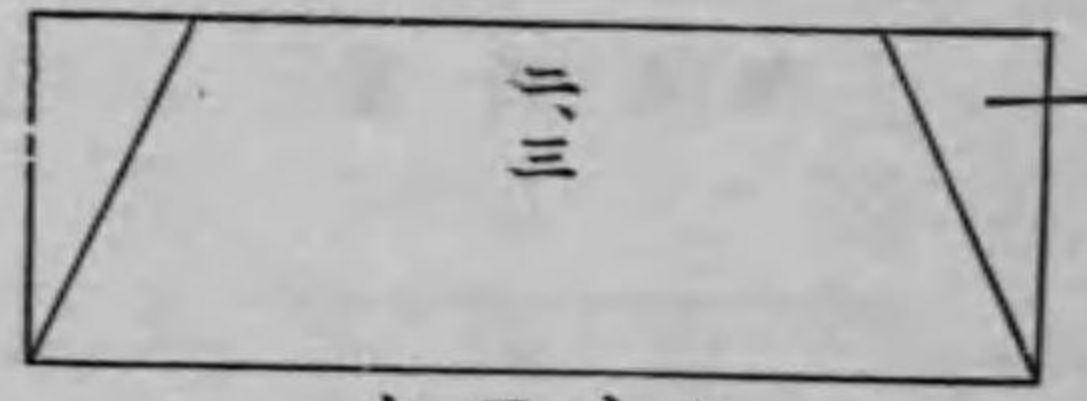
腰幅の三分の一に一分を加ふ

腰幅の三分の一に一分を加ふ

腰幅の三分の一に一分を加ふ

腰幅の三分の一に一分を加ふ

方裁の板腰

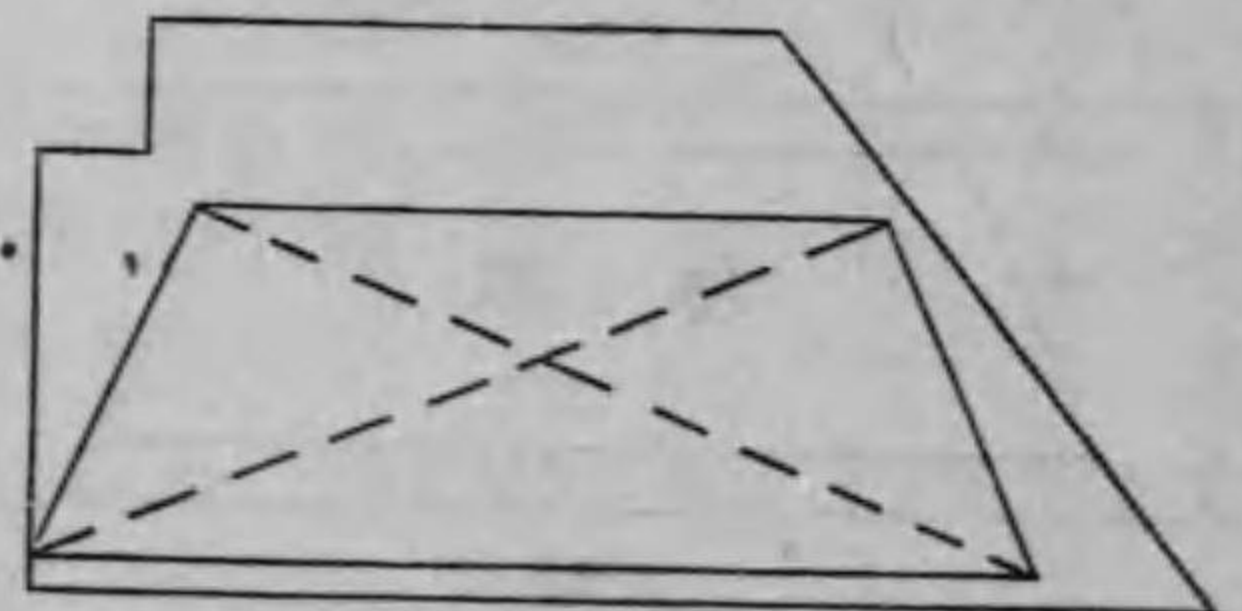


分五寸六

腰幅の六分の

附菱高さ

圖つ裁を板腰にて紙厚るな確正不

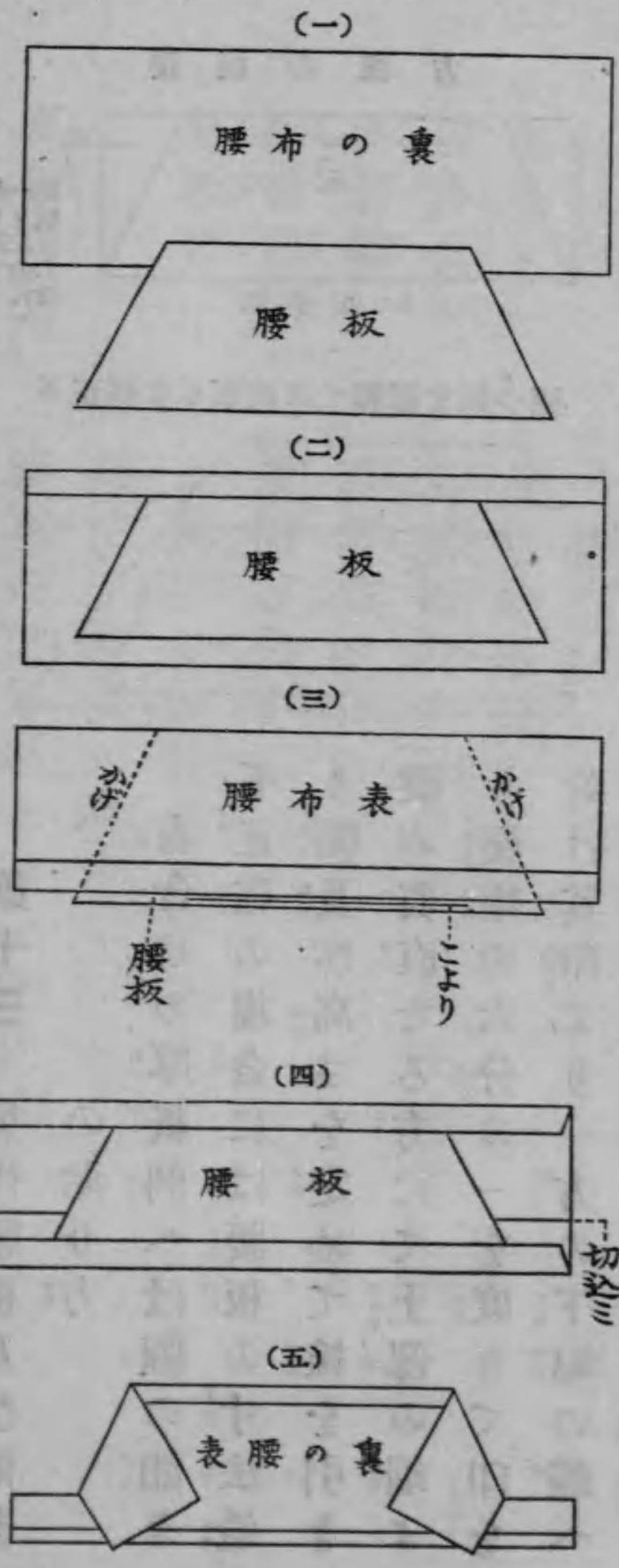


腰板の斜の寸法の二分の一に一分を加ふ

第十三 男袴腰板及び附菱

圖中點線の如く斜に差し渡して寸法を度り他の一方の下幅の端へ  
り斜に同じ寸法に差渡し其處に印を附け次に左とも斜に  
線を引き線通り廻りを裁ち落すべし。

半紙の反古を揉みて鏝にて皺を伸し附菱及び裏腰布の廻りに浅く糊を附け(附菱は向き合に)之を揉紙に貼り置き次に腰板を半紙若くは美濃紙にて二十枚位貼り合せたる板目紙(ポール



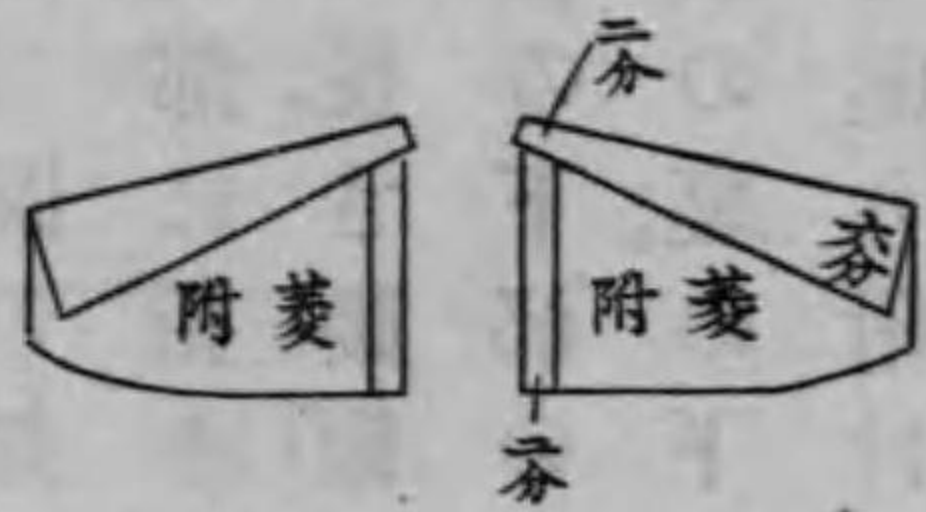
紙にてもよし)にて圖の如く裁ち、上部の裏側に浅く糊を附け、第

一圖の如く腰布の裏の横の布目に正しく當て、貼り表側の下部に五六分糊を附け(絹布類は表に糊の浸み出す慮あれば紙にて軽く拭ひとる)上部より表布を折り返して布目正しく平に貼り、第三圖の如く下部にて厚紙を五厘程見ゆる様になして表布を上部に折り返し、其處に鏝を掛け次に五分幅位の紙を固く捻りて長さ腰幅の二分の一に裁ち切り、其全體に糊を附け之を腰板の下部の五厘厚紙の現れたる處にて腰幅の中央に載せ、腰板紙の裏の下部に糊を附け表腰切を紙捻の上より裏に折り曲げて貼り附け次に下部の兩端にて紐の出來上り幅より一分減じたる寸法の處を第四圖の如く横に切り込みを入れ其上の方を腰板に做ひて斜に折り廻りに糊を附け之を第五圖の如く腰板の裏に貼り附るべし。

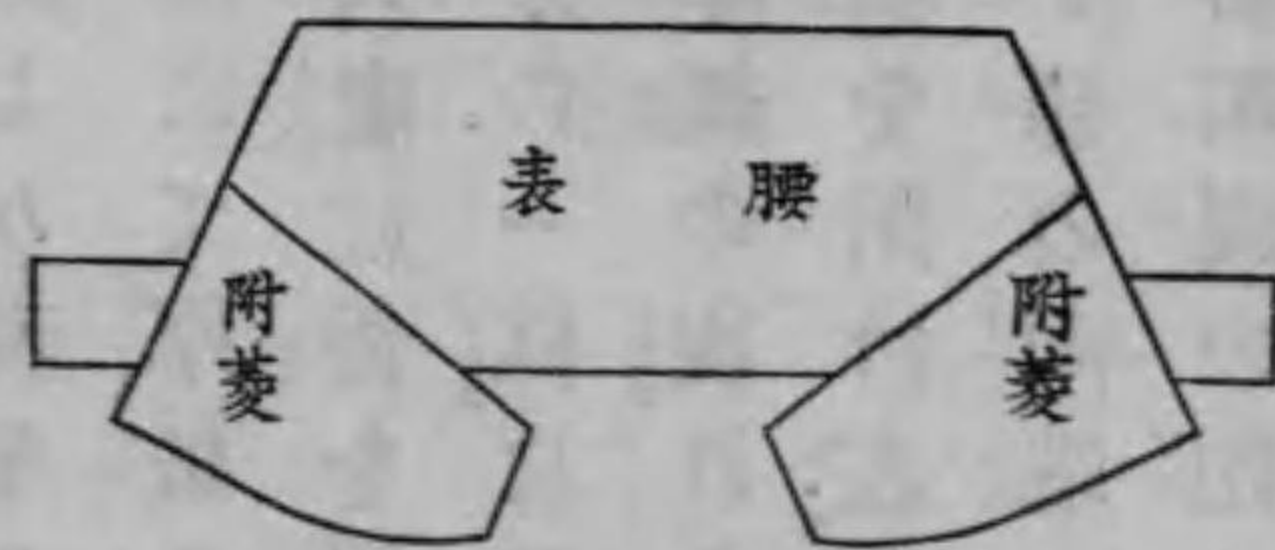
先に貼り置きたる附菱及び裏腰布の廻りを布通りに切り、左右とも附菱の縦を二分真直に裏の方に折り、次に圖の如く其上

(一六)

方り折の菱附

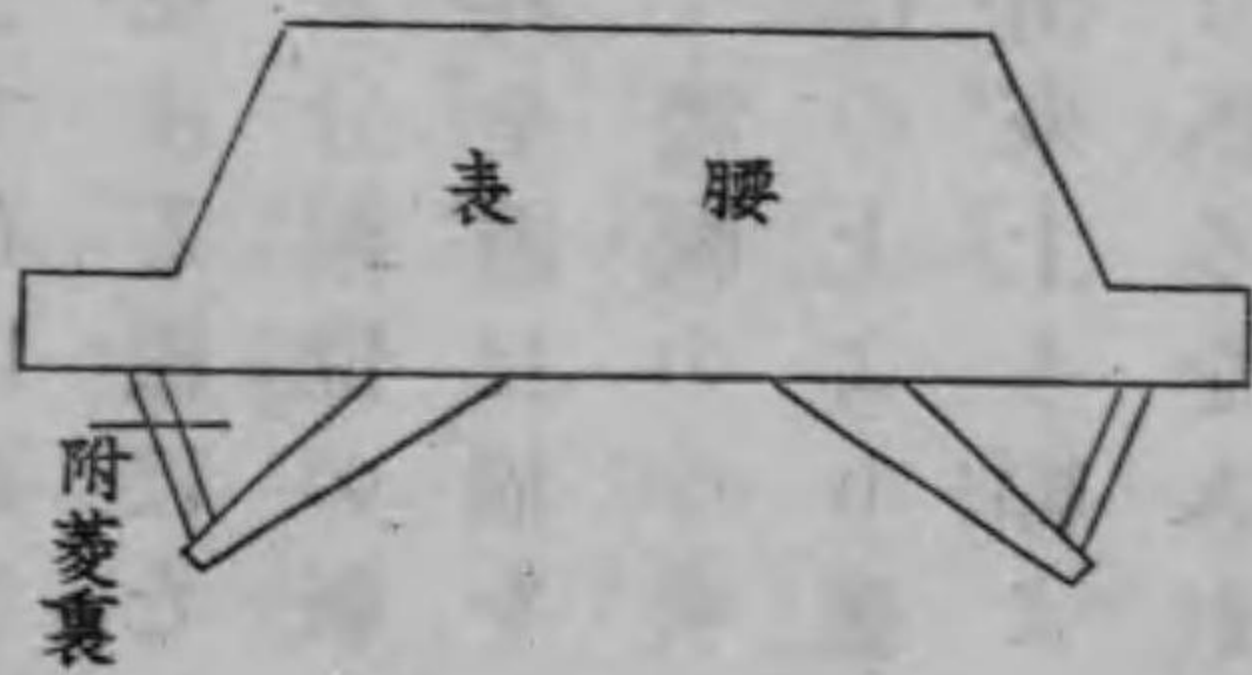


圖るたて當に板腰を菱附



腰板の下に出たる附菱の裏側に糊を付けて腰板の裏に貼る

圖るたけ附り貼てげ曲り折に裏を菱附



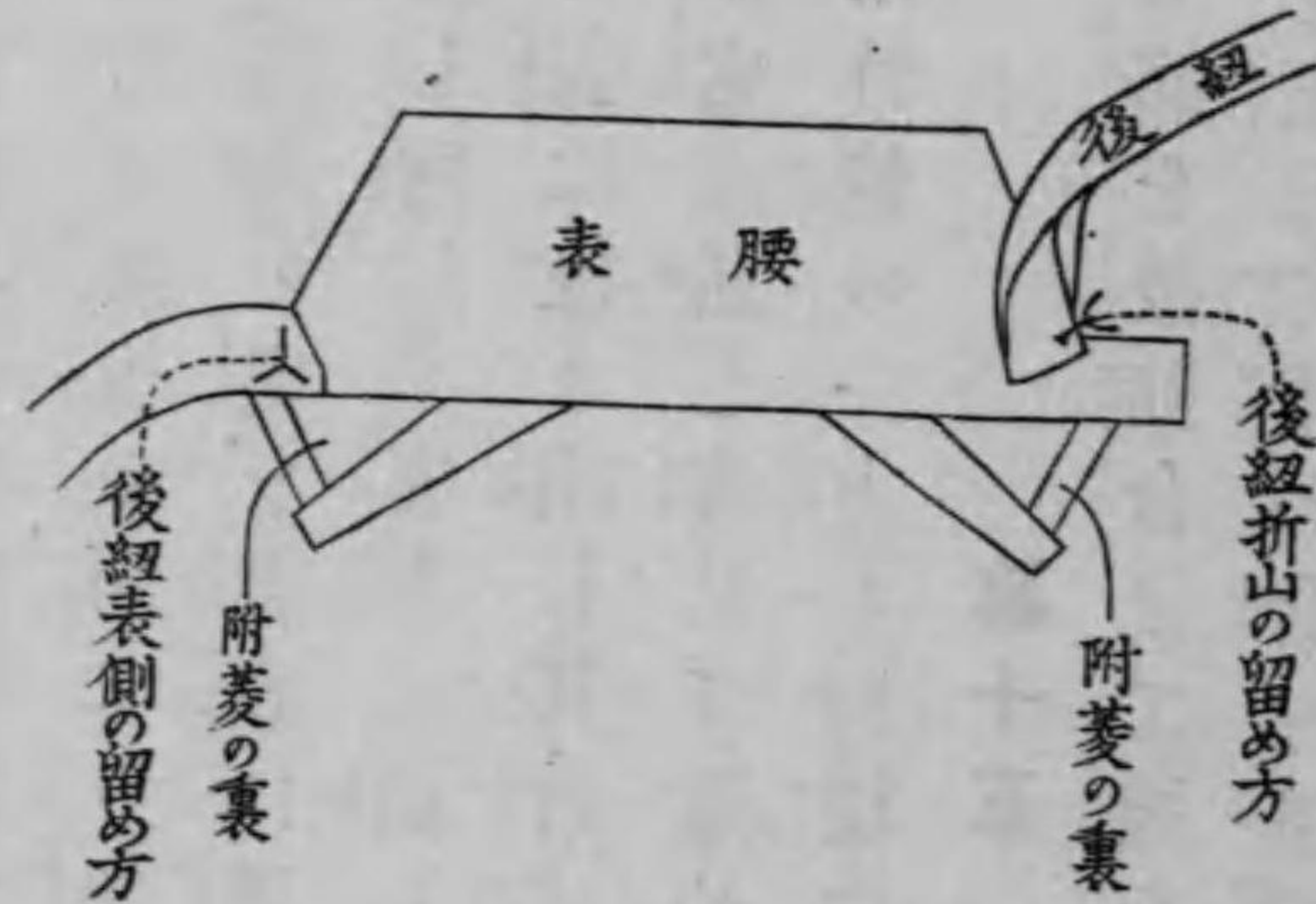
角を二分端を六分位になして裏の方に折り曲げ(附菱の幅は此所に依りて加減をなす)腰板の表を見て下角より斜の二分の一

に一分加へたる處に附菱の角を合せ、其縦の折目と腰板の横端とを揃へて上下待針を刺し、次に附菱の端に糊を付け(紐寄の方

を少しく残す)腰板に做ひて裏側に折り曲げて貼り付け置くべし。

第十四 男袴腰板に後紐の附け方

後紐の附方



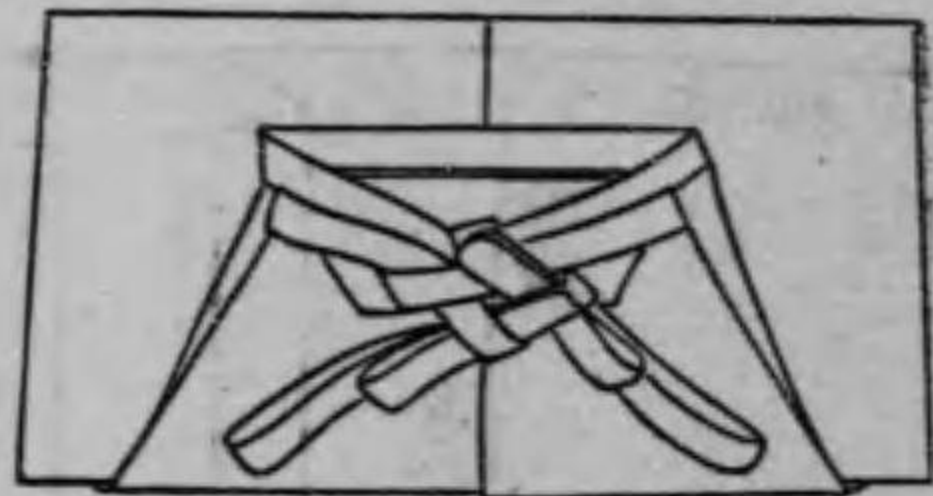
後紐の芯の包みある方を表側にし、て二寸程紵け残したる端より二分入し處の折山を腰板の紐附の切り込みの五厘上に圖の如く當て、二本捻り合せ糸にて腰板と共に一針抜き通し紐山に掛けて再び元の處に通して確と

留め、下の方へ折り返して紐の表側にて表腰を包み(附菱を除く)裏の方は腰板の角より紐を斜に折り込み紐を引き延て正しくなし、其角の處を裏表に通して二三度留め其絲を表より上の角に渡し、同じく裏表に通して二三度留め次に裏より紐の端の處にて表に抜き出し其針にて先に端に渡したる絲を抄ひて之を元の處に通し裏にて留め其絲を一本切りて紐の筋残したる處を紵け他の一方も同様になすべし。

第十五 男袴の疊み方

上部を後前合せて後を出し、裾口を右になして下に置き後の髪を正しく重ね合せ、其處と上部とを持ちて之を向に返して前を出し、後前の間に左手を入れて、脛合せの縫目を手前に折り中髪を重ね、次に左右の二の髪一の髪を順序に正しく重ね、丈を三

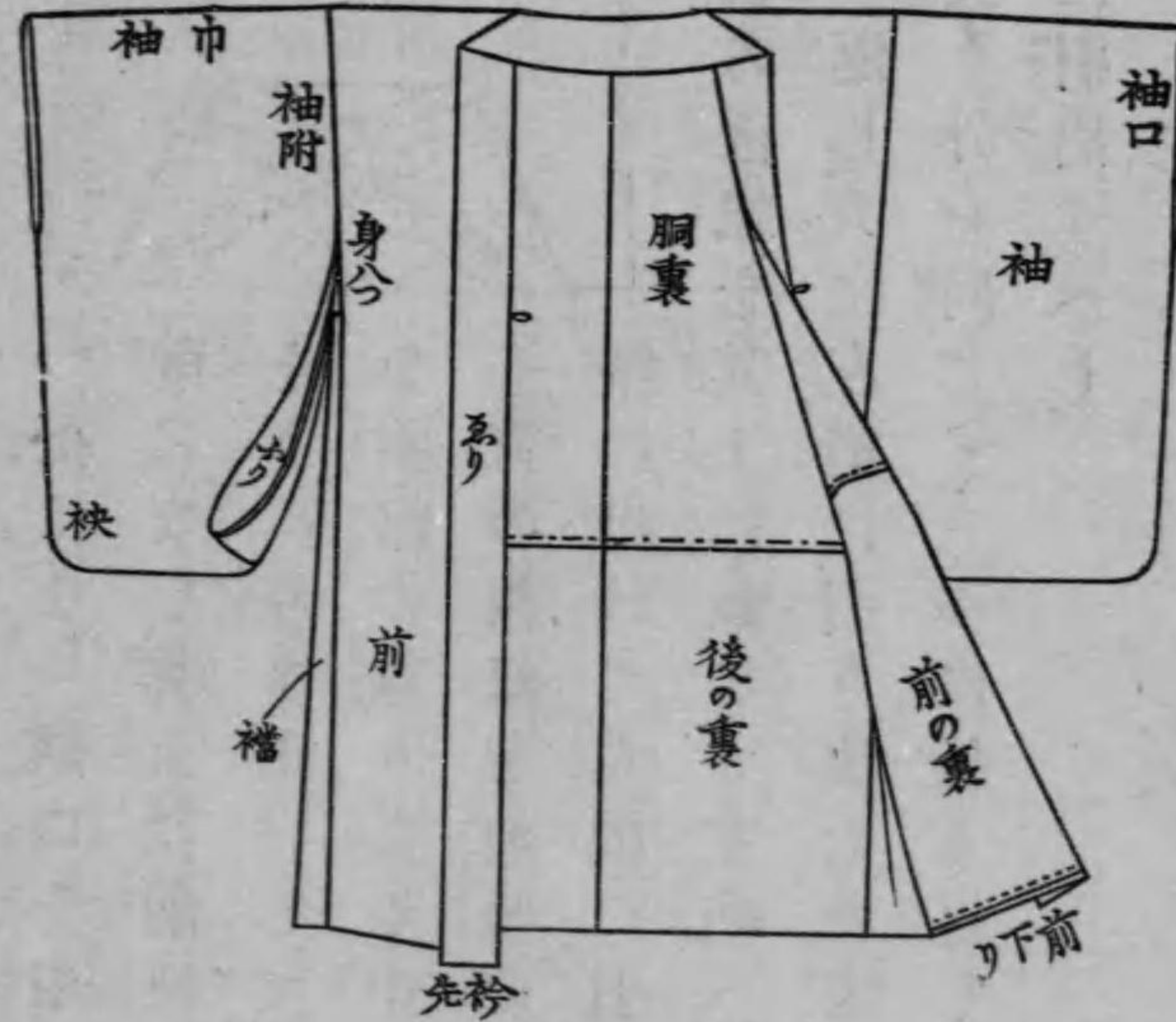
男袴の紐を石疊みにしたる圖



つ折になし、(裾口を相引より二寸上まで)腰板を手前になし、其上に前紐を左右各丈を四つに折り右を下に左を上にして十字に之を重ね、右の後紐を前紐の重りたる中央の向より手前に引き出し一方の後紐を前紐の重りたる右横より先きの後紐に掛けて左横に引き出し先きに手前に引き出したる後紐を其上に載せて左向へ折り紐丈の長さ分を二つに折り返し、次に左横に引き出したる後紐を其上に引き出したる長さ分を同じく二つに折り返し、最初の後紐の間を通して右向に引出すべし。

袴肩明	衿幅	襟幅	襷幅	乳下り	前下り	身八ツ口	後幅	身丈	袖幅	袖附
二分増	同寸	一寸七八分	上四五分 下一寸七八分	脊より凡一尺一寸	一寸	五分減し	同寸	着丈の四分の三に一寸増	同寸	二分増

稱名の部及び圖り上立仕織羽物女裁本

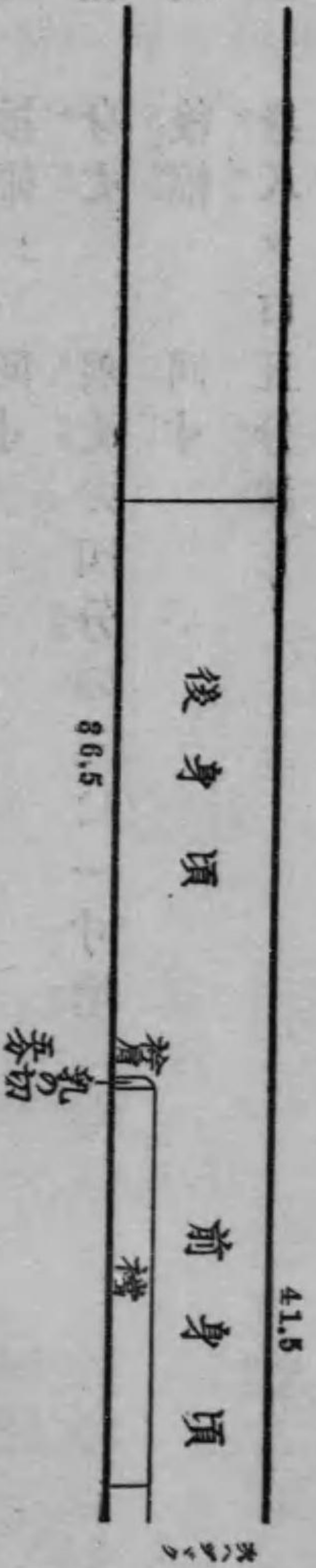


第二章 綿入羽織

第一節 本裁女物  
 第一 普通仕立上  
 各部の寸法は各部の名稱に依り凡そ左の如く増すべし。  
 一 袖口 同寸  
 一 袖丈 又は一寸増

第二 並幅物にて本裁女綿入羽織表の裁ち方

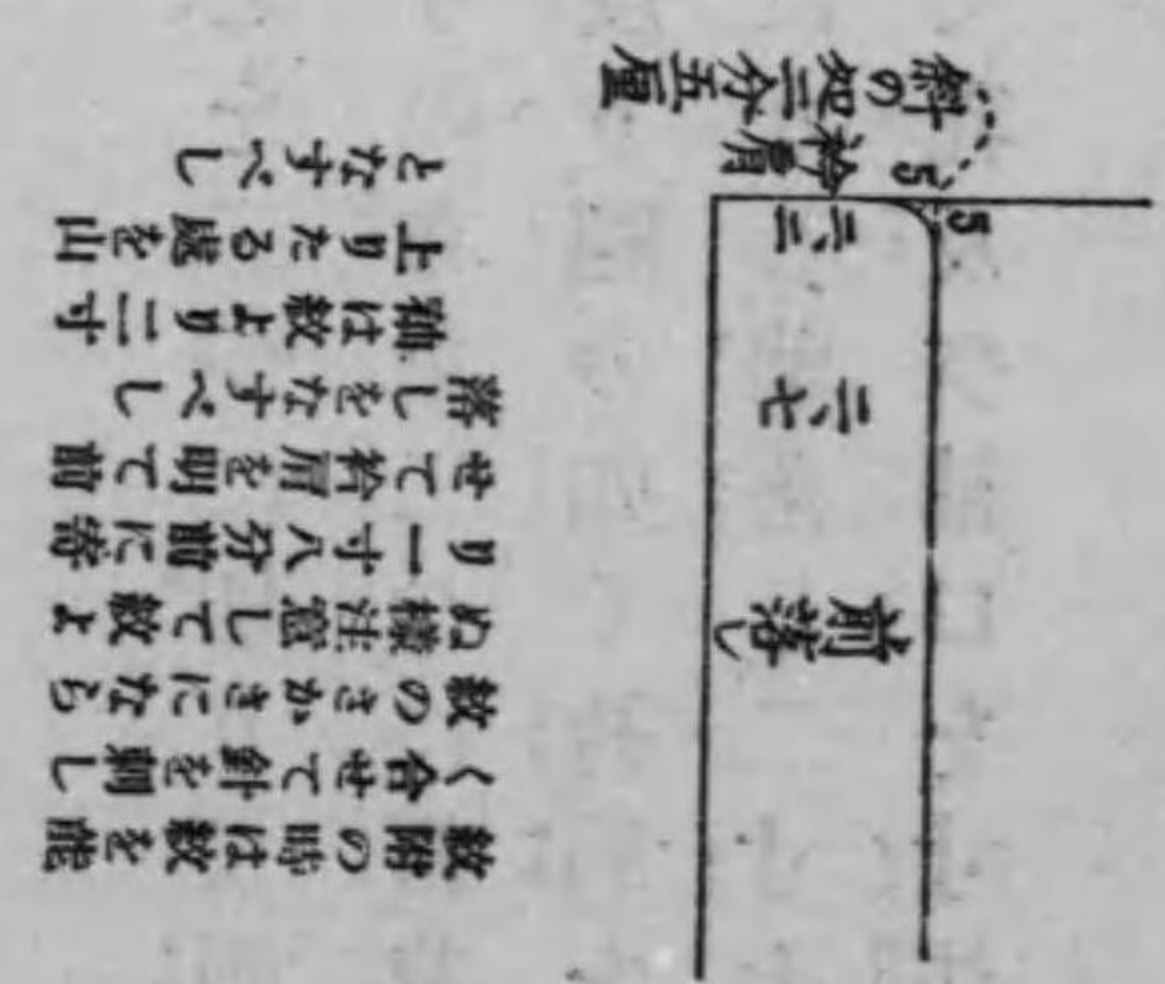
1/25 並幅二丈八尺四寸にて袖丈一尺六寸身丈二尺六寸上りの女綿入羽織表の裁ち方



表地の積り方

袖丈  $16.5 \times 4 = 66$  (26+5)  $\times 2 = 62$  衿丈  
 $284 - 66 - 62 - 5 \times 2 = 146$  衿先の縫代  
 $146 \div 4 = 36.5$  後身丈 衿肩廻し前下り及び  
 $36.5 + 5 = 41.5$  仕立上り身丈  
 後身丈 前後の差  
 前身丈

羽織前の落とし方



紋附の時は紋を能く合せて針を刺し紋のまかきになりぬ様注意して紋より一寸八分前に寄せて衿肩を明て前落としをなすべし  
 襷は紋より二寸上りたる處を山となすべし



切り離し方

一 總尺の中より六尺六寸を切り離し、之を二つに切りて兩袖となし、次に衿の六尺二寸を切り離し、残りの布を二つに折裁目の方より後身頃の丈を三尺六寸五分を度り、圖の如く衿肩を二寸二分切り込み、衿肩廻しの處を五分丸になし、前落し、二寸七分に通し、篋をなし、篋通り裁ち落とし、其布にて乳及び袖口を寸法通り切り離し、残りを襟となすべし。

第三

並幅物にて本裁女綿入羽織裏の裁ち方  
積り方及び切り離し方

1 並幅にて本裁女綿入羽織裏の裁ち方  
25



裏地の積り方

切り離し方

16 × 8 = 128 袖仕  
26 × 10 = 260 身仕

一 總尺の中より六尺六寸を切り離し、之を二つに切り

128 + 260 + 26.4 = 284 = 1304 裏地の積り

て兩袖となし、身頃は篋附の時表に做



ひて前を裁ち落すべし。

總縫代二尺六寸四分の説明左の如し。

一 一尺(衿) 衿肩廻し及び衿先の縫代を二倍したるもの

一 四寸(袖) 表の袖下の縫代五分と裏の袖下の縫代の五分を各四倍したるもの。

一 四寸(身頃)

胸はきの縫代五分を裏表各四倍したるもの。

一 六寸(前下り)

前下りの一寸肩の繰越し一分の二倍縫代三分を加へ之を四倍したるもの。

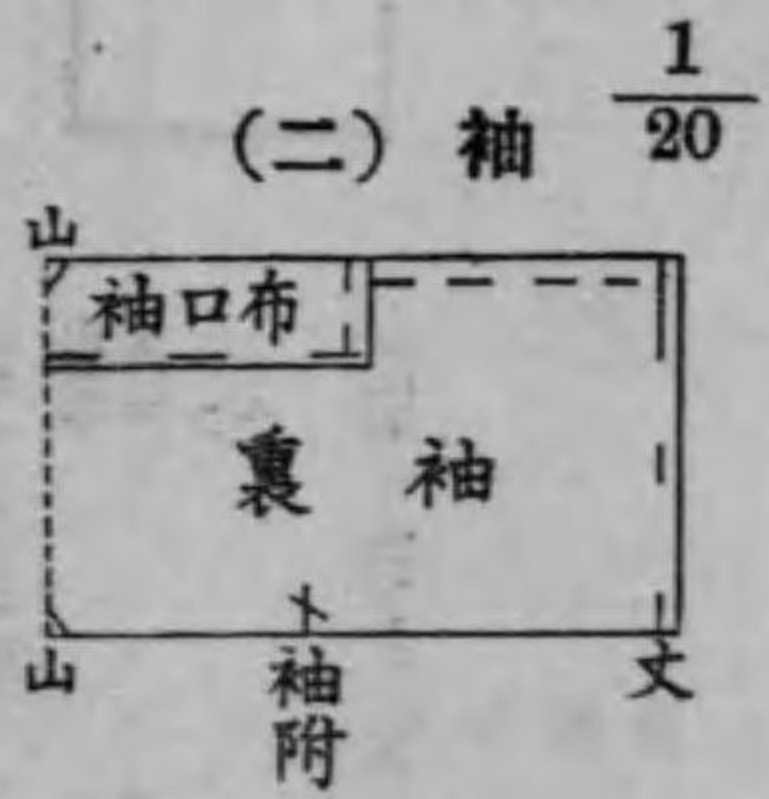
一 二寸四分(三つ衿)

衿附の處の縫代三分を裏表各々四倍したるもの。

二尺幅にて裁つ時は参考の部を見るべし。

第四 本裁女綿入羽織

鏡の附方及び説明



一 表袖を圖の如く山丈袖口袖附袂の丸み等の鏡附をなし、次

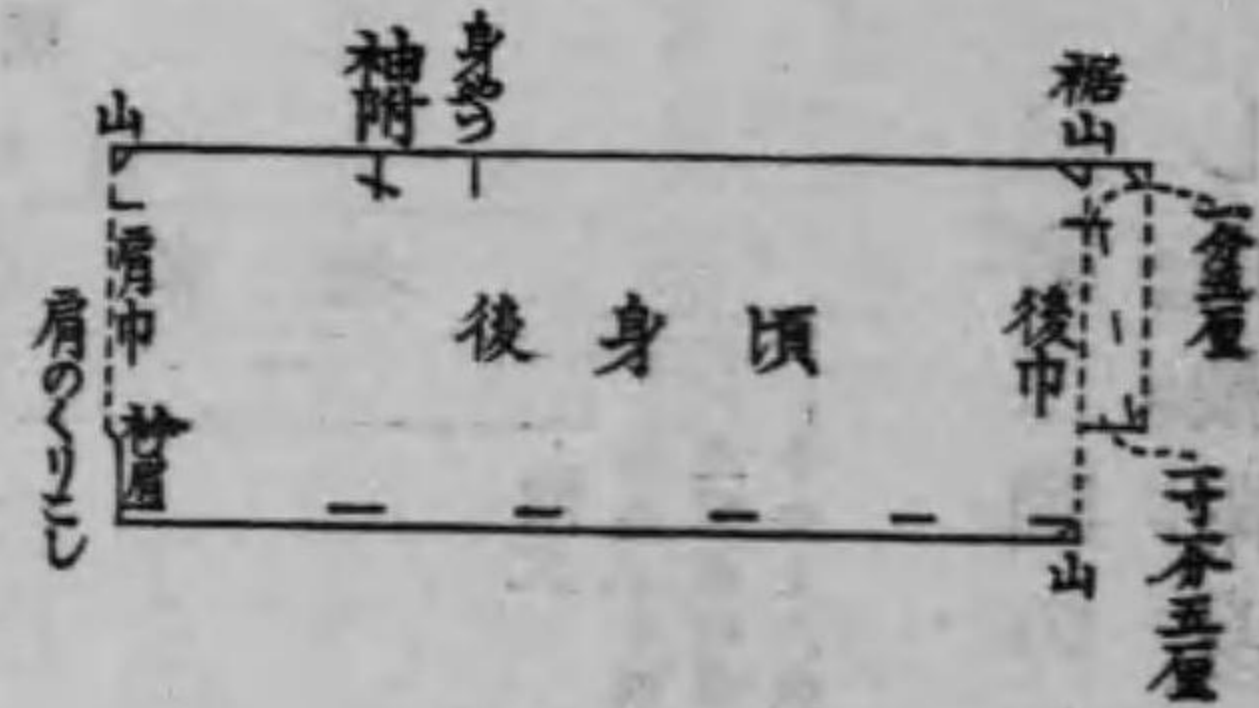
定を丈身せ載を裏胸に上の頃身表  
圖るたし刺を針待し返り折てめ

(一) 頃身 1/20



一へ後を肩てり折につ二を頃身  
圖るた附を鏡のり下前し越繰分

(二) 頃身 1/20



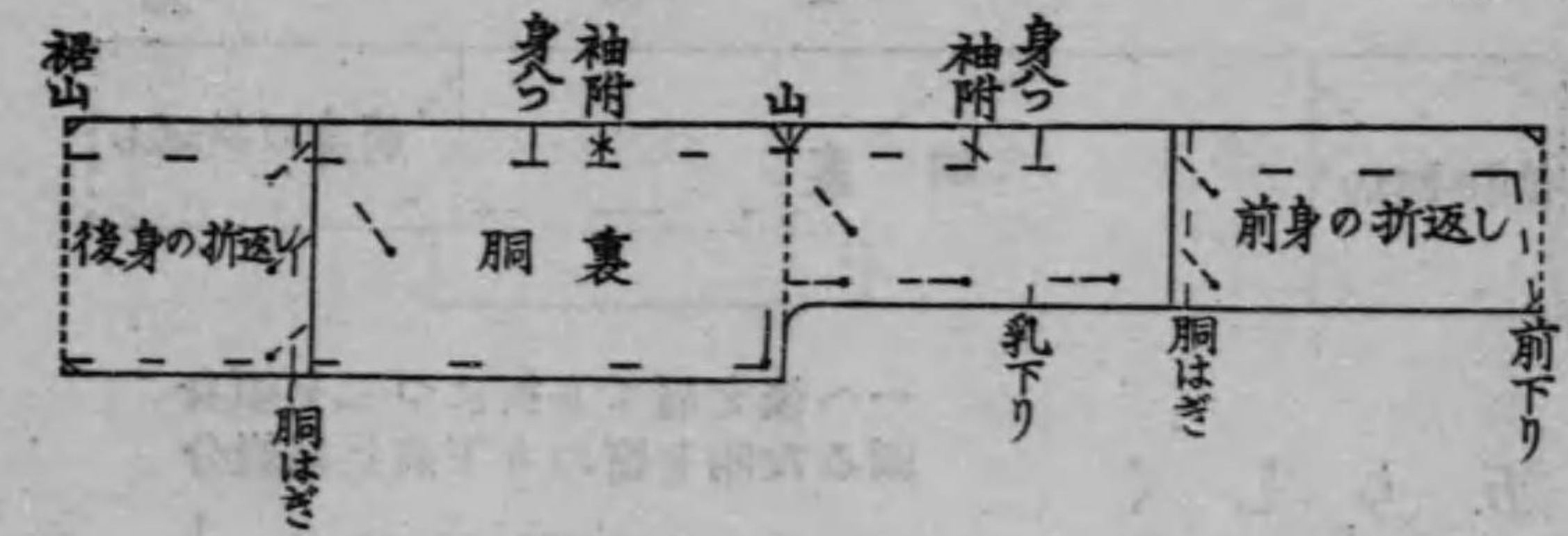
肩の繰越を普通は一分なれども體格により加減すべし又餘り風みたる人は普通より少しく減すべし

に裏袖も表袖の順序に倣ひて鏡附をなしたる後袖口布を其上に載せ、圖の如く鏡附をなすべし。

一 表身頃を二枚合せて、第一圖の如く衿肩を自分の手前になし、後身頃を左になして仕立上り身丈に三分加へたるものを度り、其所より裏に折り返し、前身頃後丈に一寸五分加へたるものを度り、其所より裏に折り

後身頃を開き身幅は及び乳の下をのり附けたる図

(三) 頃身  $\frac{1}{20}$



山  $\frac{1}{10}$



返し、次に裏布を二つに折り、輪の方を前身頃の折返しの下に入れ、縫代だけ重ねて待針を刺し、裏布に少しにても餘分あらば後に縫込む。平になして圖の如く待針を刺し、後の折返しの下に其端を入れ、次に待針を刺し、次し、山袖附、身やつ、裾山脊の縫代及び肩

幅等の鏡附をなし、裾口にて後幅を度り、前身に掛けて鏡を附け、次に前下りの鏡を、後の裾山より一寸一分五厘と、後幅の處にて、裾山より一分五厘に鏡を附け、差し渡し、其間に鏡を附け、後身頃を第三圖の如く左に開き、前幅、後幅、胸はぎ及び乳下りの鏡附をなし、襷丈を後の裾口より身やつ迄を度り置き、次に裏の衿肩を表に做ひて切り、前も續きに裁ち落すべし。一分表襷を二枚合せ、耳を向ふにして左より襷丈に上部の縫代を二分を加へたるものを度り、残りの方へ折り返し、次に襷裏を二枚合せ、上部を揃へて表襷の上を載せ、折り返しの下に入れ、待針を刺し、裾山の鏡をなし、前附の縫代を裾にて二分五厘に附け、其鏡より襷幅の鏡を附け、襷丈の處にて下幅の中央より後へ三分五厘、前二分五厘を度り

て上幅の篋を附け、それより後前の襠附の篋を附け次に襠接きの篋を附るべし。

第五 本裁女綿入羽織縫方順序

一袖 左右とも表袖を縫ひ袖幅を度りて篋を附け、袂の丸みに鬘を取り、表に返して襷を掛け置き、次に裏袖に袖口を掛け、袖を縫ひ袖幅を度り、袂の丸みの鬘を取り、表に返し襷を掛け置くべし。袖口の掛け方及び丸みの鬘の取り方は着物の巻共通要項に示す。

二身頃 左右とも前下りを表は篋通り、裏は篋より一分五厘下とを合せて待針を刺し前幅の篋の處まで縫ひ、裏の方へ折り隠し襷を掛け、次に前後の胴接きをなし、胴裏の方に折りて襷を掛け、脊縫をなし折を附け、後幅の篋通り折を附け置き、次に左右とも

襠裏をはき合せ、裏の方に折りて襷を掛け、後身頃と後襠附との裾の折山を合せて待針を刺し、身やつ口と襠丈との篋を合せて待針を刺し、其間にも待針を刺し、後身頃を見て襠附をなし、後身の方へ折り、次に前幅の篋通り折を附け、前下りの縫目より表の方へ一分よりし處を裾山となし、前襠附の裾山と合せて待針を刺し、後襠附と同様に前身頃を見て襠附をなし、前身の方に折を附るべし。

三袖附 左右とも裏表の袖幅の篋通り折を附け、身頃の袖附の處にも折を附け、兩方合せて山及び袖附の篋の所に待針を刺し、身頃の山の處にて、折より一分先を撮みて待針を刺し直し、袖附の處までなぞへに身頃を折りて、左右とも袖を附け、袖の方に折を附け振り及び身やつ口を折りて表より襷を掛け、裏袖は身頃

を開きて袖附をなし、身頃の方に折を付け、振り及び身やつ口に綿を含ませ、然る後全體に綿を入れるべし。

四綿の入方は長着の時と同様なれども、裾の處は幅一寸五分位の綿を裾山を中心として載せ、之を折り返し裾綿となすべし。

振りを縫ひて綿を入れるには、此入方は小袖綿にてはちぎれ安き故眞綿を宜しとす。表袖と裏袖を普通に縫ひ、袖幅を度り袖下の縫目を合せて振りを縫ひ、振り綿を裏の方に當て、縫目の處に綴ぢ付け、之を表に返し裏表一所に躡にて綴ぢ置き、身頃を普通に縫ひて身やつ口を袷羽織の如く縫ひ、綿を裏の縫目に綴ぢ付け、袖も袷羽織の如く付け、裏表の後身頃を外側に出して其間に前身頃を皺にならざる様に差し込み、表身頃の後を出して其上に綿を兩脇に少しく出して載せ、裾綿を包み兩脇に出たる綿

を折り曲げて、前身頃の方に入れ置き、肩の裏表の間より兩手を差し入れ、兩方の襠の裾を持ちて引き出し、其手に向ふに差し伸べて、前の裏身頃を出し平になし、裏袖をはねて表の後袖に綿を平に入れ、裏袖を載せ、前袖前身頃と順に綿を平に入れ、普通綿入の如く表に返し、前も同様になすべし。

第六 本裁女綿入羽織方順序

一 裾口の處にて綿の動かざる様に躡にて假綴ぢをなし、前襠を裏表合せて中綴ぢをなすべし。

二 袖口に袖を含ませ、口明の處を四つ當になし、袖口を紘け、其絲にて續きに袖口下の縫込を裏表綴ぢ、次に前後の袖附及び身やつ口を續に振りを紘け、其絲にて袖下の縫目を裏表綴ぢるべし。

三 衿附の處を裏表合せて鏝にて綴ち、前下りの處にて裏の幅を少しく弛ます。次に乳の布を幅四分長さ一寸二分に切り共通要項に示す如くなして折り、乳下りの處に左右とも裏の方に上向になして四五針綴ち附け置くべし。

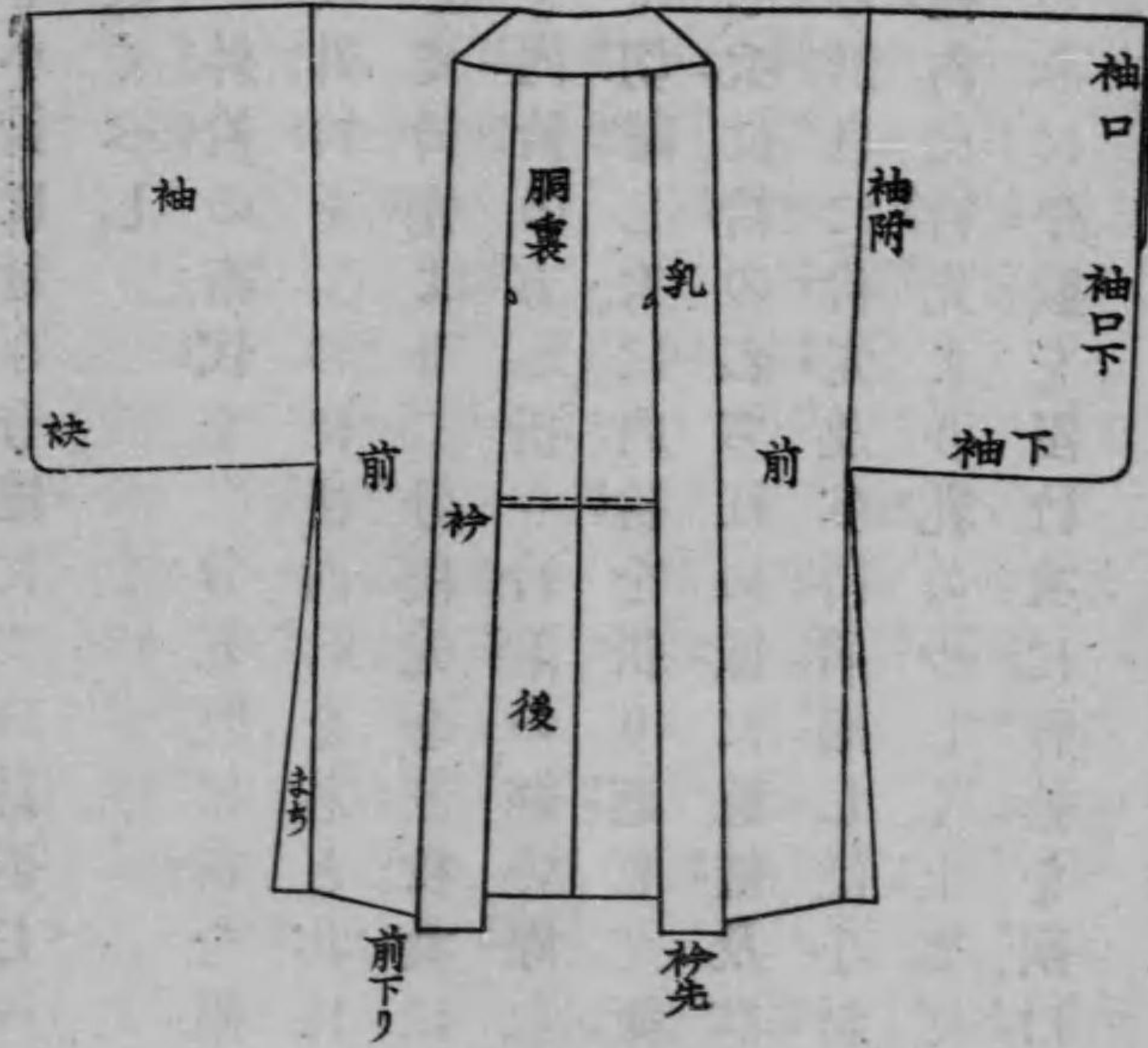
四 衿芯を内衿の幅より五厘狭く裁ち、内衿に包みて綴ち、外衿の輪の方の衿山を裏身頃の脊縫に合せて二分の縫代に待針を刺し、衿肩廻し及び乳下りまでは衿を少しく弛ませて待針を刺し、前下りの處にて前身の縫代を一分五厘程深く待針を刺し、衿丈の筥は左右の釣合を見る爲めなれば、必ず前丈と揃わざるも兩方とも同様になれば、差支なし。衿の附始めの處にて、衿先の縫込の寸法丈を一針ぬきの半返しになし、それより乳の處まで二分位の針目にて一針ぬきになし、乳の處にて三針程返し、衿肩廻しを小針に縫ひ脊縫にて一針返し、一方も同様になし、平鏝を掛け置くべし。

五 外衿の紵代を二分五厘に折を附け、衿先の處にて表を中にして、外衿を二つに折、内衿を芯と共に開き、衿の輪の方を二分程残して、衿先より二分程先を三枚共に一針ぬきに縫ひ、衿先の縫込を内衿の方へ折り、衿附の絲の際にて綴ち、附け、芯を衿丈に揃へて切り離し、次に内衿を折り返して綴ち、附け、表に返して待針を刺し、次に衿のねぢれぬ様に、脇縫及び其間に待針を刺し、二三分位の針目に、衿先及び衿肩廻しは小針に、衿紵をなし、衿を見て三分程内に、衿先より乳の少しく上までは身頃と共に、其より上は衿のみに平鏝を掛け、次に脊縫を裾口より中程まで裏表綴ち合すべし。

第二 並幅物にて本裁男綿入羽織表の裁方

袖幅	身丈	後幅	前下り	乳下り	襟幅	衿幅	衿肩明
同寸	凡四分の三	同寸	一寸	脊より凡一尺一寸	二寸	同寸	二分増し

本裁男羽織仕立上のり及及び各部の名稱



第二節

本裁男物

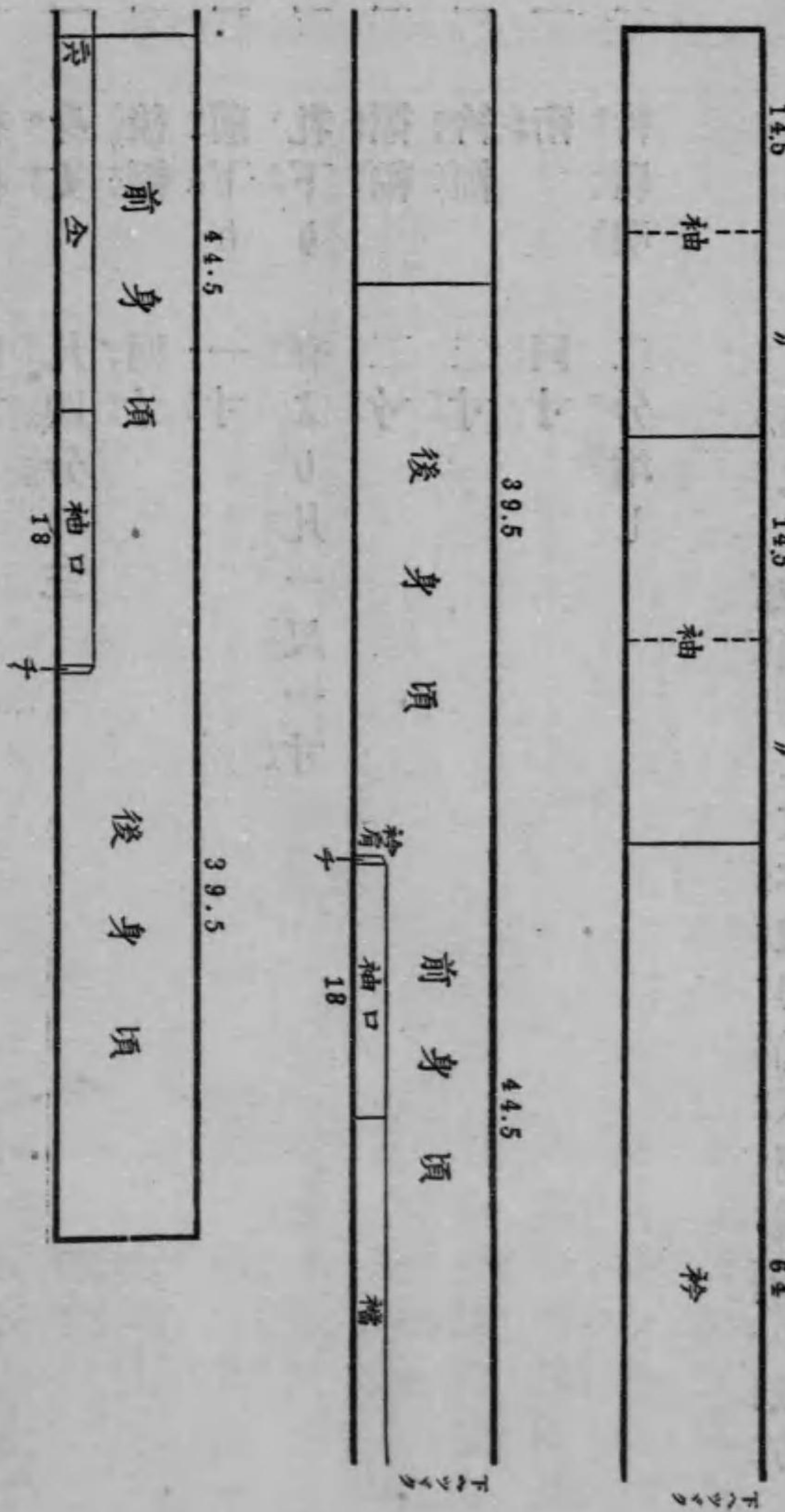
(三六)

第一 普通仕立上

各部の寸法は長  
 に各部の名稱並  
 り寸法及び圖並  
 第一 普通仕立上  
 凡そ左の如く増  
 減すべし。  
 袖丈又は一寸  
 袖口 同寸  
 袖附 同寸  
 袖丈と同寸

125

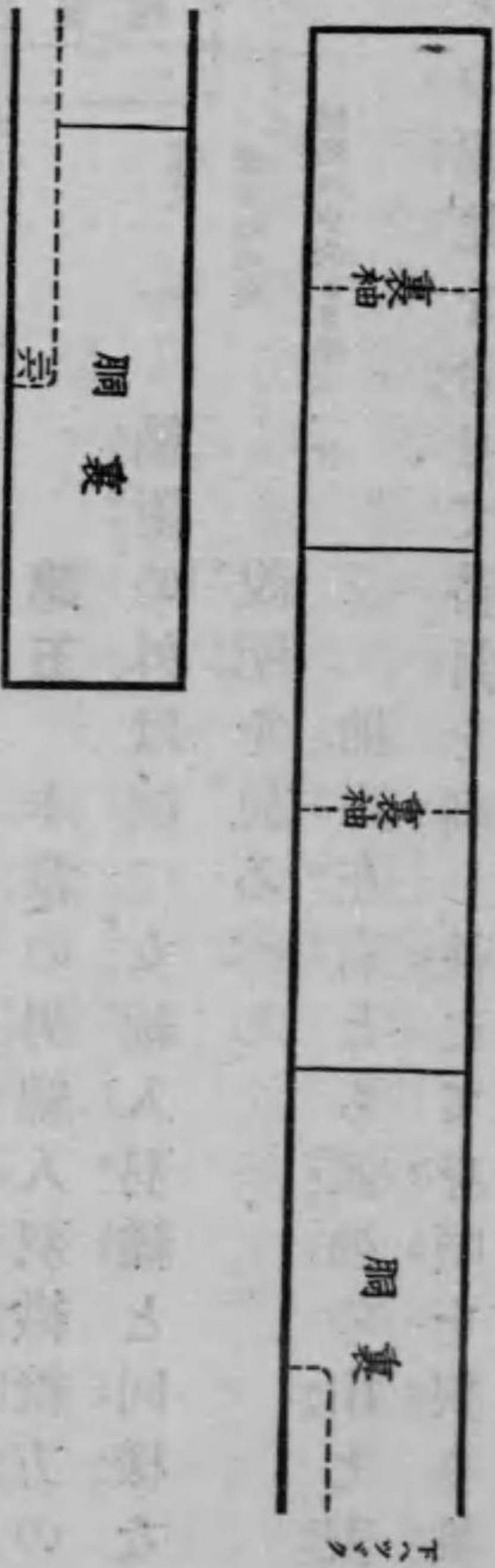
並幅一反(二丈九尺)にて袖丈一尺四寸身丈二尺七寸上りの男綿入羽織表の裁ち方



第三 並幅物にて本裁男綿入羽織裏の裁ち方

125

並幅ものにて男綿入羽織裏の裁ち方



第四 本裁男綿入羽織袴の附方及び説明

一 袴の附方は、概ね本裁女綿入羽織(身やつ口の袴を除く)と同様なれば其圖を略し、袴の袴の附のみを示す。

一 袴を女綿入羽織と同様に置きて裾山の袴をなし、袴丈を度





りて篋を附け、前襠附の縫代を裾口にて二分五厘に附け、其篋より襠幅の篋を附け、襠丈の所にて下の中央を前襠附の上部の篋となし、其篋より後へ一分度りて上幅の篋を附け、それより前後の襠附の篋を附け、次に襠はきの篋を附るべし。

第五 本裁の男綿入羽織縫方の順序袖附の外は總て女綿入羽織と同様なれば、其説明を見るべし。

二 袖附左右とも表袖の山と、表身頃の肩山との幅篋を合せて待針を刺し、袖にて身頃を狭み袖附の篋の處を浅く抄ひて四つ留になし、夫よりなぞへに身頃を折り、袖の方を見て附の始め終りを返し縫になし、山の處を一針返して

袖を附け、袖の方へ折を附け、裏袖も表袖と同しく篋を合せ、兩方とも開きて待針を刺し、身頃にて袖を狭みて四つ留をなし、袖を附け、身頃の方に折を附け置くべし。

綿の入方及び紵方順序等總て女綿入羽織と同様なり。但し乳の附方は、向を女物と反對になすべし。

第三節 四つ身

第一 普通仕立上り寸法

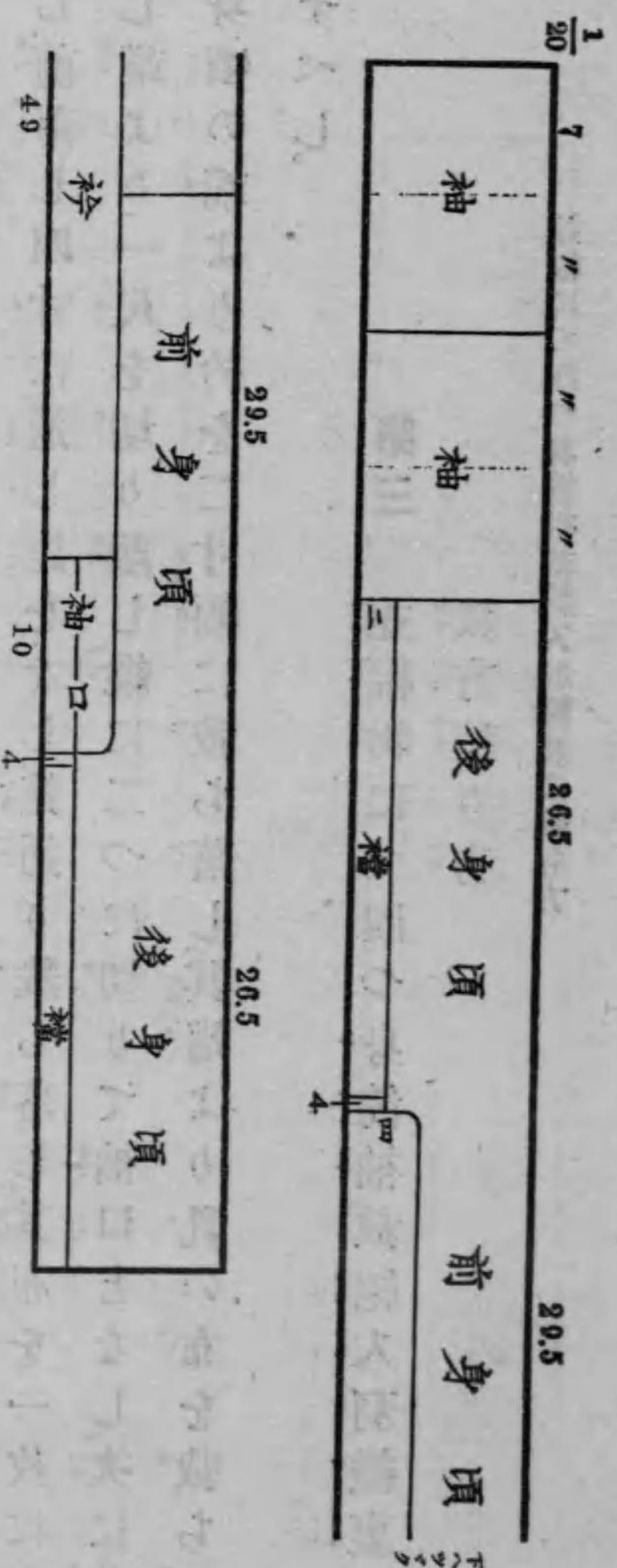
各部の寸法は長着の寸法により、凡そ左の如く増減すべし。

- 袖丈 同寸又は一分増
- 袖口 同寸
- 袖附 二分増し
- 袖幅 同寸

身丈	着丈より三寸位減ず
後幅	同寸
身八つ口	五分減じ
前下り	六七分
乳下り	身八つ口の中程を標準とす
襠幅	下一寸四五分 上五分
衿幅	一寸四五分
衿肩明	二分増し

第二 並幅半反にて四つ身筒袖裁綿入羽織表の裁方積り方及び切り離し方

並幅半反(一丈四尺)にて身丈二尺一寸  
袖丈六寸五分上りの四ツ身筒袖綿入羽織表の裁ち方



積り方

袖 7 × 4 = 28  
 前後の差 140 - 28 - 3 × 2 = 106  
 26.5 + 3 = 29.5  
 106 ÷ 4 = 26.5

(21 + 3.5) × 2 = 49  
 前出の及前下層の縫代先リ層  
 身丈上 衿丈

長袖になすには、尺を多く用ふるのみにて、裁方は同様なれば

略す。

切り離し方

一 總尺の中より二尺八寸を切り離し、之を二つに切りて、兩袖となし、残りの布を二つに折り、裁目の方より後丈二尺六寸五分を度り、衿肩を三寸八分に切り込み、衿肩廻しの處を二分丸になし、前落し四寸に通し、篋をなし、篋通り裁ち落し、其布を一枚になし、端より一尺を切り離し、縦に二つに切りて袖口となし、次に後身頃の端より衿を二寸幅に裁ち落し、其端より乳の布を裁ち落すべし。

第三 並幅物にて四つ身筒袖裁綿入羽織裏の裁方積り方

並幅にて四つ身筒袖裁綿入羽織裏の裁ち方



積り方

$$(6.5 + 21) \times 8 + 15.2 = 235.2$$

身立丈上 總縫代  
 身立丈上 縫代  
 尺の總 布厚地用  
 $235.2 - 140 = 95.2$   
 用布九尺五寸二分

切り離し方

表に倣ひて裁ち切るべし  
 又本裁の如くなして衿肩を二寸明け脇にて縫ひ込み置く時

は残り切も出ず永く用ひ得べし

總縫代一尺五寸二分の説明左の如し。

一四寸(袖)

表の袖下の縫代五分と裏の袖下の縫代五分を各四倍したるもの。

一四寸(身頃)

胸はぎの縫代五分を裏表各四倍したるもの。

一四寸八分(前下り)

前下り七分肩の繰越し一分の二倍縫代三分を加へ之を四倍したるもの。

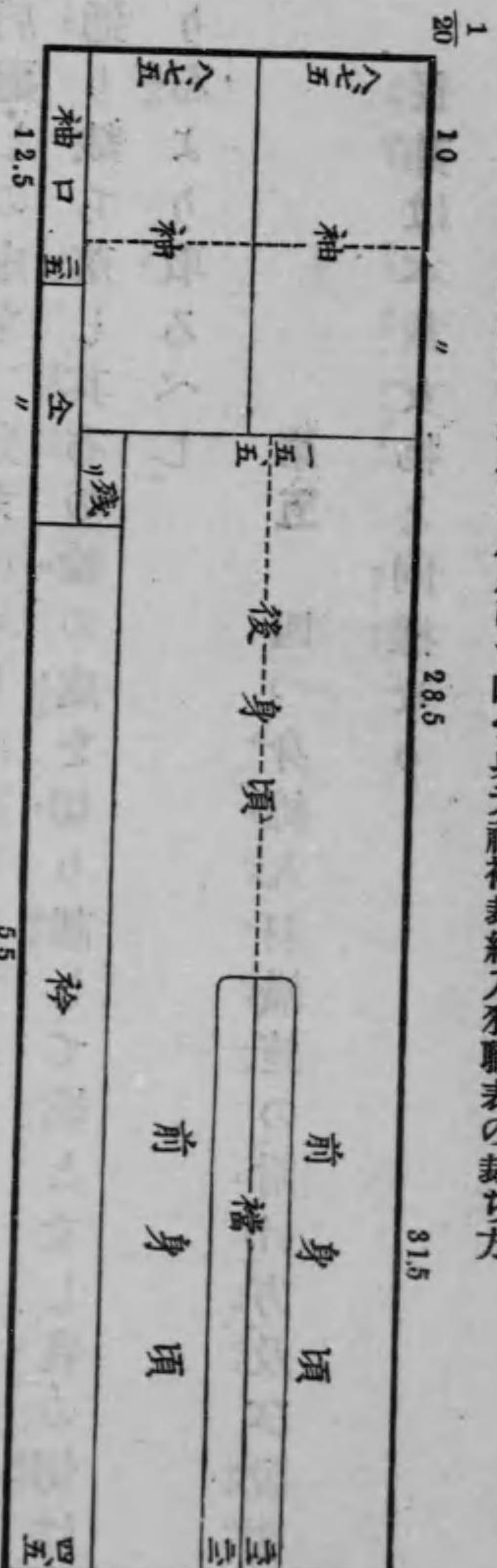
一二寸四分(三つ衿)

衿附の處の縫代三分を裏表各四倍したるもの。

第四

大幅物にて四つ身元祿袖裁綿入羽織表の裁方積り方及び切り離し方

メリンズ大幅(二尺)長さ八尺にて四つ身元祿袖裁綿入羽織表の裁ち方



積り方

$$\begin{matrix} \text{袖丈} & \text{袖尺} & \text{前後の差} \\ 10 \times 2 = 20 & 80 - 20 - 3 & = 57 \end{matrix}$$

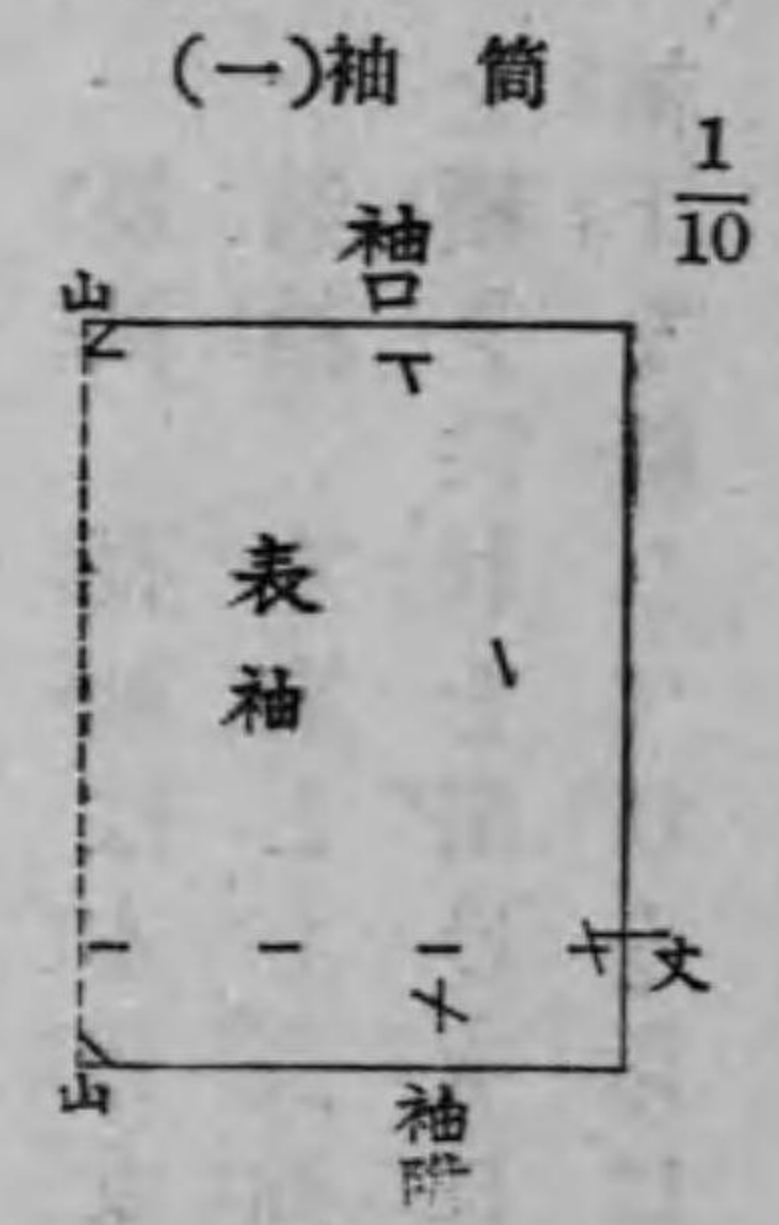
$$\begin{matrix} \text{後丈} & \text{前丈} \\ 57 + 2 = 28.5 & 28.5 + 3 = 31.5 \end{matrix}$$

切り離し方

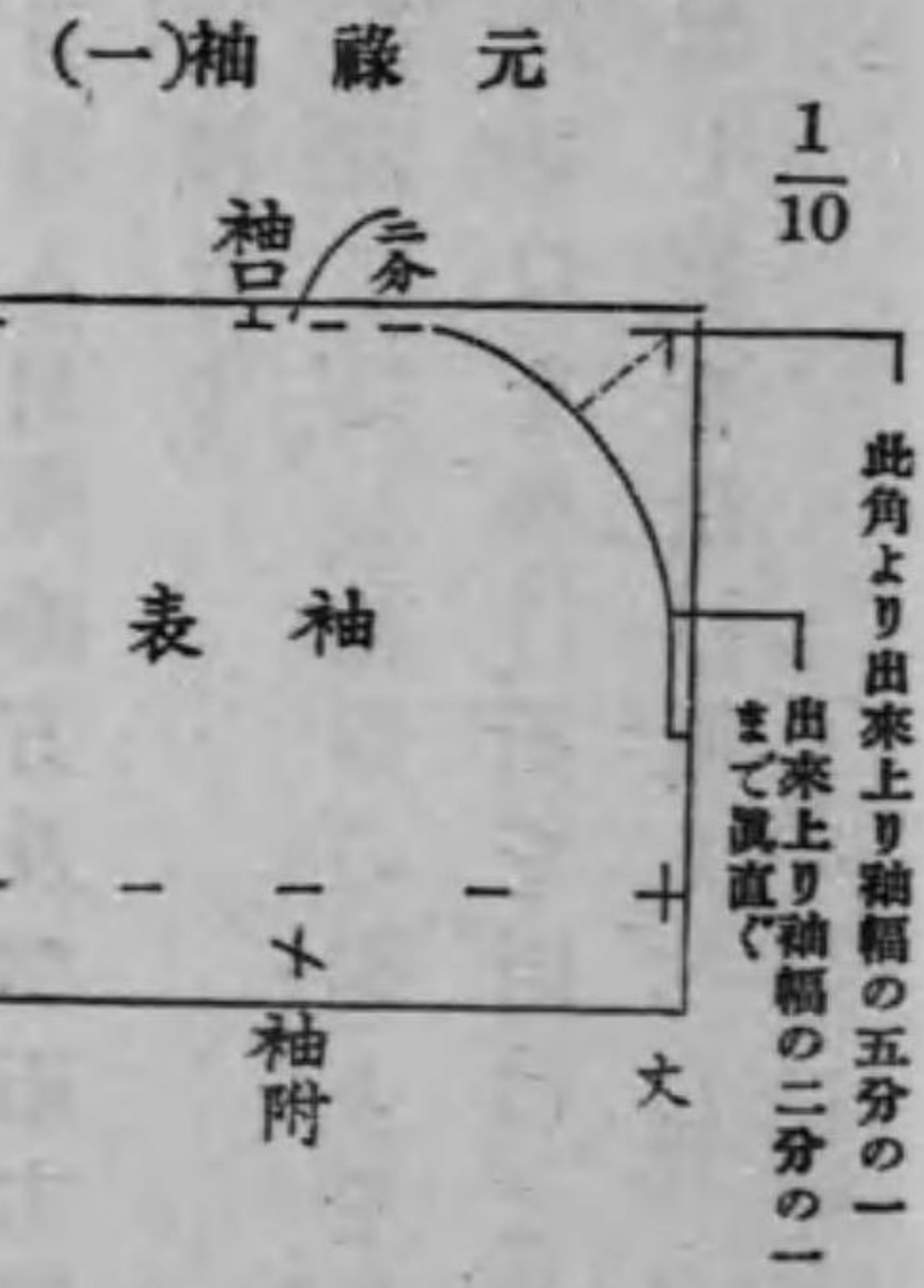
一 總尺の中より幅二寸五分長さ二尺五寸を切り離し、之を二つに切りて袖口となし、残りの幅より袖の二尺を切り離し、之を縦二つに切りて兩袖となし、残り布を切り込のある方にて、衿を四寸五分幅に切り離し、残り布を切り落とし、次に身頃の布を縦二つに折り、後身丈を二尺八寸五分に度り衿肩を二寸切り込み、衿肩廻しの處を二分丸になし、前落し二寸二分に通し、篋をなし、篋通り裁ち落とし、其布の輪の處を切り離して襟となし、乳の切は残り布より取るべし。

第五 四つ身縮入羽織篋の附け方及び説明

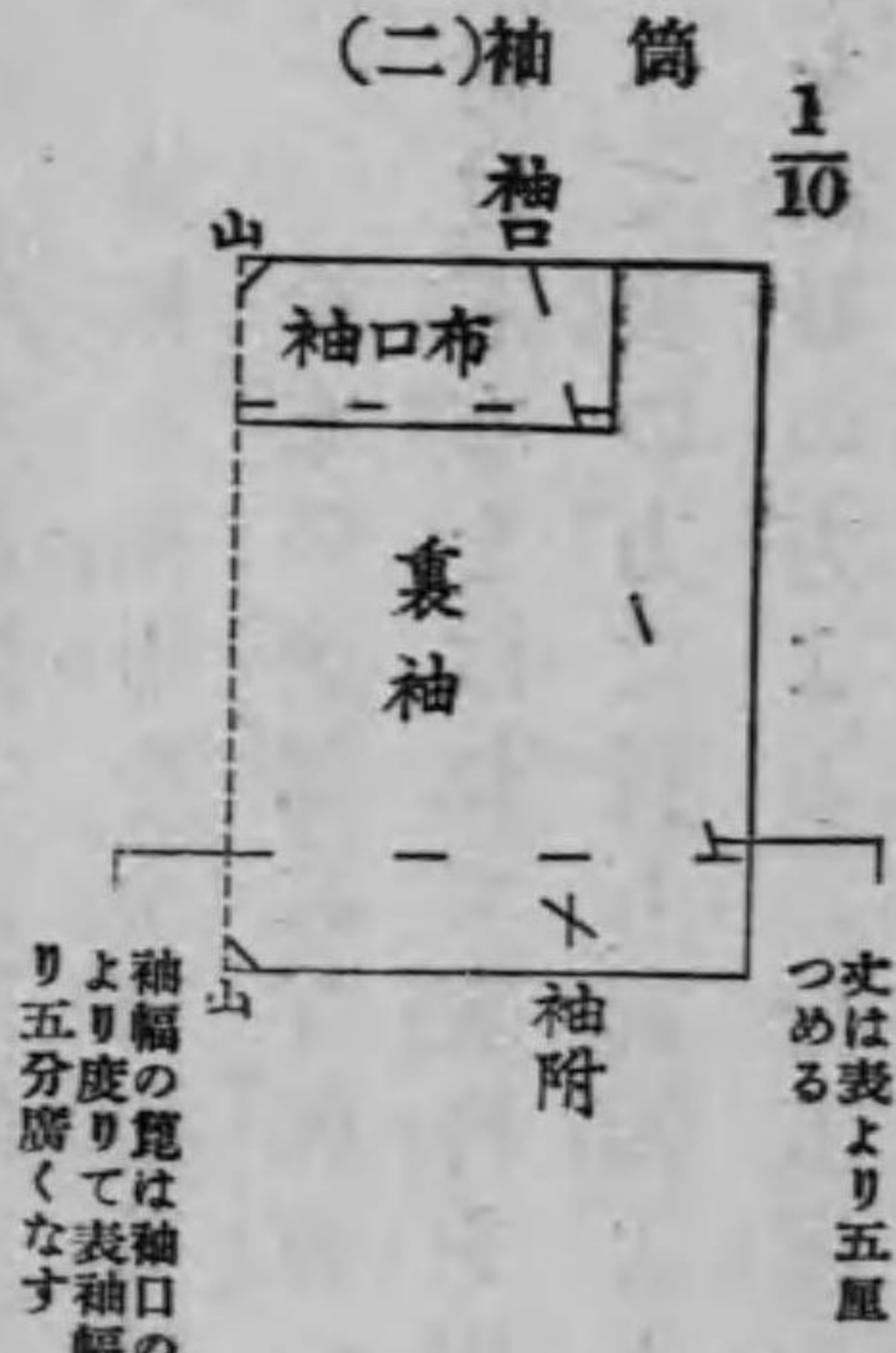
長袖は本裁女物と同様なり。



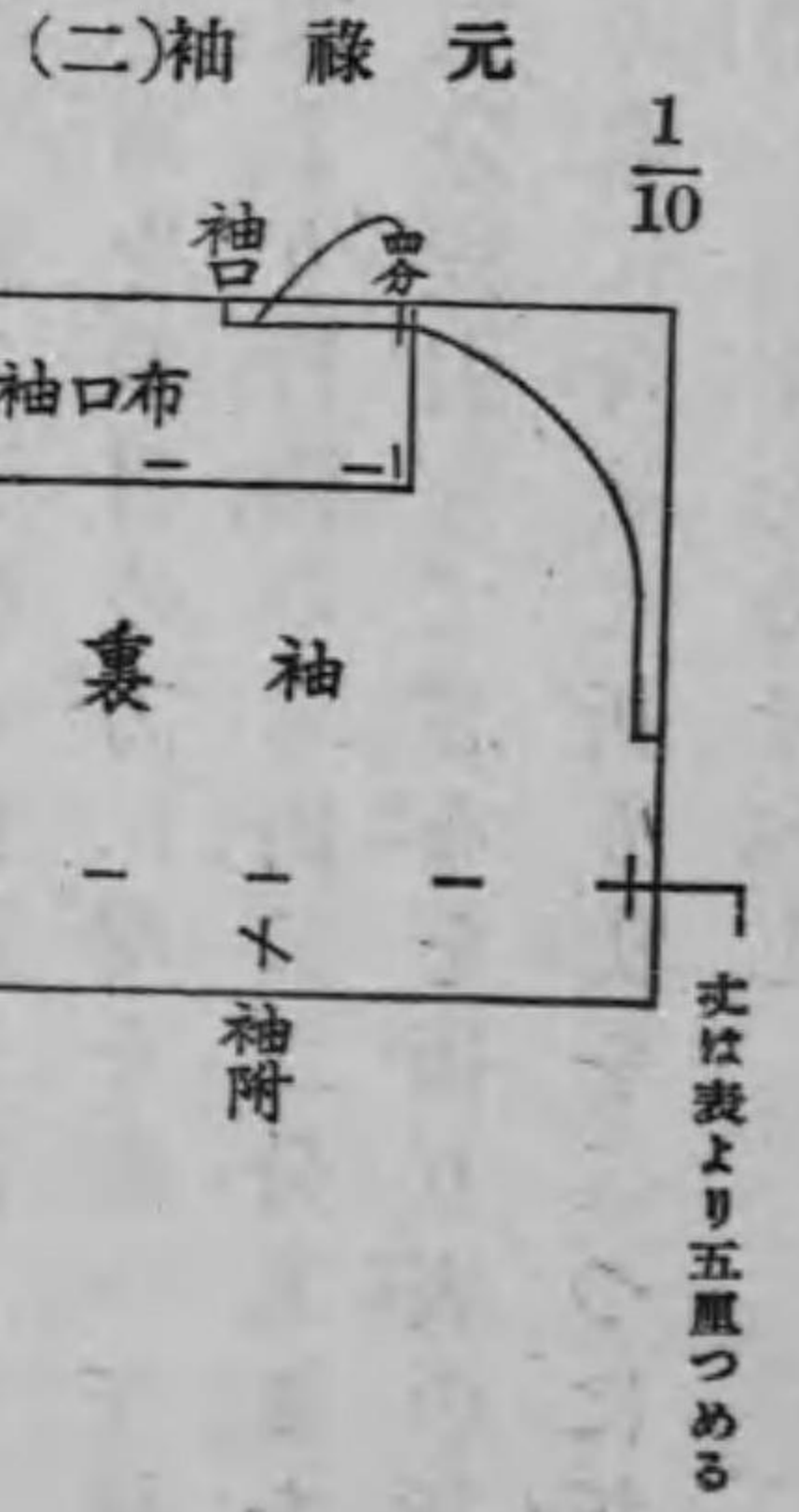
筒附を袖附るを袖の全の時、袖附の丈を袖の法にす



此角より出来上り袖幅の五分の一、出来上り袖幅の二分の一まで直ぐ



袖幅の端は袖口の端より度りて表袖幅より五分廣くならず



袖幅の端は山の所にて幅口の端より度りて表袖幅より五分廣く袖附より下は表袖幅と同寸になす

一 身頃及襟の籠附は本裁女綿入羽織と同様なり。

筒袖の袖附を全部附る時は男綿入羽織の籠附と同じ。

一 衿布の裏側に半幅位の芯布を裁目の方に端を揃へて綴ぢ

附け芯布をはねて表衿を出來上り衿幅の二倍に二分五厘を加

へて裏の方に折り其幅より三分程引ききて芯布を折り表の折山

を裁目の方より二分五厘内の處に合せて折り丈を二つに折り

て本裁の如く山衿肩廻し丈等の籠附をなすべし。

第六 四つ身綿入羽織縫方及び衿方順序

一 長袖は本裁女物と同様なり。

一 筒袖は左右とも表袖を縫ひ丸みの處を小針に縫ひ伸さぬ

袖下を縫ひて折を附け表に返し襷を掛け置くべし。

一 元祿袖 左右とも表袖を縫ひ丸みの處を小針に縫ひ伸さぬ

様に絲こきをなし丸みの襷を取り之を表に返し袖口の廻りを

折りて續きに襷を掛け次に裏袖に袖口を掛け袖を縫ひ丸みの

襷を取り表に返し襷を掛け置くべし。袖口の掛け方及び丸みの

襷の取り方は着物の巻共通要項に示す。

二 筒袖の袖附を全部附る時は襟附袖附等は男物綿入羽織の

如くなし其他は總て女物綿入羽織と同様にして衿は芯布の綴

ち附ある方を身頃に縫ひ附け女綿入羽織に準して衿先を縫ひ

衿芯の薄き時は綿を少しく入れて衿衿をなし肩揚をなすべし。

第四節 三つ身

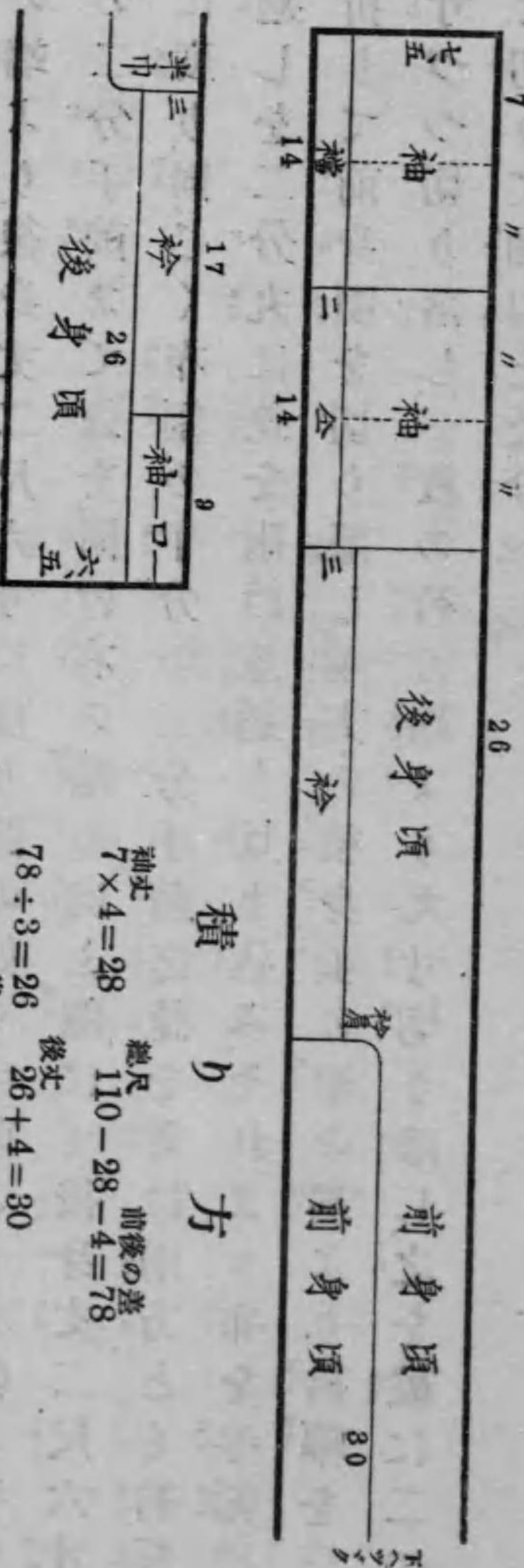
第一 普通仕立上り寸法

各部の寸法は長着の寸法により凡そ左の如く増減すべし。

- 袖丈 同寸又は一分増し
- 袖口 同寸
- 袖附 二分増し
- 袖幅 同寸
- 身丈 着丈より三寸位減ず
- 後幅 同寸
- 身八つ口 五分減じ
- 前下り 五六分
- 乳下り 身八つ口の中程を標準とす
- 襠幅 上五分 下一寸二三分
- 衿幅 一寸二三分
- 衿肩明 二分増し

第二 並幅物にて、三つ身元祿袖裁縮入羽織表の裁ち方積り方及び切り離し方

並幅一丈一尺にて身丈一尺七寸袖丈六寸五分仕立上りの三つ身元祿袖裁縮入羽織表の裁ち方



積り方

袖丈  $7 \times 4 = 28$  袖丈の差  $110 - 28 - 4 = 78$   
 後丈  $78 \div 3 = 26$  後丈  $26 + 4 = 30$  前丈

切り離し方

(此裁方は衿のはぎを目立ぬやうに前掛の下になす)

一 總尺の中より二尺八寸を切り離し、其端より幅二寸を裁ち落して襦となし、廣き方を二つに切りて兩袖となし、残り布の左の端より後身丈二尺六寸に度り、圖の如く手前より布幅の半分の二分手前まで箆を附け、右の端の向ふ側にて後身丈二尺六寸に度り、同じく布幅の半分の二分手前迄箆を附け、兩方とも衿肩廻しを二分丸に箆を附け、箆通り切り込み、それより布を半幅に折りて前身頃を切り離し、兩方の後身頃の幅の端より衿幅を三寸づつ切り落し、一枚の衿の端より九寸切り離し、之を縦に二つに切りて袖口となすべし。

第三 並幅物にて三つ身元祿袖裁綿入羽織裏の裁ち方の裁ち方積り方

一

並幅にて三つ身元祿袖裁綿入羽織裏の裁ち方



積り方

$6.5 \times 8 = 52$

$17 \times 6 = 102$

切り離し方

$52 + 102 + 11 = 165$

$165 - 110 = 55$

表に倣ひて裁ち切るべし

表の用布

裏の用布

一 總縫代一尺一寸の説明左の如し。  
 一 四寸(袖) 表の袖下の縫代五分と裏の袖下の縫代五分を各四倍したるもの。  
 一 三寸(身頃) 洞はぎの縫代の五分を裏表各三倍したる

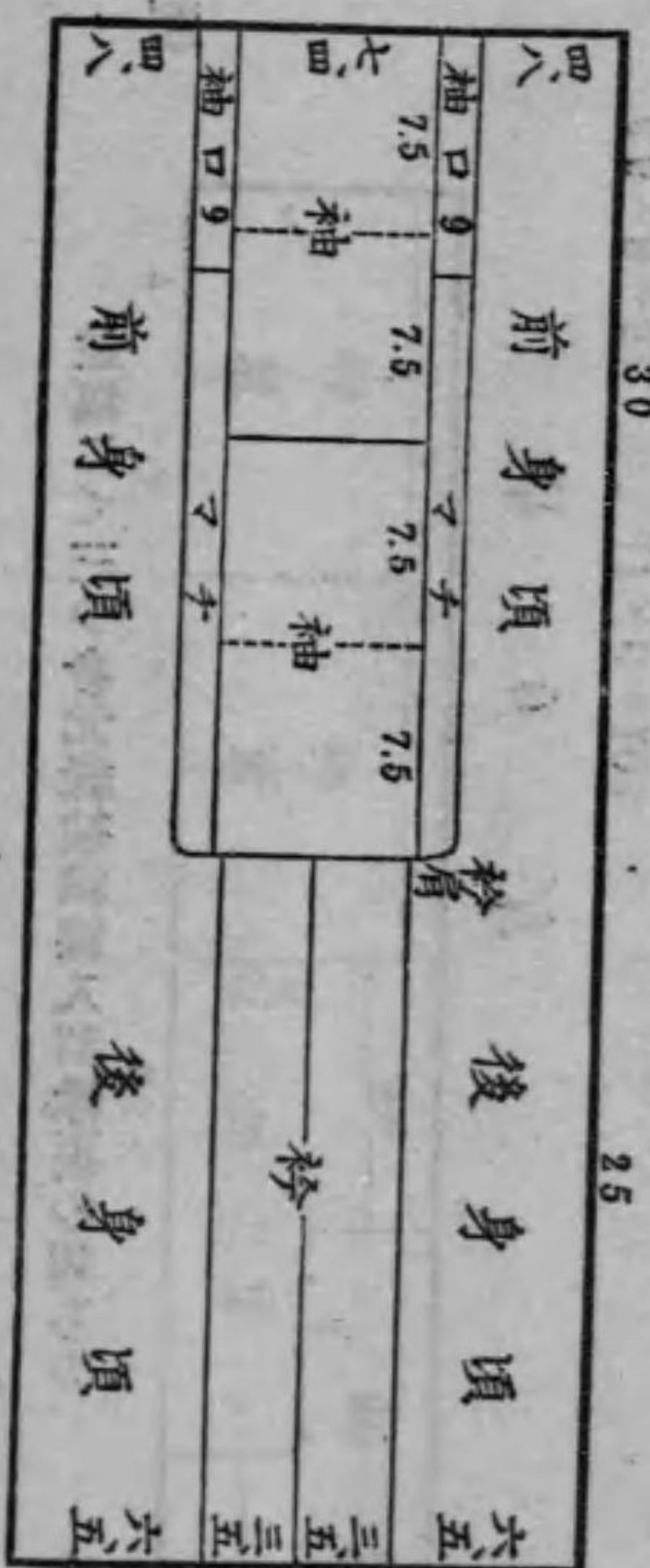


- 一 二寸二分(前下り) 前下り六分、肩の繰越一分の二倍、縫代三分を加へて二倍したるもの。
- 一 一寸八分(三つ衿) 衿附の處の縫代三分を、裏表各三倍したるもの。

第四

大幅物にて三つ身相當の羽織表の裁方積り方及び切り離し方

1. メリンス大幅(二尺)長さ五尺五寸にて三つ身相當の羽織表の裁ち方



積り方  
 55-5=50 前後の差  
 50+2=52 後長  
 25+5=30 前長

切り離し方

一 總尺を縦二つに折り耳の方にて前幅四寸八分に度り、長さ二尺九寸八分衿肩明の二分手前迄の處まで通し、篋をなし、衿肩廻しを二分丸になし置き、次に輪の方にて後丈二尺五寸に度り、て丸みの處まで通し、篋をなし、篋通り裁ち落とし、耳の方より後幅を六寸五分に度りて通し、篋をなし、其處を切り離し、衿を縦二つに切り離し、次に残り布の幅より襠及び袖口の布を一寸五分幅に裁ち落とし、袖口布の丈を九寸に切り離し、それより袖を開きて、丈を二つに切り離すべし。

第五 三つ身綿入羽織篋の附け方

一 筒袖及び元祿袖は四つ身綿入羽織と同様なり。  
 筒袖の袖附を全部附ける時は、袖附の篋を附けず、袖丈を以て

袖附の寸法となす。  
 一身頃及び襠の籠附は、本裁女綿入羽織と同様なり。  
 筒袖の袖附を全部附ける時は、男物綿入羽織の籠附と同じ。  
 一 衿布の折り方は、四つ身綿入羽織の處にある説明を見るべし。  
 第六 三つ身綿入羽織縫方及び衿方順序  
 一 袖長袖は本裁女物と同様に、筒袖及び元祿袖は四つ身  
 一 羽織と同様なり、又筒袖の袖附を全部附ける時は、襠附袖附等は男  
 綿入羽織の如くなし、其他は總て女綿入羽織と同様に、衿は  
 芯布の綴ち附けある方を身頃に縫ひ附け、女綿入羽織に準じて  
 衿先を縫ひ、衿芯の薄き時は綿を少し入れて衿衿をなし、肩揚を  
 なすべし。

第五節 一つ身

第一 一つ身袖無綿入羽織普通仕立上り寸法  
 及び圖並に各部の名稱

一つ身袖無羽織仕立上り  
各部の名稱及び圖



- 身丈 一尺二三寸
- 脇明 六寸位
- 身幅 一ばい
- 前下り 三四分
- 紐附 肩より五寸位
- 襠幅 上一寸 下一寸五分
- 衿幅 一寸

第二 一尺物にて一つ身袖無綿入羽織表の裁  
 ち方積り方及び切り離し方

一尺幅長さ五尺にて一つ身袖無綿入羽織表の裁ち方



積り方  
 $16 + 18 + 16 = 50$   
 後身頃 衿 用 布  
 前身頃 丈 布

(六〇)

第三 一尺幅にて一つ身袖無羽織裏の裁ち方



一尺幅二尺二寸にて一つ身袖無羽織裏の裁ち方  
 一 表布を半幅に折り、後丈を一尺六寸に度り、其處にて衿肩を八分に籠を付け、前方へ二分下りし處、衿肩廻し二分丸より、一寸幅に下まで通し籠をなし、籠通り裁落し、前身頃の端より、四寸五分切り離し、之を縦二つに切り、紐となし、襷を二つに切り、離し、裏は表に

做いて襷裏を切り離すべし。

第四 一つ身袖無綿入羽織籠の附方及び説明

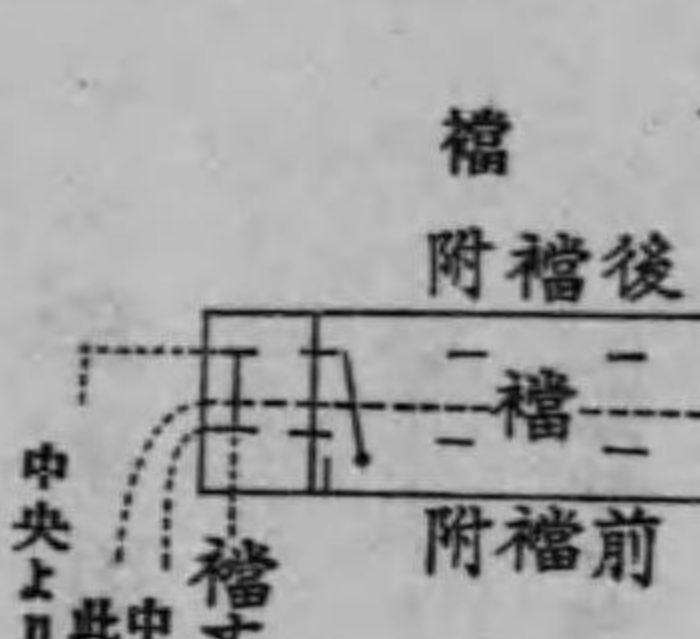
一 表身頃を第一圖の如く衿肩を自分の手前に、後身頃を左に



して裏身頃を其上に載せて待針刺し、後丈を度りて其處より裏に折り返し、待針を刺し、前身を後丈に八分加へたるものを度り、其處より裏に折り返し、待針を刺し、次

(六一)

に第二圖の如く肩山を後へ一分繰越し、山脇明裾山等の篋附をなし裾口は後幅を度り前身に掛けて篋を附け、次に前下りの篋を後の裾山より四分五厘と後幅の處にて裾山より一分五厘とに篋を附け、差し渡しして其間に篋を附け、次に肩幅及び後幅の篋を附け、後身頃を左に開き胸はぎ及び紐附の篋附をなし、襠丈を後の裾口より脇明の篋までの寸法を



度り置くべし。  
一 表襠を二枚合せ、襠丈に上部の縫代五分を加へたるものを度り、残りを裏に

襠の上に載せ、折返しの下に入れて待針を刺し、裾山



の篋をなし、襠丈を度りて篋をなし、圖の如く後前の襠附の篋及び襠はぎの篋を附るべし。  
一 衿布の丈を二つに折り、圖の如く山紐附丈の篋附をなすべし。

第五 一つ身袖無綿入羽織縫方順序

一 身頃 前下り、胸はぎの縫方及び襠の附方は、總て女綿入羽織と同様なり。  
二 襠の上部を裏表とも内側に折り、仕立上りの如く表を出して、前身頃の裏表の間より前の脇明の篋の處を四つ留になし、次に後を引き出して同じく四つ留になし、襠の上部を篋より一分内を襠丈縫ひ、次に脇明の處を表は幅篋の一分外裏は幅篋の一分内を合せて待針を刺し、脇明の篋より一寸斗りの間を斜に

して待針を刺し、其處を縫ひ合せ裏の方に折り表に返して、  
掛るべし。

第六

一つ身袖無綿入羽織綿の入方及拵け方  
一 表の後身の裏を出して其上に眞綿を引き、綿を裾丈より一  
寸五分程出して載せ、裾綿を入れて折り返し、綿の上に眞綿を引  
き、襦の上部の處にて綿を横にちぎり、脇明の處を少しく厚く裾  
綿の如く入れて折り返し脇明より下部の綿を前身頃の裏表の  
間に折り込み置き次に肩の處より裏表の間に手を入れ、兩方の  
裾口を摘みて引き出し、前身頃を平になし、其上に眞綿を引き後  
より續きの綿を肩及び襦の處より前身頃に折り返して平に入  
れ、其上に眞綿を引き表の下に手を差し入れ、其前を引き返して  
綿の上に被ぶせ、裏表の縫目を正しく引き合せ置くべし。

二 裾口及び脇明の處に綿を含めて、  
附を裏裏合せて中綴ちをなすべし。

三 衿附の處を裏裏合せて、  
を少しく緩ます次に紐を縫ひ表に返し眞綿を細く入れ先を括

四 衿布の裏側に幅一寸五分位の薄き芯切を端を揃へて綴ち

附け山を裏身頃の衿肩の中央に當て待針を刺し、  
同様になして衿附をなし、衿先を縫ひ綿を薄く入れて拵け、表よ  
り衿の方を見て、  
裏を掛け、肩揚及び背守をなすべし。

### 第三章 袴羽織

#### 第一節 本裁男物

第一 二尺幅にて男袴羽織表の裁ち方積り方及び切り離し方

裁ち方及び篋の附け方は綿入羽織と略同様なれば之を省き異なる点のみを左に示す。

第二 本裁男袴羽織篋の附方及び説明

袴を共通要項に示せる如く折り山篋をなし、袴肩廻し及び前下りを凡そ四寸と見込みて



篋を附け、其篋より後丈を度りて袴丈の篋を附け、次に乳下りの篋を附け、其間を四五寸毎に圖の如く合篋を附けるべし。

#### 第三 本裁男物袴羽織縫方順序

一袖 左右とも裏袖に袖口を掛け、裏袖の山及び袖口の篋を合せて口先を一針ぬきに縫ひ合せ、袖幅の篋を附け置くべし。

二身頃 左右とも前下りを表は篋通り、裏は篋より一分下とを合せて待針を刺し、前幅の篋の處まで縫ひ裏の方へ折り表に返

して表を裏の方へ五厘ふかせて一緒に假襷を掛け次に前後の  
 胴はぎをなし、胴裏の方へ折りて襷を掛け次に脊を表身頃を見  
 て衿肩の方より四つ縫ひになし、平鍔を掛け後幅を籠通り折を  
 附け置くべし。  
 三襷附 左右とも襷裏をはぎ合せ、裏の方に折りて襷を掛け表  
 を出して裾山を折り、上部の丈の籠を内側に折り、襷附の籠を合  
 せて幅の中央を襷にて假に綴ち置き、次に後襷を身頃にて狭み  
 四つ縫ひになし、平鍔を掛け表に返し、前の衿附の處を裏表合せて  
 襷にて綴ち置き、乳の布を綿入羽織の如へ折りて、乳下りの籠の  
 處に裏の方に下向に綴ち附け置くべし。  
 四衿附 衿山を裏身頃の脊縫ひに合せて待針を刺し、衿肩廻し及  
 び乳下り迄は衿を少しく弛ませて待針を刺し、乳より下は平に

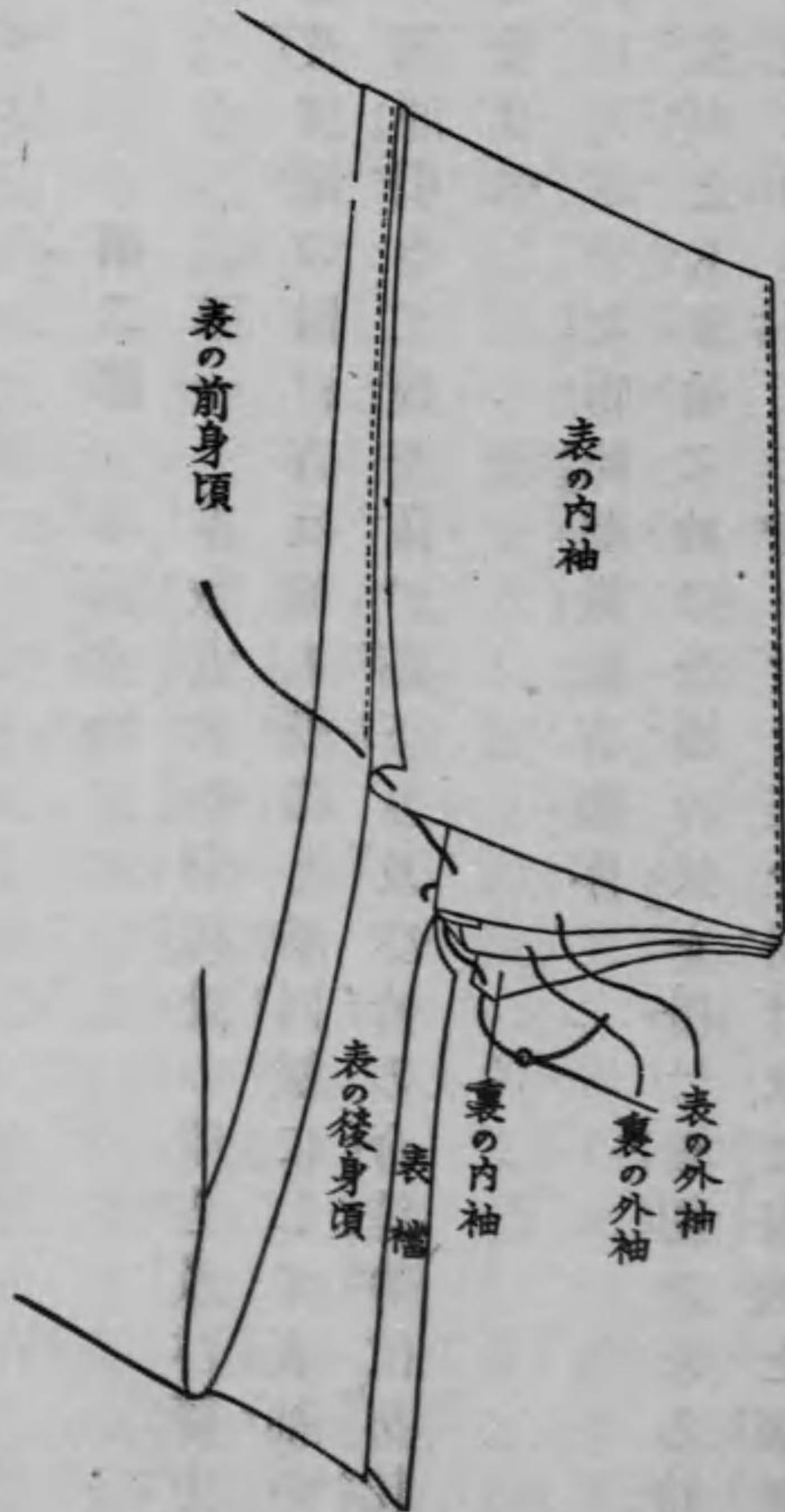
裾口より三寸位上まで同じ縫代に合籠の處にて待針を刺し、前  
 下りの處にて前身の縫代を一分五厘程深く待針を刺し、身頃を  
 巻きて外衿にて包み、合籠を合せて待針を刺し、直し、衿の附始め  
 の處にて衿先の縫込の寸法だけを一針ぬきの半返しになし、夫  
 より乳の處まで二分位の針目にて一針ぬきになし、乳の處にて  
 三針程返し、四寸の籠の處まで袋附をなし、夫より外衿を離して  
 衿肩廻しを小針に縫ひ、脊縫ひにて一針返し、一方も同様になし、平  
 鍔を掛け衿先の處にて内衿を開き、衿の輪の方を二分程残して  
 衿先より二分程先を三枚共に一針ぬきに縫ひ、衿先の縫込を内  
 衿の方へ折り、衿附の絲の際にて綴ち附け、芯布を衿丈に揃へて  
 切り離し、次に内衿を折り返して綴ち附け、衿肩の處より除々に  
 引き出し、一方も同様になし、衿肩の處を細かに裾け衿を見て三

分程内に衿先より乳の少しく上までは身と共に夫より上は衿のみに平鍼を掛るべし。

五袖附 左右とも身頃の袖附の處を篋通り折を附け次に袖幅も篋通り折を附け身頃の山と袖の山を合せて待針を刺し身頃の袖附の篋の處にて袖丈の篋を五厘先に出して待針を刺し身頃を浅く折り長き儘にて表袖を附け袖の方に折を附け次に裏袖は兩方とも開きて前の方を五寸位残して袖を附け身頃の方へ折りを附け次に袖口を右袖は裏袖を手前に左袖は表袖を手前に見て四つ留になし袖口布の終りまで細かに一針ぬきに四つ縫をなし續きに袂の角まで縫ひ置くべし。

六袖附の七つ留 圖の如く袖附の處を浅く表の前身頃表袖二枚表の後身頃裏袖二枚裏の後身頃等に針を通し二本絲にて四

男衿羽織袖附七つ留の圖



つ留の如く絲を結びて留め其絲にて留より五厘上即ち袖丈の篋の處を幅の縫込だけ二本絲の儘一針ぬきに縫ひ夫より一本を切りて袂の丸み迄續きに縫ひ丸みの襷を取り表に返し袖口



及び袖下等に襷を掛けるべし。  
七前襷附 左右とも前身頃の裏表にて襷を狭みて四つ縫ひになし、平鍔を掛け裏袖附の前の縫残しの處より表に返し其處を締けるべし。

第二節

本裁女物

第一

本裁女物 袷羽織袴の附方及び縫方順序

裁方及び袴の附け方は綿入羽織と略同様にして裏袖の丈を表より五厘引ききて袴を附け前下り及び袴の合袴等は男袷羽織の如くなすべし。

女物 袷羽織袴縫方順序

一袖 左右とも裏袖に袖口を掛け、襷を掛け振切のある時は、袖口と同様に廻し掛にて縫ひ附け襷を掛け次に表袖と裏袖の山

及び袖口の袴を合せて待針を刺し、袖口明を縫ひ合せ表袖の方に折を附け次に袖口を基礎縫に示せる如く右袖は裏袖を手前に左袖は表袖を手前に見て四つ留をなし、袖口布の終りまで細かに一針ぬきに四つ縫をなし、袂の角迄縫ひ置き、袖幅を度りて袴を附け、表は袴通り裏は袴の下に折を附け、内側の表袖と裏袖とを布の表を合せて袖附の袴まで振り合せ、外側も同様になし袖附の袴まで振り合せ、次に袖下を振の方より四つ縫ひになし、振の縫込は裏袖の方に折りて綴ち附る表の方に折を附け次に袖口下の縫込を同じく表袖の方に折り袂の丸みの襷を取りて留め之を表に返し振を裏表一緒に襷を掛け袖口を毛拔合せになして襷を掛け、袖下は四枚一緒に内袖を見て襷を掛け袖附の折を附け置くべし。

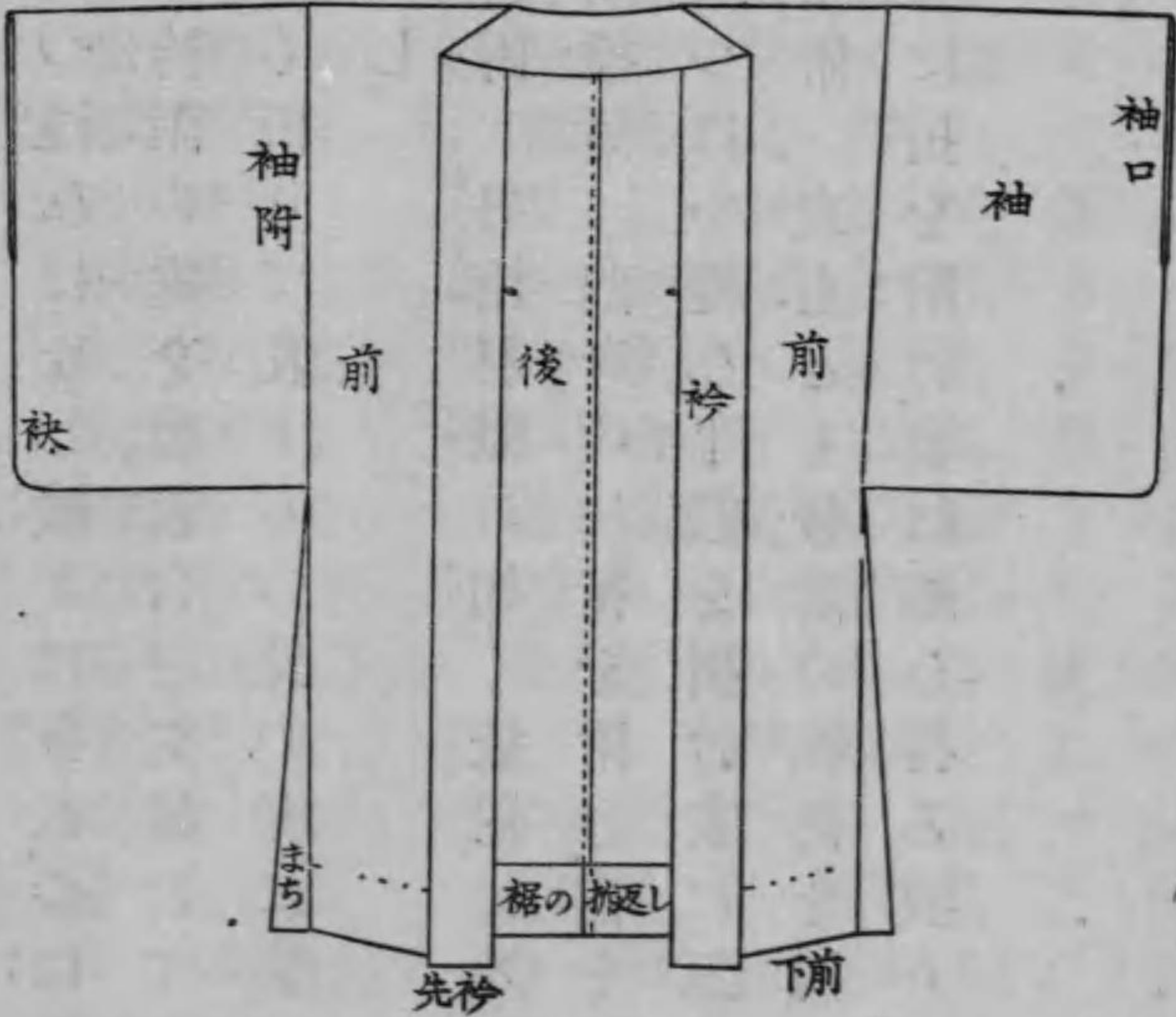
絹物の時は袖口下を續きに振より二寸位手前まで四つ縫を  
 なし、それより先は表裏別々に縫ひ袖幅を度り袖下の縫目を裏  
 表合せて振りを續きに縫ふべし。  
 二身頃 左右とも前下りを表は籠通り裏は籠より一分下とを  
 合せて待針を刺し、前幅の籠の所迄縫ひ裏の方へ折り、表に返し  
 て表を裏の方へ五厘ふかせて一緒に假麩を掛け、次に前後の胴  
 はぎをなし、胴裏の方へ折りて麩を掛け、次に背を表身頃を見て  
 袴方の方より四つ縫になし、平鍔を掛け、後幅を籠通り折を付け  
 置くべし。  
 三後襠附 左右とも襠裏をはぎ合せ、裏の方に折りて麩を掛け  
 表を出して裾山を折り、上部の丈の籠を内側に折り、襠附の籠を  
 合せて幅の中央を麩にて假に綴ち置き、次に後襠を身頃にて狭

み四つ縫ひになし、續きに身八つ口を縫ひ、平鍔を掛け、表に返し  
 前の衿附の處を裏表合せて麩にて綴ち置き、乳の布を綿入羽織  
 の如く折りて乳下りの籠の處に裏の方に上向きに綴ち付け置  
 くべし。  
 四衿附 男衿羽織の如く袋附になして麩を掛け置くべし。  
 五前襠附 前身頃に折を付け、襠を挟みて四つ縫をなし、續きに  
 身八つ口を縫ひ、平鍔を掛け、表に返すべし。  
 六袖附 左右とも後前の袖附を四つ留になして表袖を付け、袖  
 の方に折を付け、裏は縫ひ得る限り縫ひて残りを通けるべし。

第四章

單羽織

稱名の部各び及圖り上立仕織羽單男裁本



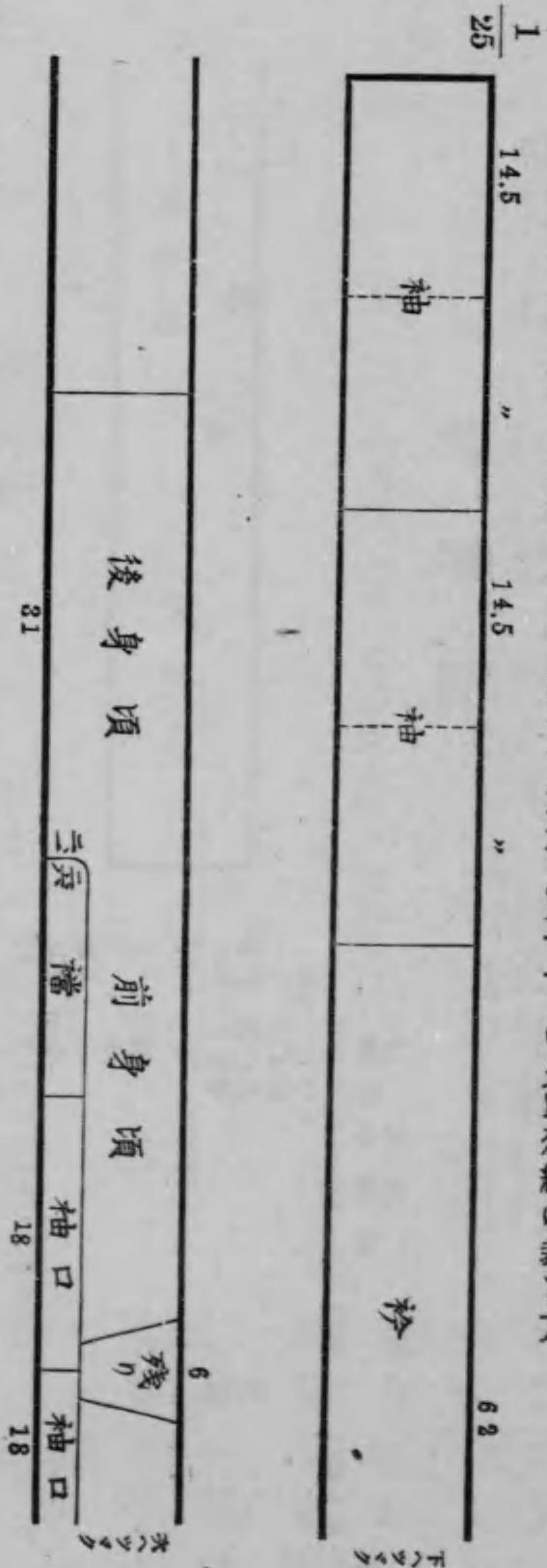
第一節 本裁男物  
 第一 本裁男單羽織  
 仕立上りの圖

單羽織は表を四五寸裏に返し之を三つ折にして裾掛となすものにして、前身の裁落しのみを袖口と襦とになす時は、襦丈不足なれば裁方の時能く總尺を度り、袖口丈及び襦丈の

豫算をなし、總尺多き場合には前身の下りの處に切を出して襦丈の不足を補ひ、棒裁ちになすべし。

第二 並幅物にて男單羽織の裁方積り方及び切り離し方

並幅二丈五尺にて袖丈一尺四寸身丈二尺六寸仕立上りの男單羽織の裁ち方



積り方

14+5=14.5 14.5×4=58

代袖下の縫  
出袖丈上り

=31

31×2=62

26+と及び肩  
身丈上り

=31

31

250-58-62-6=124

124÷4=31

縫尺

袖布

丈後身

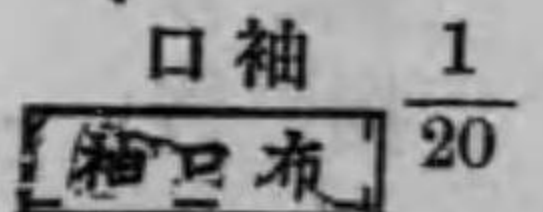
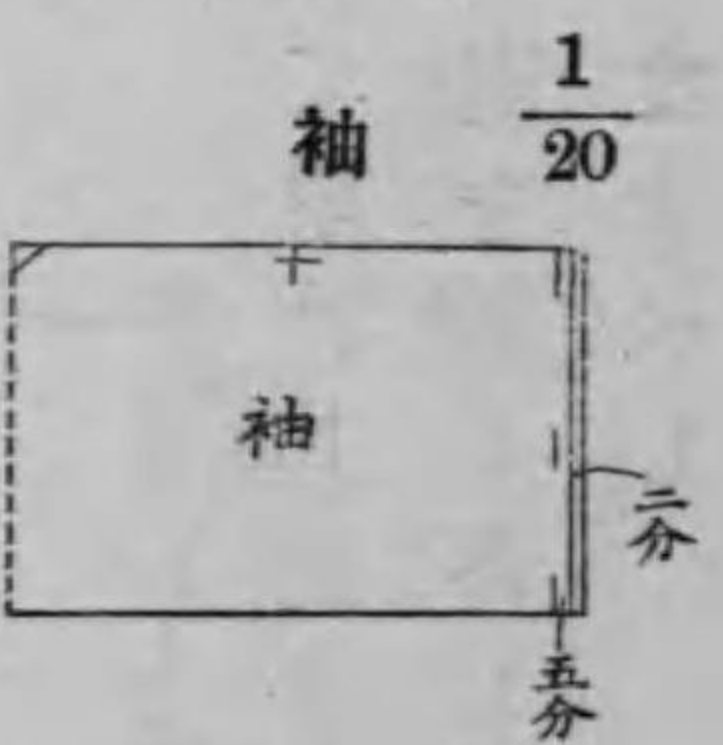


切り離し方

一寸切り総尺の中より五尺八寸を切り離し兩袖となし次に六尺二寸を度り、衿となし、残り二つに折り裁目の方より後身丈三尺に通し、鏡をなし、鏡廻しを五分丸にして袖口及び襟幅を二寸六分に、鏡を通り裁落し前の残り切は鏡附の時裁落すべし。

第三

本裁男物單羽織鏡の附け方及び説明



一 袖を二枚合せて後を二分長くして丈を二つに折り、山丈袖口等の鏡附をなし、次に袖口布を二枚合せて二つに折り、山丈幅等の鏡附をなすべし。

一 身頂を二枚合せて待針を刺し、後丈を

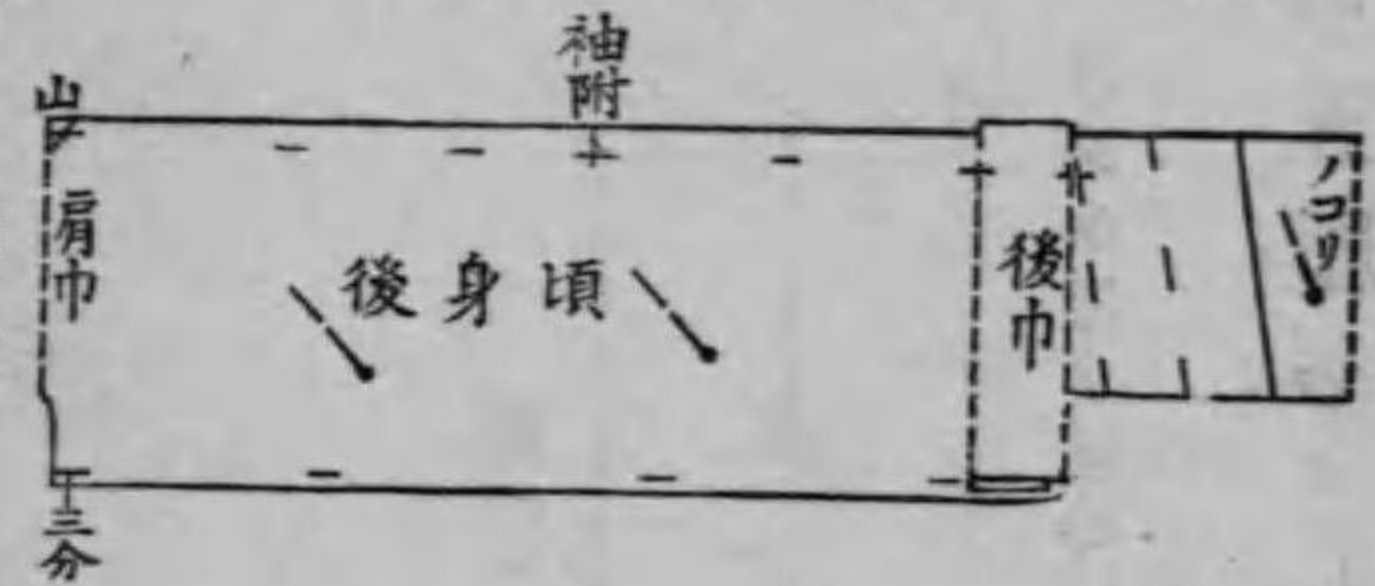
圖るたしなに折つ三をけ掛帯の後て合せ枚二を頂身



のもるたへ加分三に方すり上立仕

より五厘多く裾掛の幅の鏡を布の兩端及び中央に附け、其處を

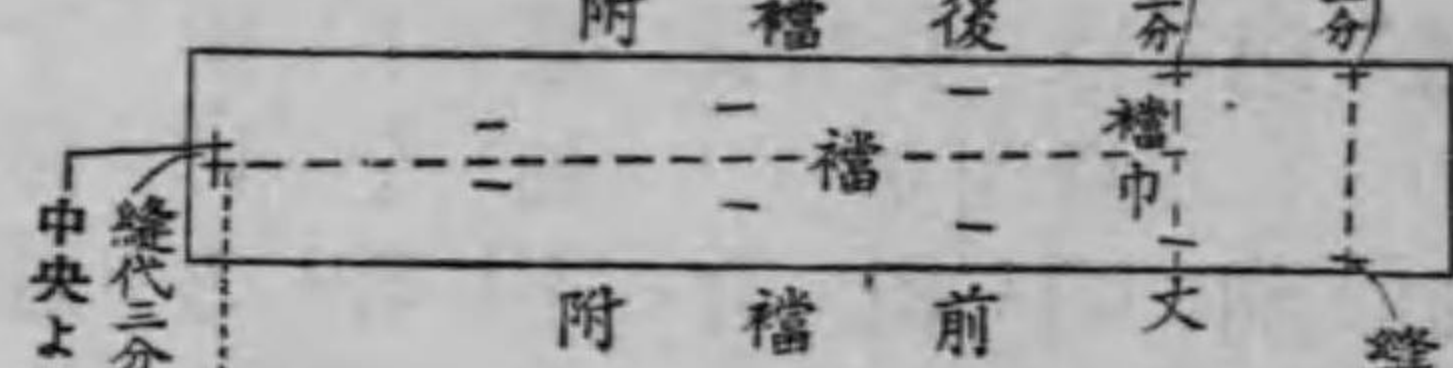
(二) 頃身  $\frac{1}{20}$



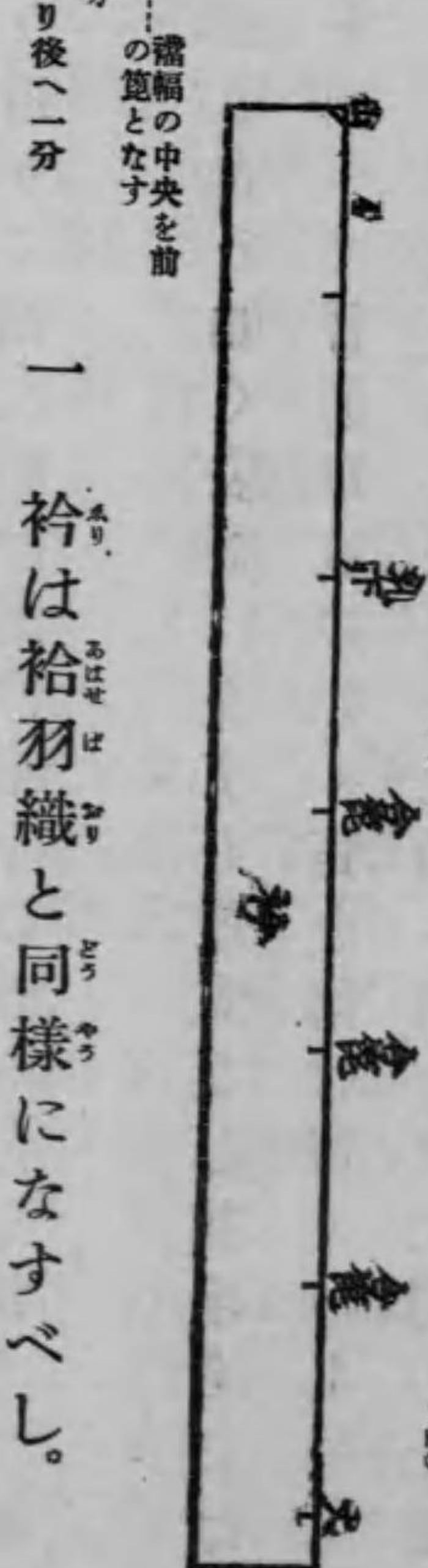
別々に裏の方に折り曲げ鏡を掛け次に丈の  
鏡通り折り曲げて三つ折となし第一圖の如  
く待針を刺し次に第二圖の如く肩を後へ一  
分繰り越し前身の上に平になして待針を刺  
し山背袖附後幅肩幅等の鏡附をなし次に前  
下りの鏡を後の裾山より一寸と後幅の處は  
裾山一ばいに鏡を附け差し渡し其間にも鏡  
を附け其鏡より裾掛の鏡を後と同寸に度り  
て附け其鏡より後の中の折込と同寸に度り  
處を裁ち落とし裾掛を後と同様に別々に伸  
さぬ様に三つ折りに  
なすべし。

一 襦を二枚合せて上部の縫代三分に鏡を附け其鏡より襦丈

襦  $\frac{1}{5}$



を度りて鏡を附け其鏡より身頃の裾掛と同寸  
に鏡を附け次に丈の處にて襦幅の鏡を附け縫  
代は前は多く後は一ばい圖の如く前後の鏡附を  
なし裾を別々に折りを附け置くべし。



第四

本裁男單羽織縫方順序

一 衿は袷羽織と同様になすべし。

一 袖 左右とも袖口布の下を鏡通り折りて隠裏を掛け袖の山  
と袖口布の山とを合せて袖口明を縫ひ合せ袖口を四つ留にな

し袖の短き方を外側にし、内側の布をつれぬ様に斜に折り、袖口布の終り迄一針ぬきになし、夫より袂の丸み及び袖下を續きに縫ひ袂の裏を取り表に返し袖口及び袖下に襷を掛け袖口布の奥を篋通り折りて袖に紵け付け、袖下の長き分を折りて袖に紵け附けるべし。

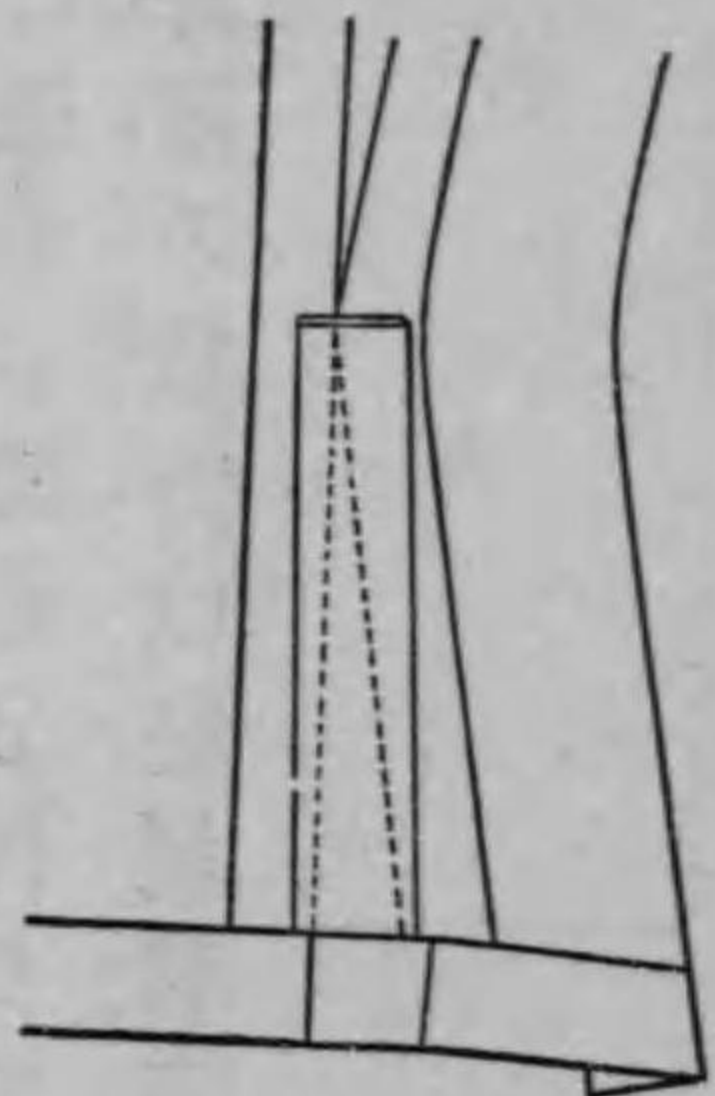
袖下を普通単衣の如く袋縫になすも差支なし其場合には篋附の際袖下を揃へて普通単衣の如く篋を附け置くべし。

二身頃 脊を二度縫になし後幅を篋通り折り次に襷の上部を三つ折り紵けになし身頃及び襷の裾の折を開きて左右とも後襷を附け身頃の方に折を附け置くべし。

三衿附 前身頃の裾掛を假に襷にて綴ち附け置き次に乳を綿入羽織の如く折りて乳下りの處の裏に綴ち附け置き衿を拾羽

織の如く袋附をなし衿先を縫ひ引返して三つ衿を紵け、襷を掛け次に前の假綴を取り前幅を折り

襷及及び裾掛を掛るた見りよ裏



て前襷を裾口まで縫ひ附け糸を其儘になし置き身頃の方に折を附け、平に下に置き前身の裾紵のつれぬ様に前の脇にて幅を出し前襷の篋

迄其處に印を附け、襷の續きの糸にて其處を縫ひ合せ一方も同様になし、襷の兩端を折りて身頃の縫込に紵け附け左右とも身頃の袖附の處の篋を山にて一分先を折り袖附の篋より斜に折を附け置き、裾紵の中に入る分を除き其他は縫込の端を身頃に綴ち附け次に裾紵をなすべし。

四、袖附 左右とも袖附の處を四つ留になし、袖を附け袖の方に

折りて縫込を綴ち附け、縫込少き時は山を三針綴ち附け置くべし。

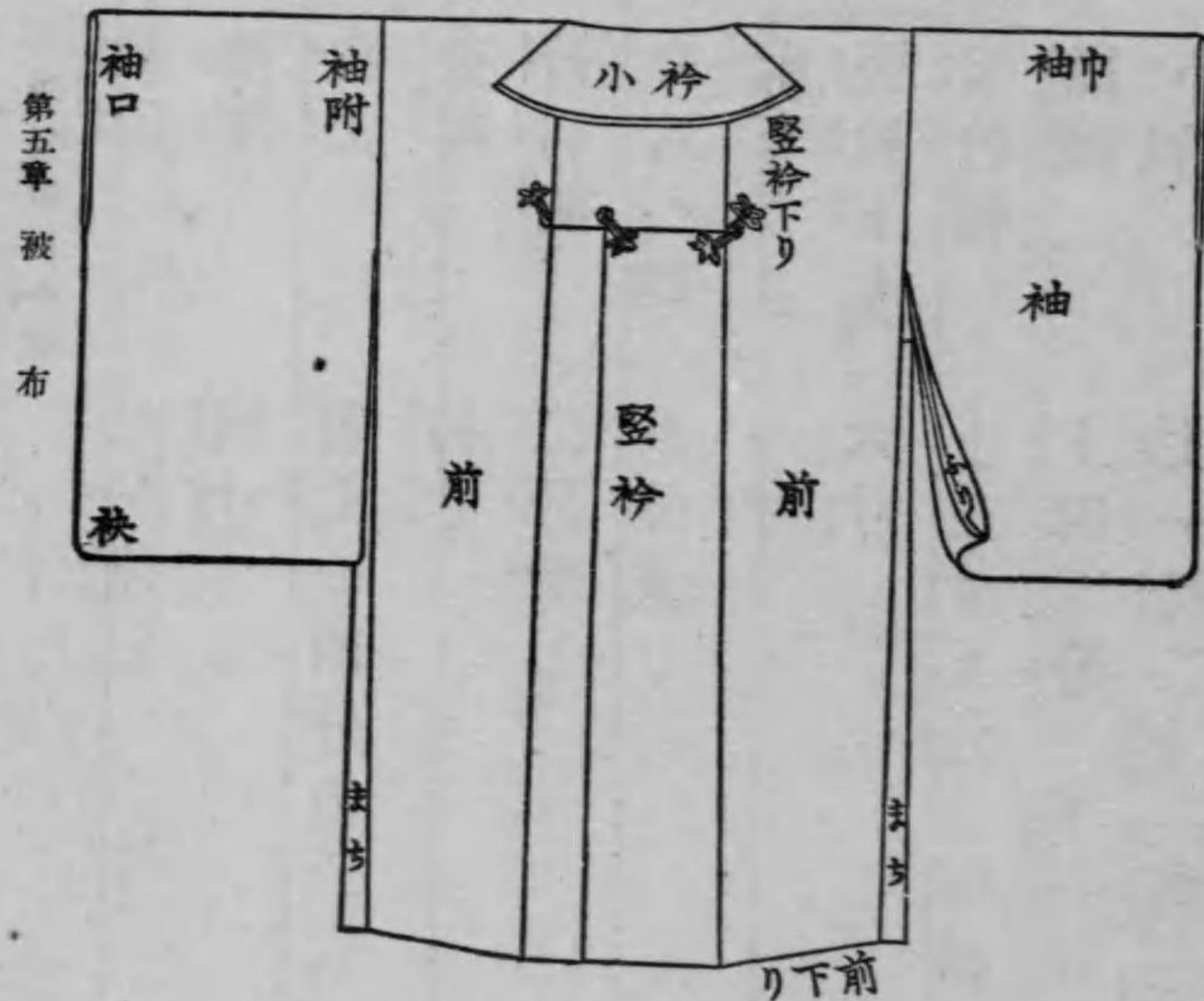
女單羽織

裁方及び積り方は寸法の異なるのみにて其他は男物と同様なれば其説明を見るべし。

縫方も男物と同様なれども、袖附の所は單衣長着の如くなして附け振りの縫込を折りて衿に附るか、或は耳衿になすべし。肩當附の裁方は、卷尾参考の部に示す。

第五章 被布

本裁被布仕立上りの圖及び各部の名稱



第一節

第一

本裁女物

普通仕立上り寸

法及び圖並に各

部の名稱

各部の寸法は長着の寸

法に依り凡そ左の如く増

減すべし。

一 袖丈 同寸又は一分

増し

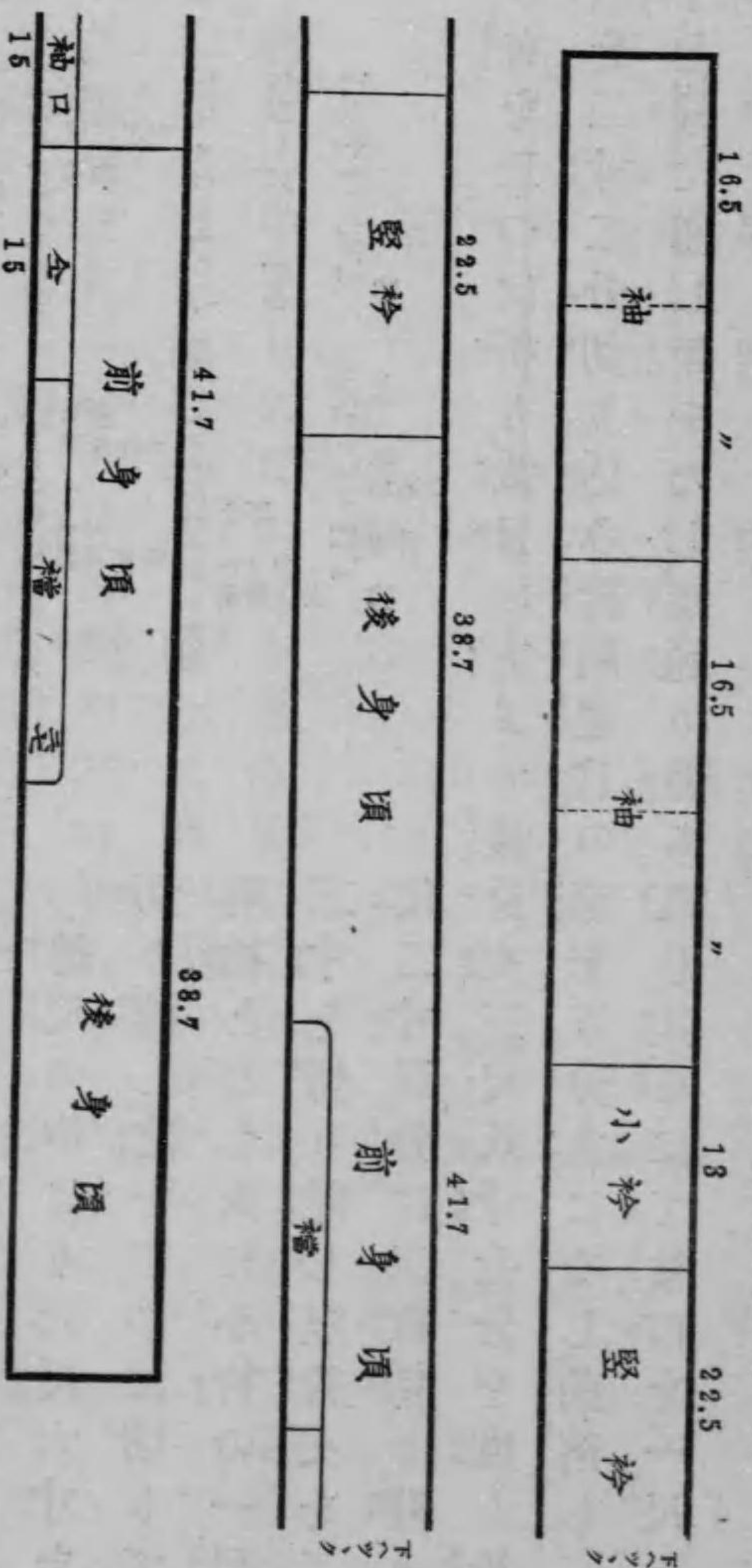
一 袖口 同寸

袖附 二分増し  
 袖幅 同寸  
 身丈 着丈の四分の三に一寸を増す  
 後幅 同寸  
 衿肩明 二分増し  
 身八つ口 五分減じ  
 前下り 一寸  
 堅衿下り 六寸  
 堅衿幅 上三寸五分 下四寸  
 襠幅 上四五分 下一寸七八分  
 小衿 丈一尺二寸 幅三寸五分  
 衿 同寸

1/25

並幅二丈八尺五寸にて身丈二尺六寸袖丈二尺六寸出来上りの本裁被布表の裁ち方

第二 並幅物にて本裁被布表の裁方積り方及び切り離し方





積り方

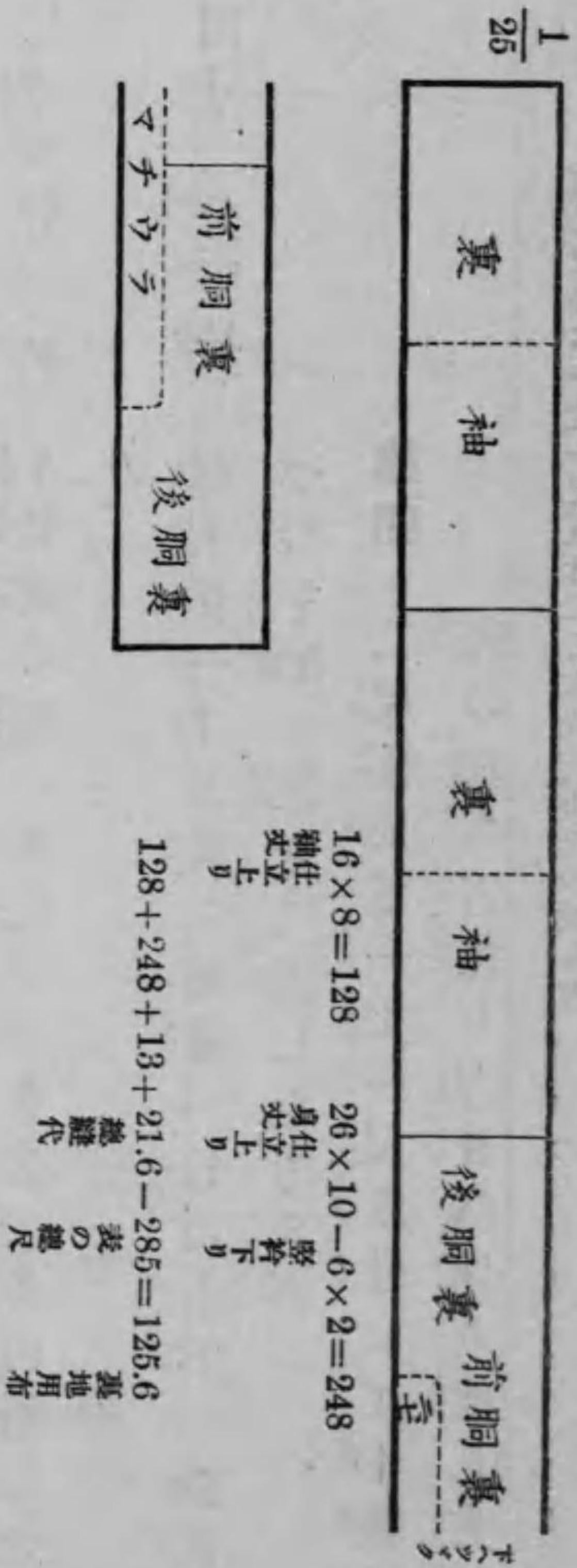
$(16+5) \times 4 = 66$  袖仕縫代  
 $26-6+25=29.5$  身仕縫代  
 $22.5 \times 2 = 45$  小袖の前後の差  
 $66+45+13+6=130$  前後の差  
 $285-130=155$  前後の差  
 $155+4=38.7$  前後の差  
 $38.7+3=41.7$  前後の差

切り離し方 (八八)

総尺の中より六尺六寸を切り離し、之を二つに切りて袖となし、次に小衿の一尺三寸を切り離し、堅衿丈を二尺二寸五分に二枚切り、残り肩を二寸二分切り込み、衿肩廻しの處を五分丸になし、前落し二寸七分に通し、籠をなし、籠通り裁ち落し、其布にて袖口を一尺五寸に切り離し、残りを襦となすべし。

第三 並幅物にて本裁被布裏の裁方積り方及び切り離し方

並幅にて本裁被布裏の裁ち方



切り離し方

総尺の中より六尺六寸を切り離し、之を二つに切りて兩袖となし、身頃は籠附の時表に做ひて前を裁ち落すべし。

總縫代二尺一寸六分の説明左の如し。  
 四寸(袖) 表の袖下の縫代五分と裏の袖下の縫代五分を

各四倍したるもの。

胸はぎの縫代五分を裏表各四倍したるもの。

兩端の縫代五分づつ。

前下り一寸肩の繰越し一分の二倍縫代三分を

加へ之を四倍したるもの。

小衿附の處の縫代三分を裏表各四倍したるもの。

の。

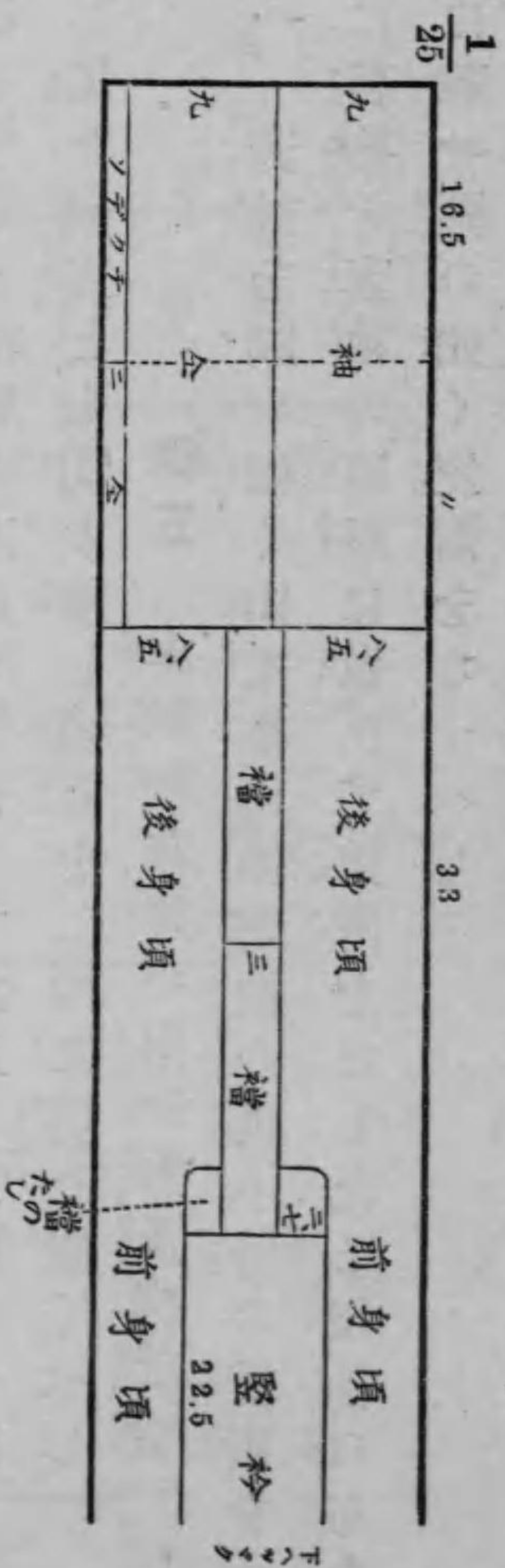
四寸二分(豎衿) 前下り一寸と肩の繰越し一分に上下の縫代五分

づつを加へ之を二倍したるもの。

第四 二尺幅長さ一丈一尺五寸にて本裁被布

表の裁ち方積り方及び切り離し方

幅二尺長さ一丈一尺五寸にて本裁被布表の裁ち方



積り方

$$16.5 \times 2 = 33 \quad 115 - 33 - 13 - 3 = 66$$

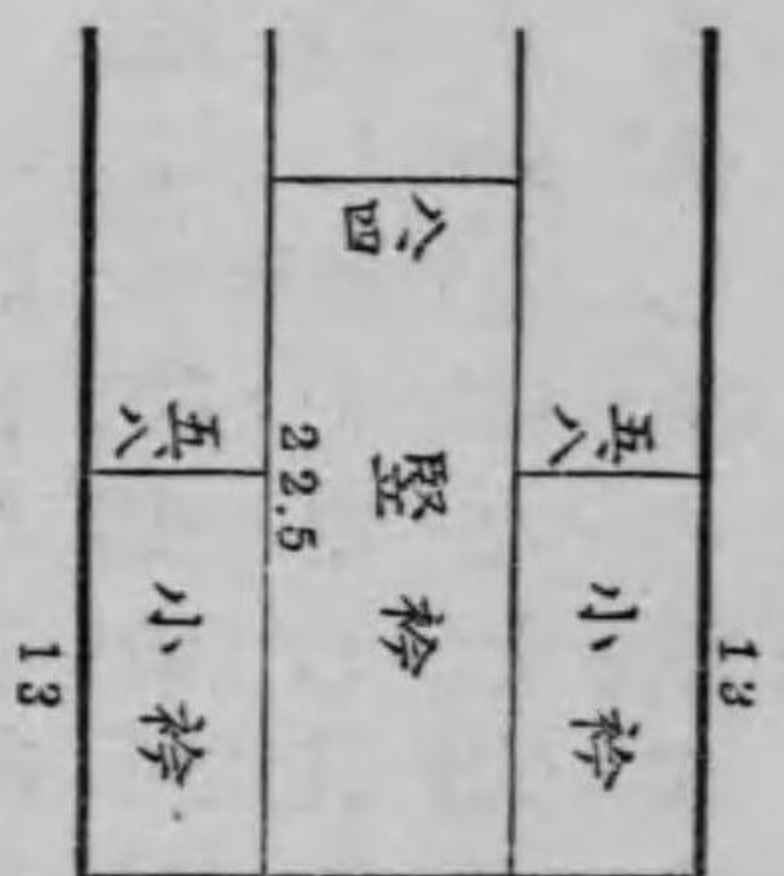
袖丈

$$66 \div 2 = 33 \quad 33 + 3 = 36$$

後丈 前後の差

$$26 - 6 + 2.5 = 22.5$$

身出兼上り 縫代 豎衿丈

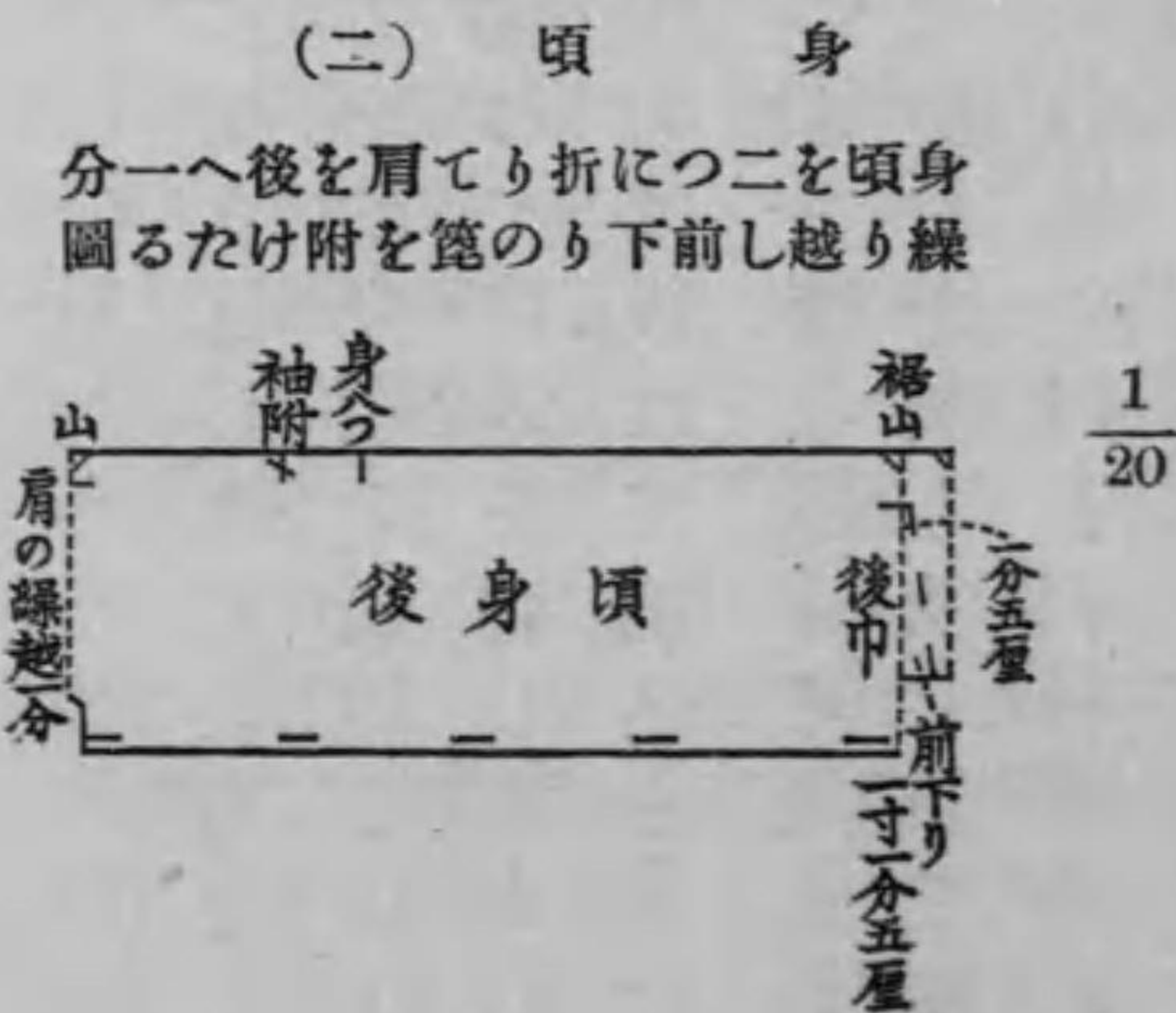
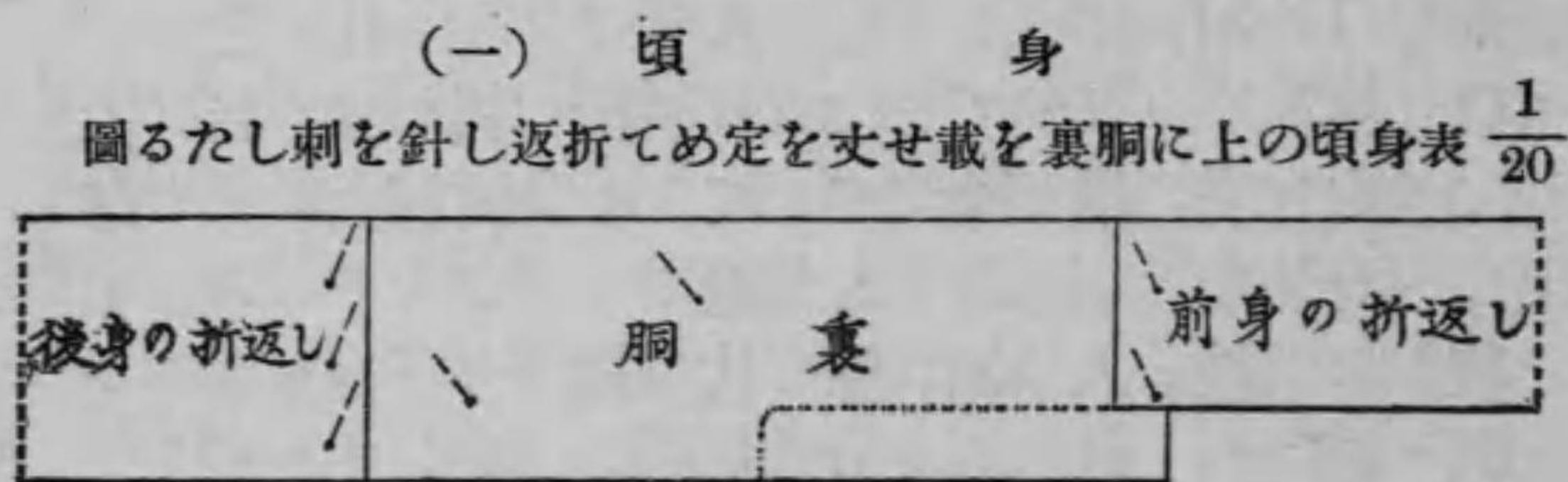
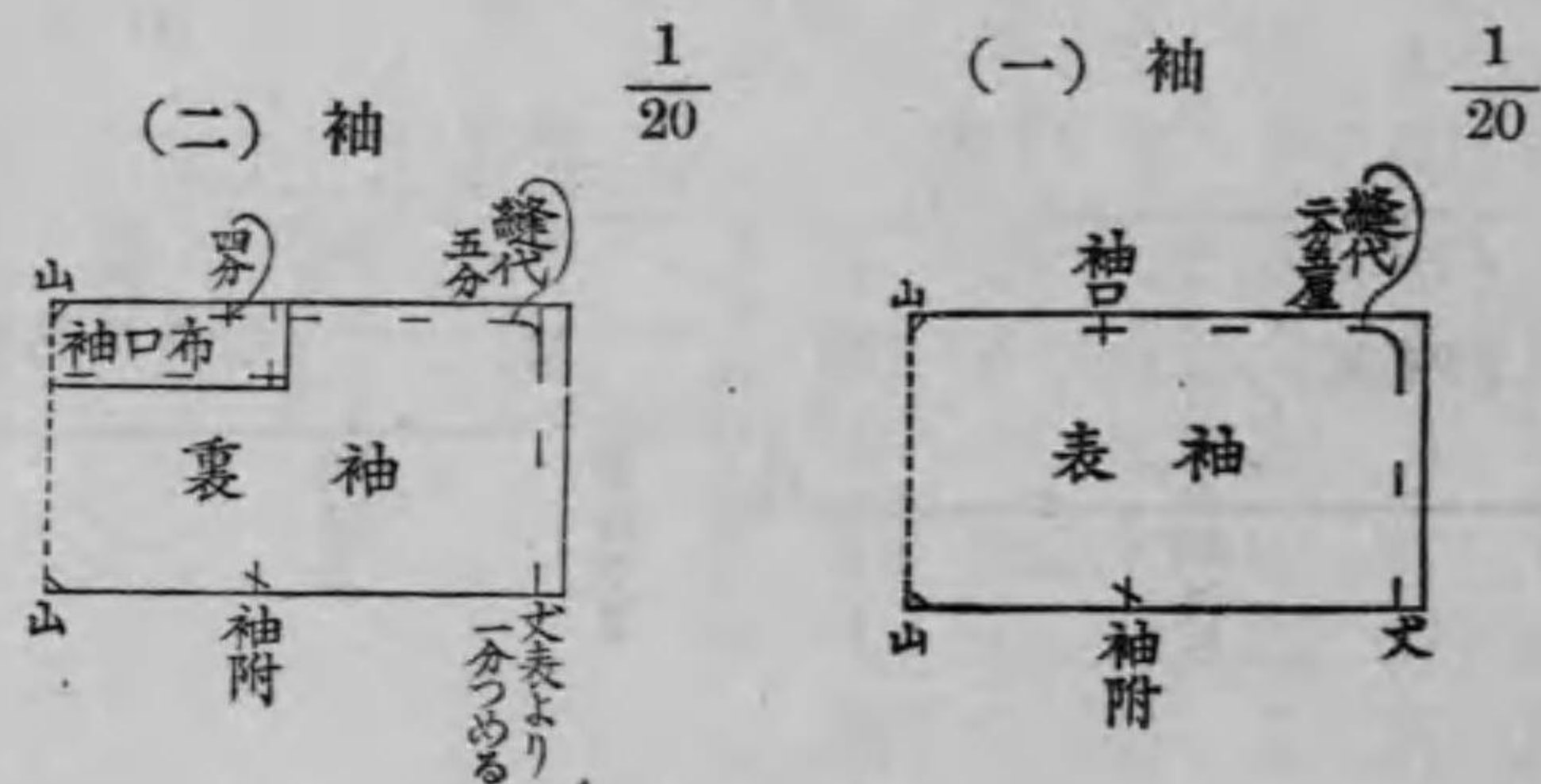


切り離し方

總尺の中より袖の三尺三寸を切り、其端より幅二寸を裁ち落して袖口となし、袖を縦二つに切り置き、残りの布を縦二つに折り端より後丈の三尺三寸を度り、耳の方より幅八寸五分に度りて通し、籠をなし、其籠より衿肩を二寸二分に籠を附け、衿肩廻しを五分丸になし、夫より前幅を五寸八分に通し、籠を附け、籠通り裁ち落し、前の端より小衿を一尺三寸切り離し、次に裁ち落したる布を開き、幅廣き方にて、豎衿を寸法通り二枚切り離し、襠のたし切を兩方とも切り離し、襠布を二つに切り置くべし。

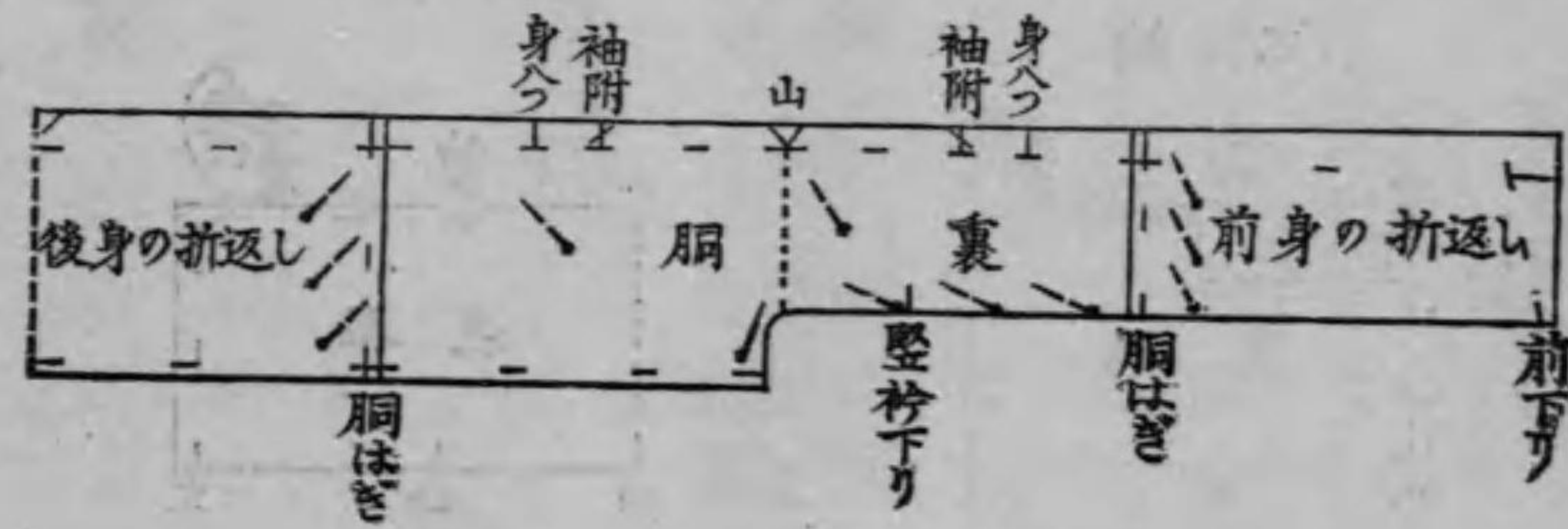
**第五 本裁被布籠の附け方及び説明**

一 表袖を圖の如く山丈袖口袖附袂の丸み等の籠附をなし、次に裏袖も表袖の順序に倣ひて籠附をなしたる後、袖口布を其上に載せ圖の如く籠附をなすべし。



1/20

(三) 頃 身

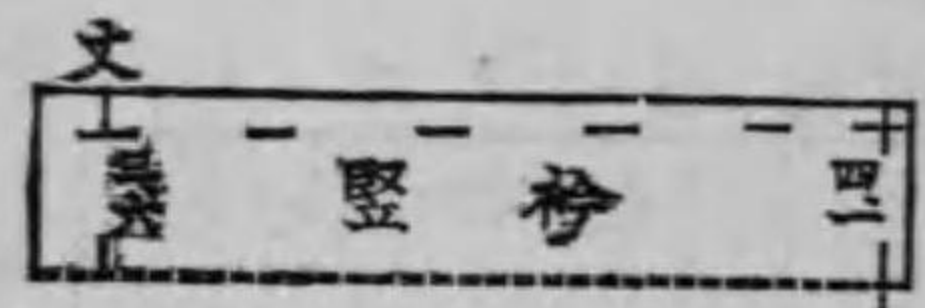


一 表身頃を二枚合せて第一圖の如く衿  
 肩を自分の手前になし、後身頃を左になし  
 て仕立上り身丈に三分を加へたるものを  
 度り、其所より裏に折り返し、次に裏布を二  
 つに折りて輪の方を前身頃の折返しの下  
 に入れて縫代丈重ねて待針を刺し、裏布に  
 少なして縫代丈あらば後にて縫込む、平に  
 なして圖の如く待針を刺し、後の折返し  
 下に其端を入れて待針を刺し、次に第二圖  
 の如く肩を後へ一分繰り越し、山袖附身八  
 つ口、裾山脊の縫代及び肩幅等の鏡附をな  
 し、裾口にて後幅を度り、前身に掛けて鏡を

(九四)

1/20

衿 堅



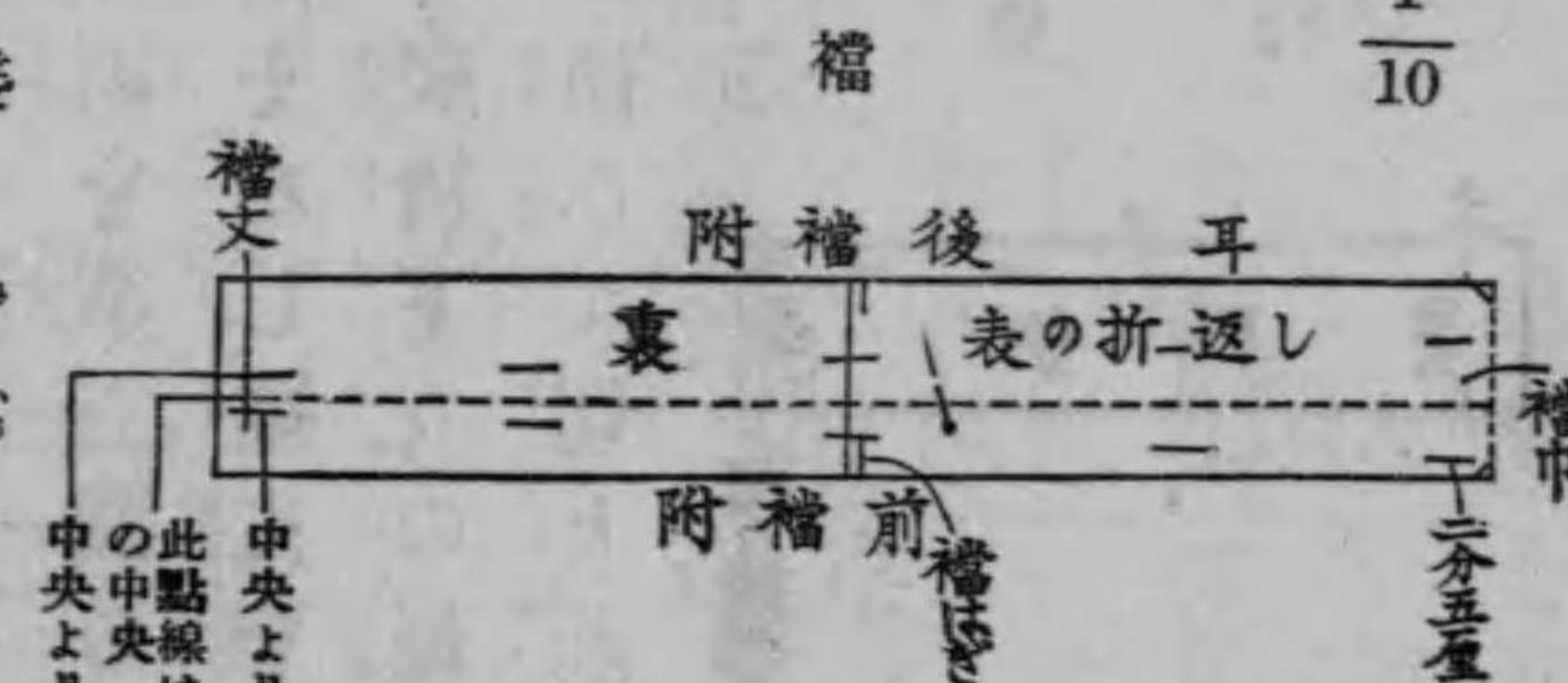
裾の縫代五分

附け、次に前下りの鏡を後の裾山より一寸一分五厘と後幅の所  
 にて、裾山より一分五厘とに鏡を附け、差渡し、其間に鏡を附け、後  
 身頃を第三圖の如く左に開き、前幅、後幅、胸はき及、堅衿下りの鏡  
 附をなし、襦丈を後の裾山より身八つ口までを度り、次に堅衿丈  
 を堅衿下りの鏡より前下りの鏡までを度り置き、裏の衿肩を表  
 に倣ひて切り、前も續きに裁ち落すべし。

一 堅衿を二枚合せて縦二つに折り、輪の方  
 を手前になし、裾の縫代の鏡をなし、其鏡よ  
 り堅衿丈を度りて鏡を附け、次に幅の鏡を  
 上下とも寸法通りに附け、其間の鏡附をな  
 すべし。  
 一 表襦を二枚合せ、耳を向ふにして左よ

(九五)

1/10



り襠丈に上部の縫代五分を加へたるものを度り残り裏の方へ折り返し、次に襠裏を二枚合せ上部を揃へて表襠の上に載せ折り返しの下に入れて待針を刺し、裾山の襠をなし、襠丈を度りて上部の襠をなし、前襠附の縫代を裾山に二分五厘に附代其襠より襠幅の襠を附け、襠丈の處にて下幅の中央より後へ三分五厘前へ二分五厘を度り前後の襠附の襠を附け次に襠はぎの襠を附るべし。

第六 本裁被布縫方順序

一、袖 左右とも表袖を縫ひ、袖幅を度りて襠を附け、袂の丸みに襠を取り表に返して、襠を掛け置き、次に裏袖に袖口を掛け袖を

縫ひ袖幅を度り、袂の丸みの襠を取り表に返し、襠を掛け置くべし。

二、身頃 左右とも前下りを表は、襠通り裏は、襠より一分五厘下とを合せて待針を刺し、前幅の襠の所まで縫ひ、裏の方へ折り隠し、襠を掛け、次に前後の胴はぎをなし、胴裏の方に折りて、襠を掛け、脊縫をなし、折を附け、後幅の襠通り折を附け置き、次に左右とも襠裏をはぎ合せ、裏の方に折りて、襠を掛け、後身頃と後襠附との裾の折山を合せて待針を刺し、身八つ口と襠丈との襠を合せて待針を刺し、其間にも待針を刺し、後身を見て、襠附をなし、後身の方へ折り次に前幅の襠通り折を附け、前下りの縫目より表の方へ一分寄りし處を裾山となし、前襠附の裾山と合せて待針を刺し、後襠附と同様に前身頃を見て、襠附をなし、前身の方に折を

附けるべし。

三、**豎衿**の裾口を身頃の前下りの如く表になる方は籠通り裏は籠より一分五厘下を合せて待針を刺し、籠通り縫ひ裏の方に折を附け、隠簾を掛け、次に**豎衿**附を籠通り折を附け、身頃の前の縫目と裾口の縫目とを合せて待針を刺し、表身頃の**豎衿**下の籠と**豎衿**の丈の籠とを合せて待針を刺し、其間にも待針を刺し、裾口の處は裏側へ一寸程廻して**豎衿**附をなし、**豎衿**の方に折を附け置くべし。

四、**袖**附 左右とも裏表の袖幅を籠通り折り、身頃の袖附の處に折を附け、表袖附は身頃を折りて附け袖の方に折を附け裏は身頃を開きて袖附をなし、身頃の方に折を附け、表袖の振り及び身八つ口を折りて、簾を掛け、裏の振り及び身八つ口に綿を含ませ

置くべし。

五、綿の入れ方は上巻の共通要項に示せる長着の時と同様なれども、裾の處は一寸五分位の綿を裾山を中心として載せ、之を折り返し裾綿となすべし。

第七 本裁被布紵方順序

一、**裾**口の處にて綿の動かざる様に簾にて假綴ちをなし、前襠を裏表合せて裾口より中綴ちをなすべし。

二、**袖**口に綿を含ませ四つ留をなし、袖口を紵け其絲にて續きに袖口下の縫込を裏表綴ち、次に前後の袖附及び身八つ口に四つ留をなし、袖下の縫目より身八つ口を續きに振りを紵け、其絲にて袖下の縫目を裏表綴ちるべし。

三、**豎衿**下りの明の裏に綿を含み、**豎衿**下りの籠を合せて**豎衿**

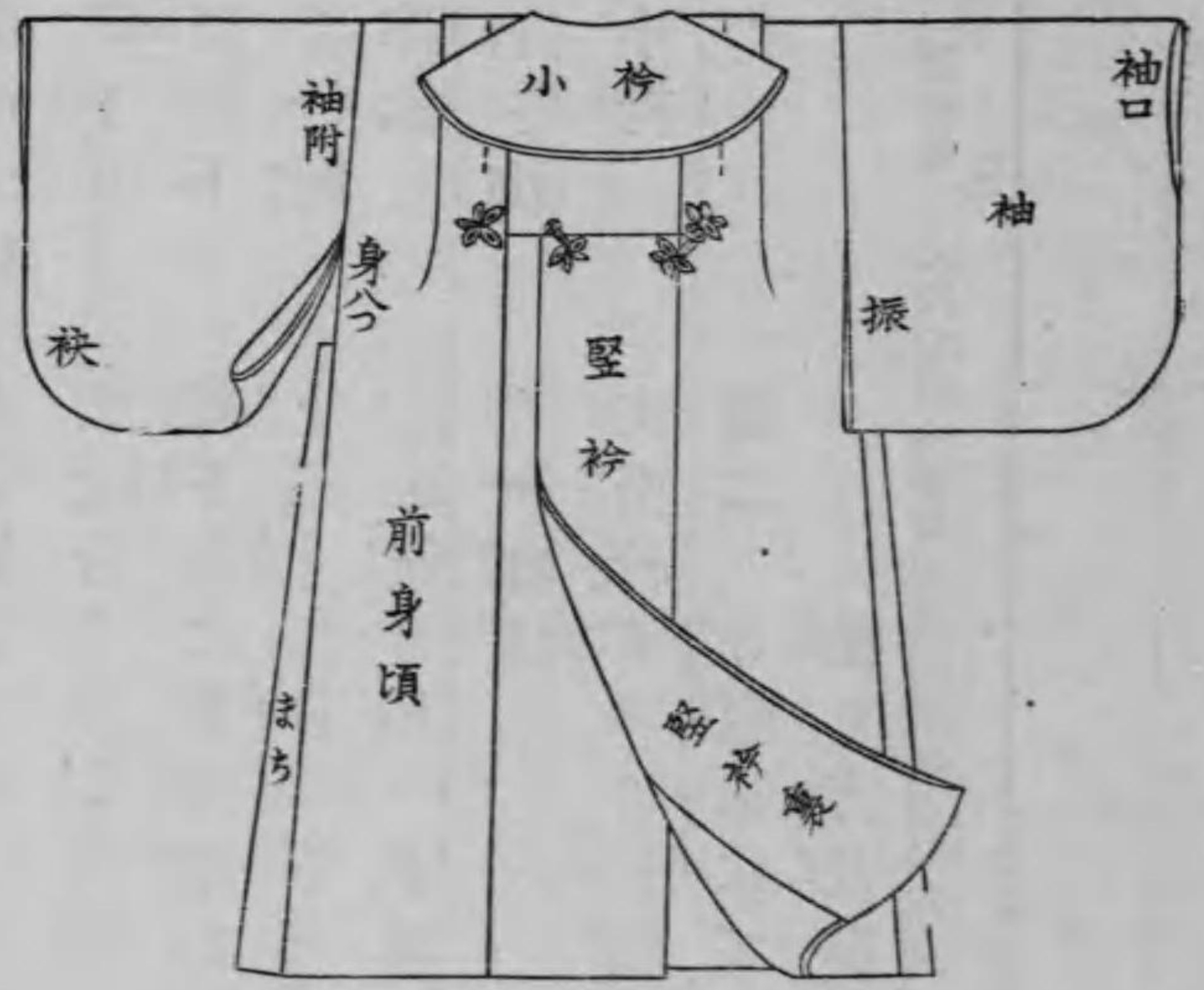
附を裏表綴ち附け、堅衿の上部の匳より一分先を裏より縫ひ、堅衿に綿を平に入れ表に返し、上部の縫込を裏の方に折りて堅衿裏を紵けるべし。

四 小衿を共通要頃に示せる如くなして作り其中央を表の脊縫に當て綿を離して待針を刺し表のみに小衿を縫ひ附け、身頃の方に折り裏身頃の衿附の處を折りて縫目の際に當て待針を刺し、堅衿下りの明と續きに紵け、次に脊縫を裾口より中程まで裏表綴ち合すべし。

五 飾紐を仕立上り圖の如く上前の堅衿の兩角に綴ち附け、下の堅衿の角に紐或はホックを附け、上前飾り紐の裏の所に下前紐なれば紐を附け、ホックなればかんぬき留をなすべし。

第二節 四つ身

稱名の部各び及圖のり上立仕布被身つ四



第五章 被布

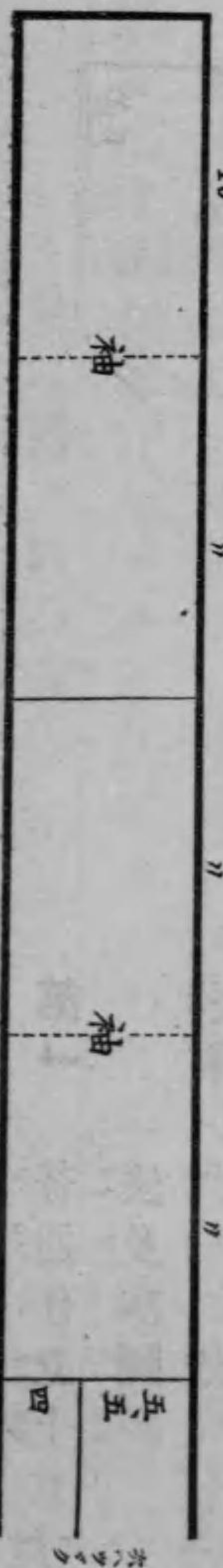
第一 普通仕立上り寸法及び圖

長着の寸法に依り凡左の如く増減すべし。

- 一 袖丈 同寸又は一分増し
- 一 袖口 同寸
- 一 袖附 二分増し
- 一 袖幅 同寸
- 一 身丈 着丈より三寸位減す
- 一 後幅 同寸

身八つ口 五分減じ  
 前下り 六七分  
 衿下りに五分増し  
 上三寸二分 下三寸五分  
 上五分 下一寸四分五分  
 二分増し  
 丈堅衿下りの二倍 幅は丈の三分の一位  
 第二 並幅物にて四つ身長袖被布表の裁ち方  
 積り方及び切り離し方

並幅物二丈にて四つ身長袖被布表の裁ち方



20

18

袖

袖

五

四



31

28.5

9

28.5

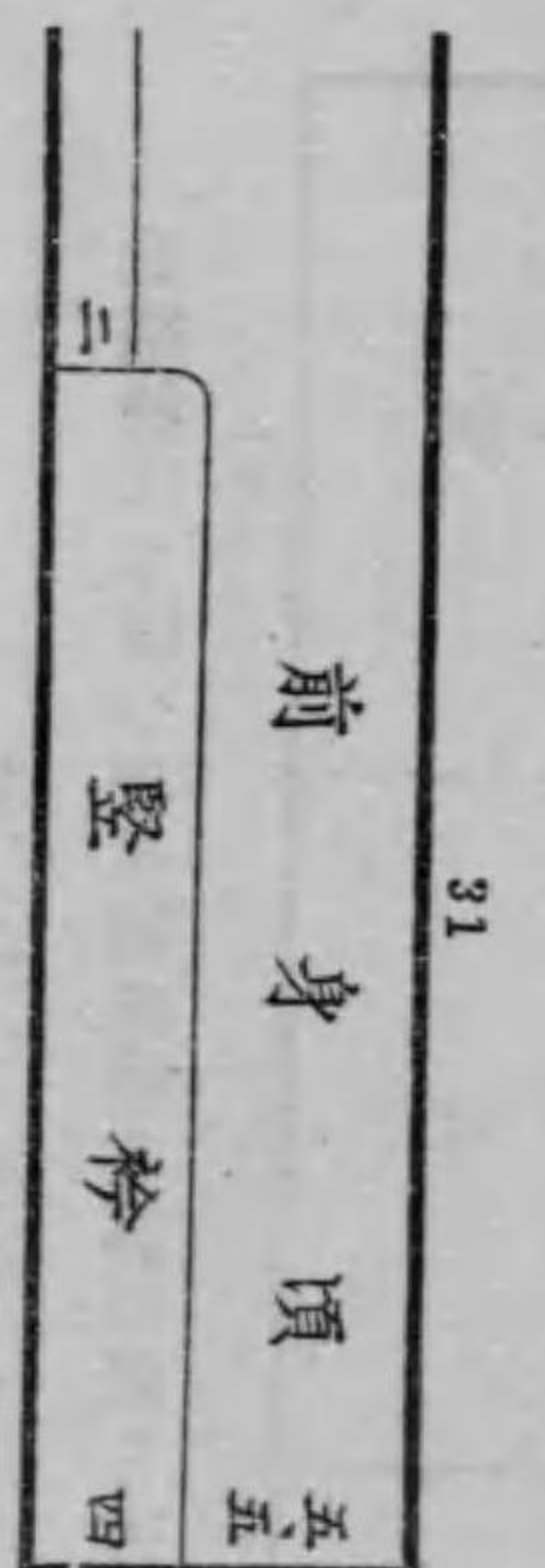
前身頃

後身頃

小衿

袖口

ハンダ



31

12

前身頃

後身頃

積り方

18 × 4 = 72 200 - 72 - 9 - 5 = 114  
 袖丈 總尺 袖布 小衿 二の前後  
 114 ÷ 4 = 28.5 後丈  
 28.5 + 2.5 = 31 前丈  
 28.5 の前後 差丈

切り離し方

總尺の中より七尺二寸を切り離し、之を二つに切りて兩袖となし、残りの布を二つに折り、裁目の方にて堅衿を幅四寸長さ三



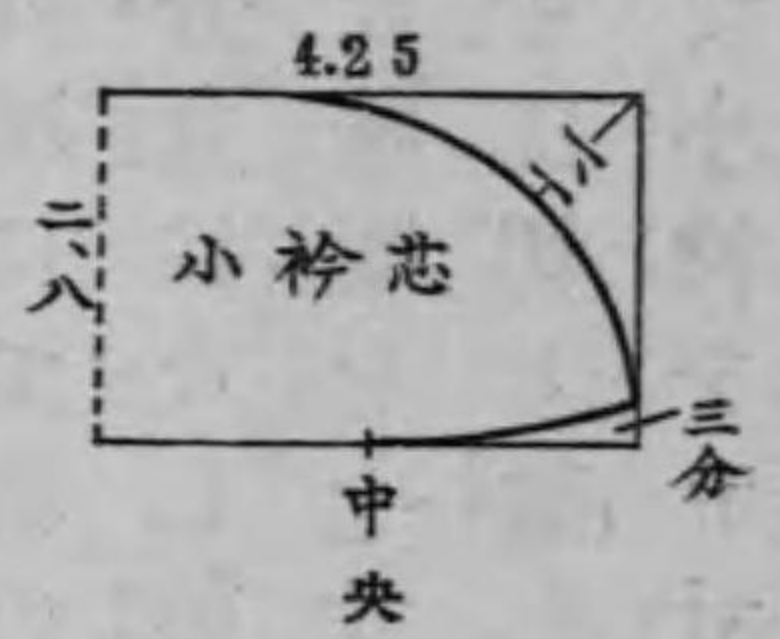
尺一寸に通し篋を附け、衿肩廻しの處を三分丸になして篋通り  
 裁ち落とし、次に後身頃の端を二寸に通し篋を附けて裁ち落とし、袖  
 口及び襷を切り離し、次に後身頃の輪の方より小衿丈の二分の  
 一(即ち四寸五分)を切り離すべし。

第三 並幅物にて四つ身長袖裁被布裏の裁方

並幅物にて四つ身長袖裁被布裏の裁方



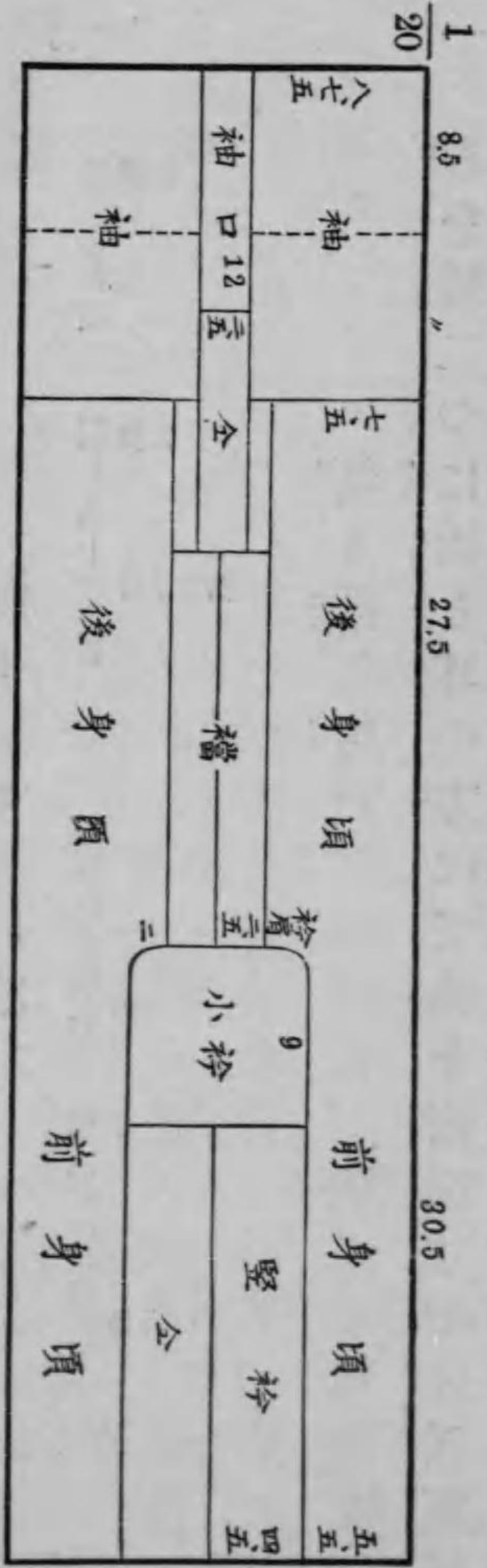
方ち裁の芯衿小  $\frac{1}{5}$



裏は表に做ひて切り離すべし。

第四 二尺幅にて四つ身長元祿袖裁被布  
 表の裁方積り方及び切り離し方

幅二尺長さ七尺五寸にて四つ身長元祿袖裁被布表の裁方



積り方

85 × 2 = 17

75 - 17 - 3 = 55

55 ÷ 2 = 27.5

27.5 + 3 = 30.5

切り離し方

一 布を縦二つに折り、耳の方にて袖を幅八寸七分五厘長一尺七寸に籠を附けて切り離し、一方の端より前丈三尺〇五分を度り、其所にて輪の方より四寸二分の處まで籠を附け、衿肩廻しを三分丸になし、前幅を五寸五分に通し、籠を附け、籠通り裁ち落とし、次に後幅を七寸五分に通し、籠を附けて切り離し、袖口布を二尺四寸に切り離し、其残りを從二つに切りて襠となし、前の裁落しにて小衿を九寸切り離し、其残りを從二つに切りて豎衿となす

べし。

第五

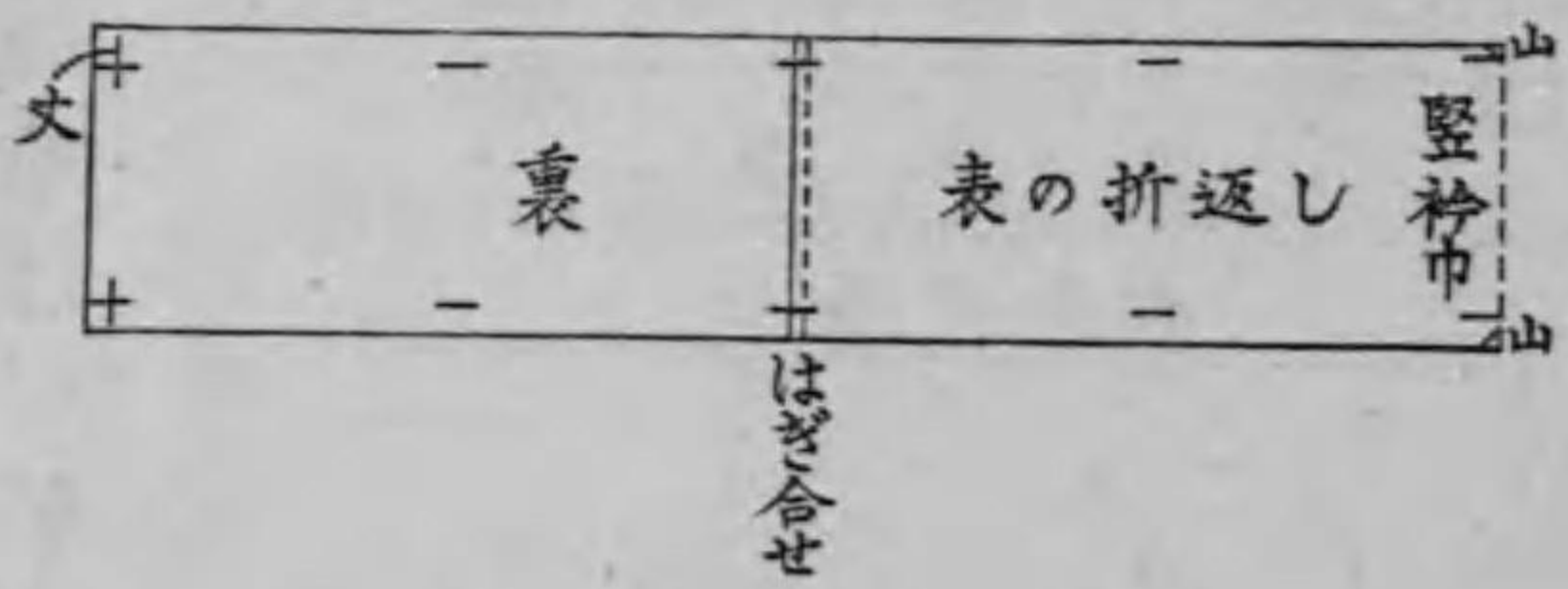
四つ身被布籠の附方及び説明  
元祿袖は四つ身羽織の所に説明しあれ  
ば其所を見るべし。

其他の籠附及び縫方等は本裁被布と同  
様なれども、豎衿に裏の附く點に少しく相  
違あれば、其所のみを左に示す。

一 豎衿の丈を裏に折り返す場合には裏  
表のはぎ合せをなし、裏の方に折りて、裏  
掛け然る後に圖の如く籠附をなすべし。  
一 縫目、豎衿を附る時は、身頃は裏表に續きに  
縫目るべし。

豎衿

豎衿の丈を裏に折り返す附け方圖



第五章 被布

一 紵の時

紵の時  $\frac{1}{10}$  は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

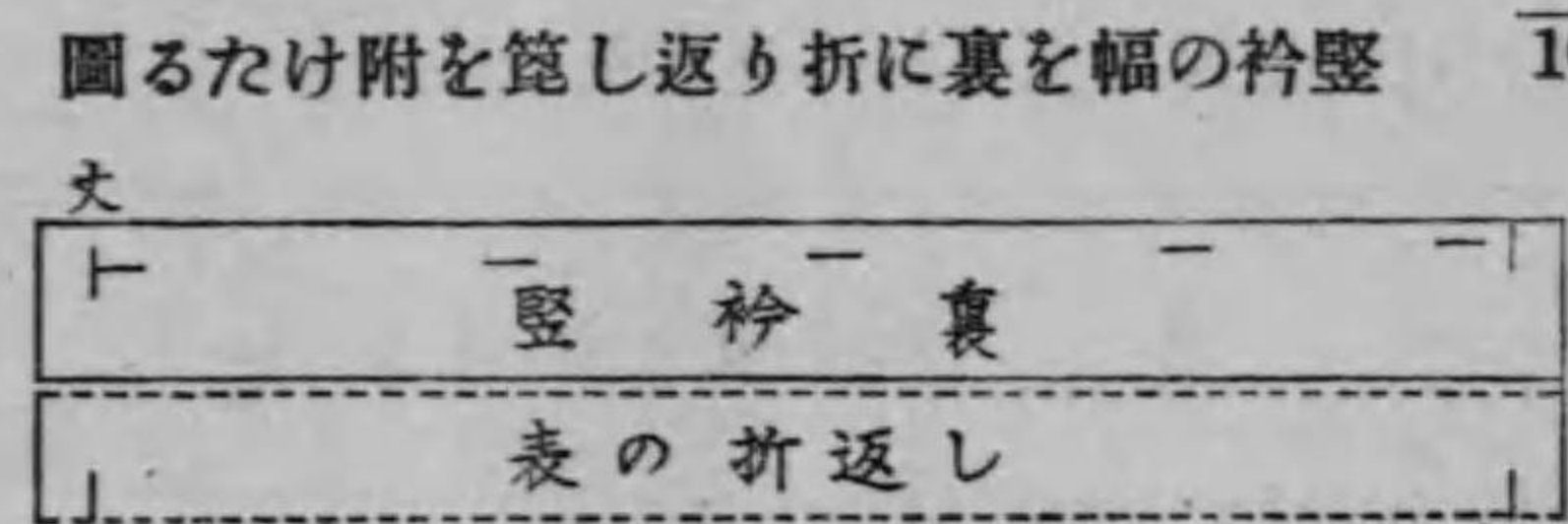
紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より

一 紵の時は

紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より



一 紵の時は 紵の表の端に綿を含み、筒通り折り裏は筒より  
 一 分五厘程奥を折り、裾口の所は裾形の如  
 くなして、襷にて綴ち置き、之を紵けるべし。  
 一 紵の幅を裏に折り返す場合には、裏  
 表のはぎ合せをなし裏の方に折りて、襷を  
 掛け、然る後、筒通りをなすべし。  
 一 縫方は本裁被布と同様になすべし。

第三節 三つ身

第一 普通仕立上り寸法

各部の寸法は長着の寸法に依り凡左の  
 如く増減すべし。  
 同寸又は一分増し

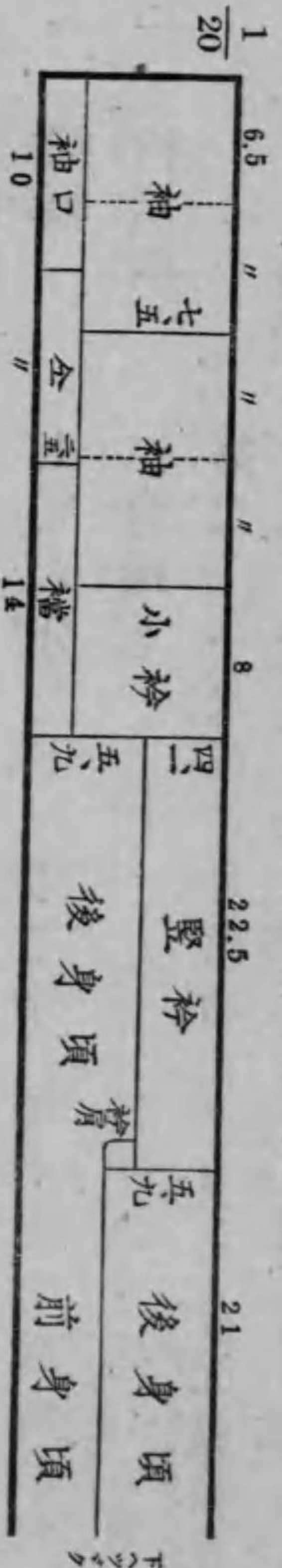
一 一 一 一 一 一 一 一 一

袖口、袖幅  
 袖附  
 身丈  
 後幅  
 身八つ口  
 前下り  
 衿下り  
 衿幅  
 襟幅  
 衿肩明

同寸  
 二分増し  
 着丈より三寸位減す  
 同寸  
 五分減す  
 五六分  
 衿下りに五分増し  
 上二寸八分 下三寸  
 上五六分 下一寸三分  
 二分増し

第二 一尺幅の片面物にて三つ身元、襟袖裁被  
 布表の裁ち方積り方及び切り離し方

幅一尺長さ一丈の片面物にて三つ身元祿袖裁被布表の裁ち方



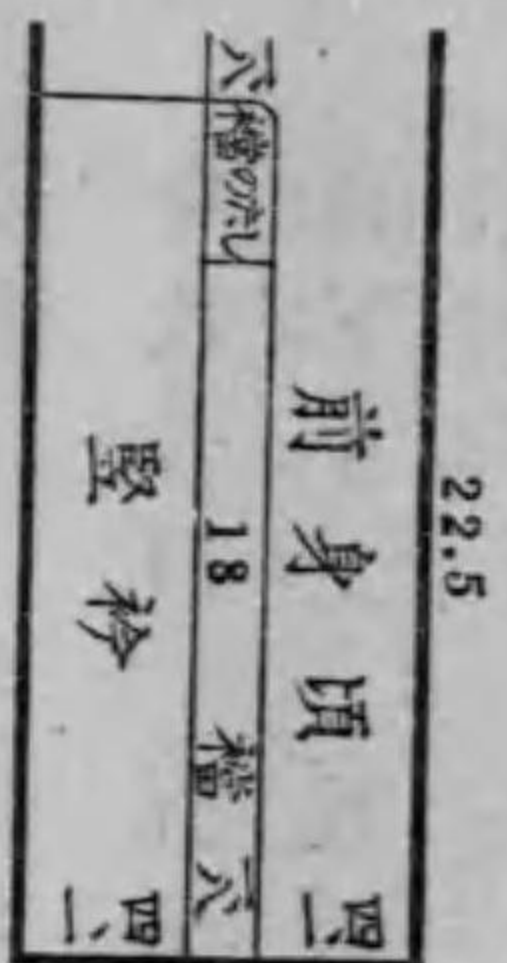
積り方

$$65 \times 4 = 26 \quad \text{袖丈}$$

$$100 - 26 - 8 - 3 = 63 \quad \text{總尺}$$

$$63 + 3 = 21 \quad \text{後丈}$$

$$21 + 15 = 22.5 \quad \text{前丈}$$



切り離し方

一 總尺の中より三尺四寸を切り離し、其端より幅二寸五分を

切り離し、狭き方にて袖口及襠を廣き方にて小衿及び袖を寸法通り切り離し、残りの布の端より豎衿丈二尺二寸五分を度りて、衿を附け置き、幅を四寸一分に通し、衿をなし、其衿の處にて後身丈二尺一寸を度り、其衿より衿肩を一寸五分に衿を附け、衿肩廻しを三分丸になし、前幅を四寸一分に一方の豎衿の端まで續きに、通し衿を附け、其處を切り離し、豎衿を一方は後身の端より一方は前身の端より方法通り切り離し、次に残りの布より圖の如く、前身の向き合せになる様にして、衿肩を明け、襠を切り離すべし。

第三

並幅物にて三つ身元祿袖裁被布裏の裁ち方

並幅にて三つ身元祿袖裁被布裏の裁ち方



切り離し方は表に做ふべし。

篋の附け方及び縫方は本裁被布と同様に  
して、衿の所は四つ身被布に説明しあれば、  
其處を見るべし。



第四節 一つ身

第一 一つ身袖無被布普通仕立上り寸法

一尺二三寸

六寸位

脇明

身丈

身幅 一ばい  
前下り 三四分  
襠幅 上一寸  
衿下り 三寸  
衿幅 上二寸八分  
小衿 丈六寸

幅一尺長さ五尺二寸にて一つ身袖無被布表の裁ち方

第二 一尺幅物にて一つ身袖無被布表の裁ち方  
方積り方及び切り離し方

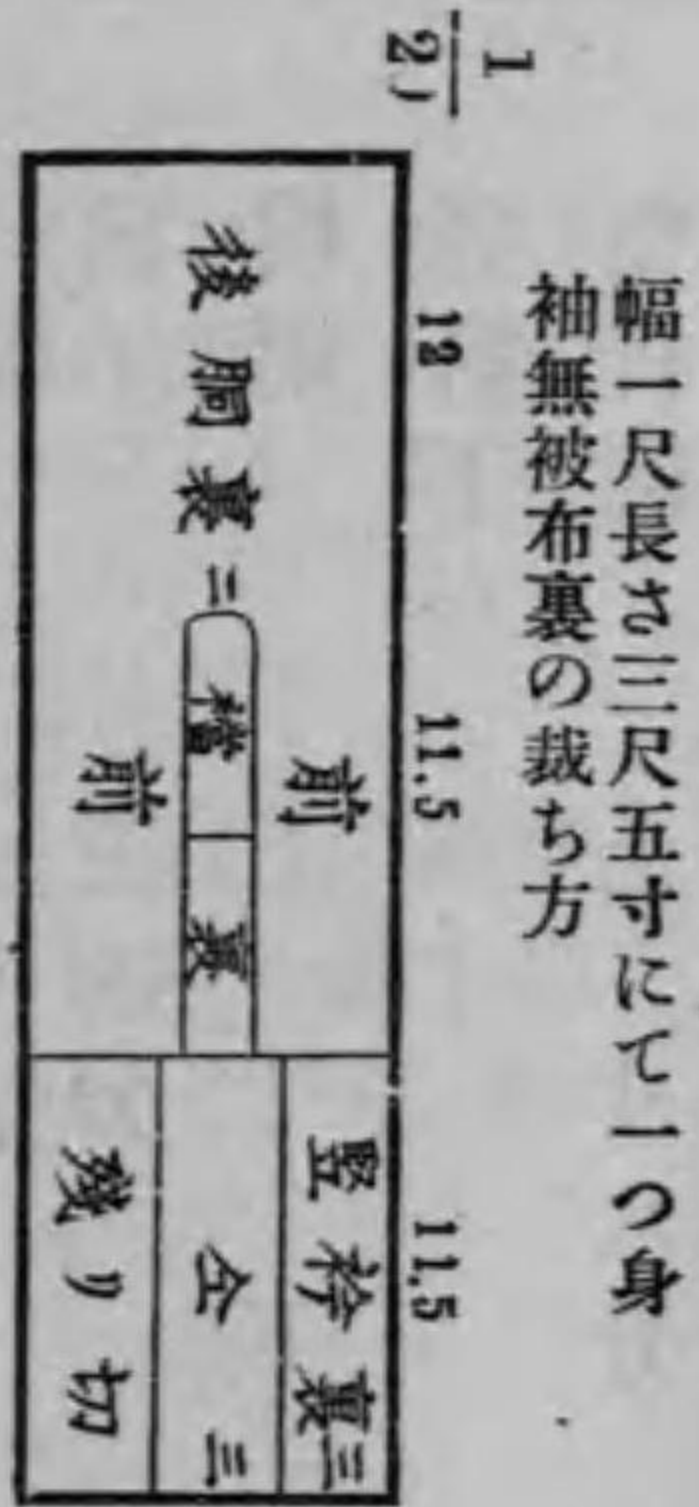


積り方  
 52-11.5-6.5-2=32 32+2=16 後丈  
 襦尺 衿 小衿 の前後  
 16+2=18 前後 後丈

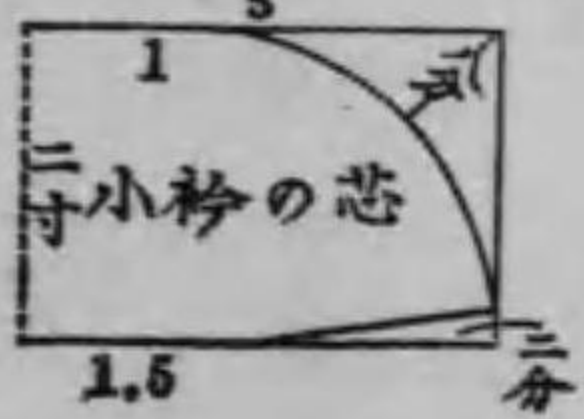
切り離し方

一 總尺の中より一尺一寸五分を切り離し、之を半幅に切りて  
堅衿となし、残りの布を縦二つに折り、輪の方にて後丈を一尺六  
寸に度り、衿肩を八分に篋を付け、衿肩廻しを二分丸にして、輪の  
方を一寸幅に通し、篋を付け、篋通り裁ち落して、襦となし、前身の  
下より小衿を六寸五分切り離すべし。

第三 一尺幅にて一つ身袖無被布裏の裁ち方



方ち裁の芯衿小 1/5



裏は表に做ひて  
切り離すべし。

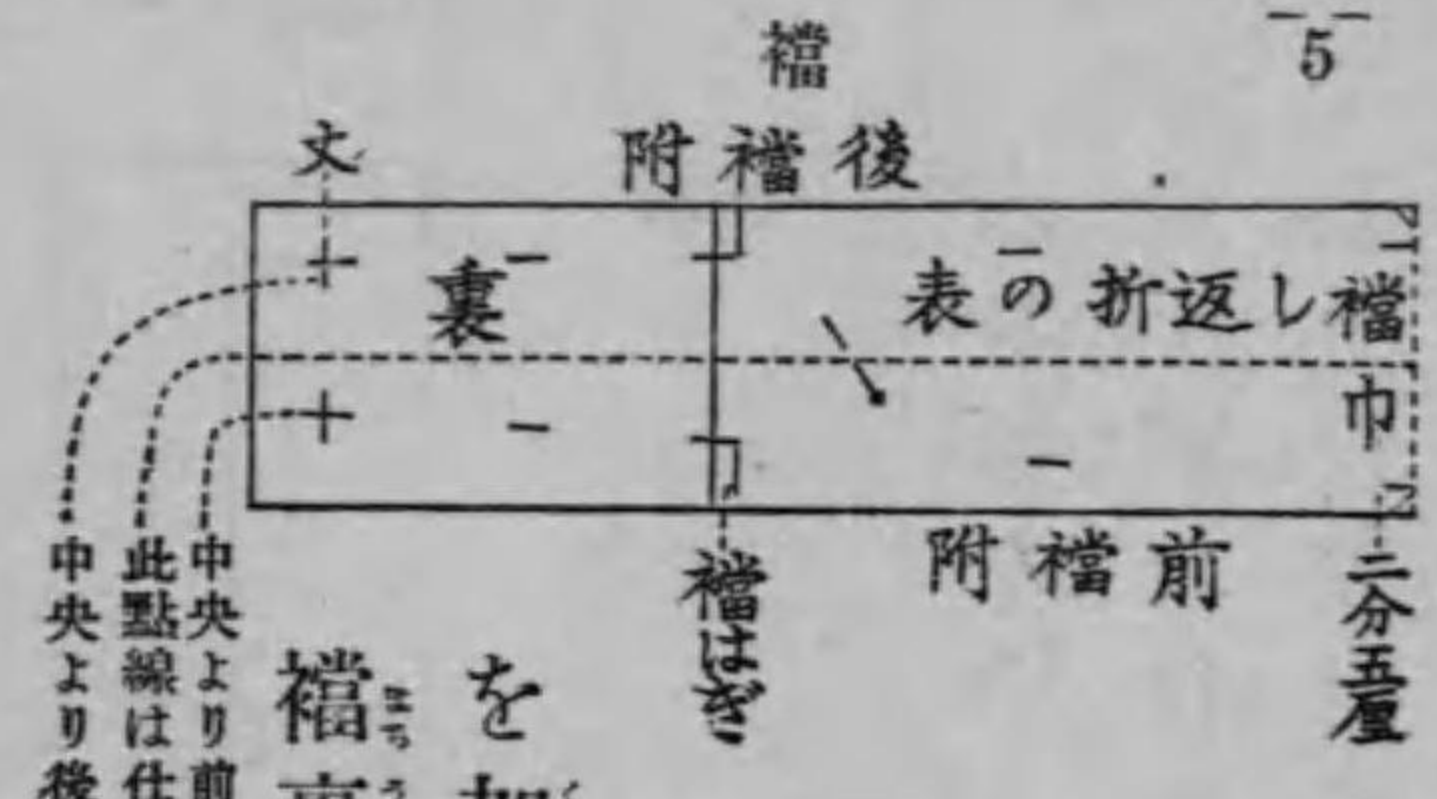
第四 一つ身袖無被布篋の付け方及び説明



一 表身頃を中表にして幅を二つに折り、第一圖の如く衿肩を  
自分の手前に、後身頃を左にして裏身頃を二つに折り、衿肩を揃  
へて其上に載せて待針を刺し、後丈を度りて其所より裏に折り  
返し待針を刺し、前身を後丈に八分加へたるものを度り、其所よ  
り裏に折り返し待針を刺し、次に第二圖の如く肩明を後へ一分  
繰り起し、山脇明裾山等の篋附をなし、裾口にて後幅を度り、前身

に掛けて箆を附け、次に前下りの箆を、後の裾山より四分五厘と、後幅の所にて裾山より一分五厘とに箆を附け、差し渡し其間に箆を附け、次に肩幅及び後幅の箆を附け、後身頃を左に開きて、胴はぎ及び縦衿下りの箆附をなし、襦丈を後の裾山より脇明の箆まで度り、次に縦衿丈を後の衿下りの箆より前下りの箆まで度り置くべし。

一 表襦を二枚合せ、襦丈に上部の縫代五分を加へたるものを度り、残りを裏に折り返し、次に襦裏を二枚合せ、上部を揃へて表襦の上に載せ、折り返しの下に入れて待針を刺し、裾山の箆をなし、襦丈を度りて箆をなし。



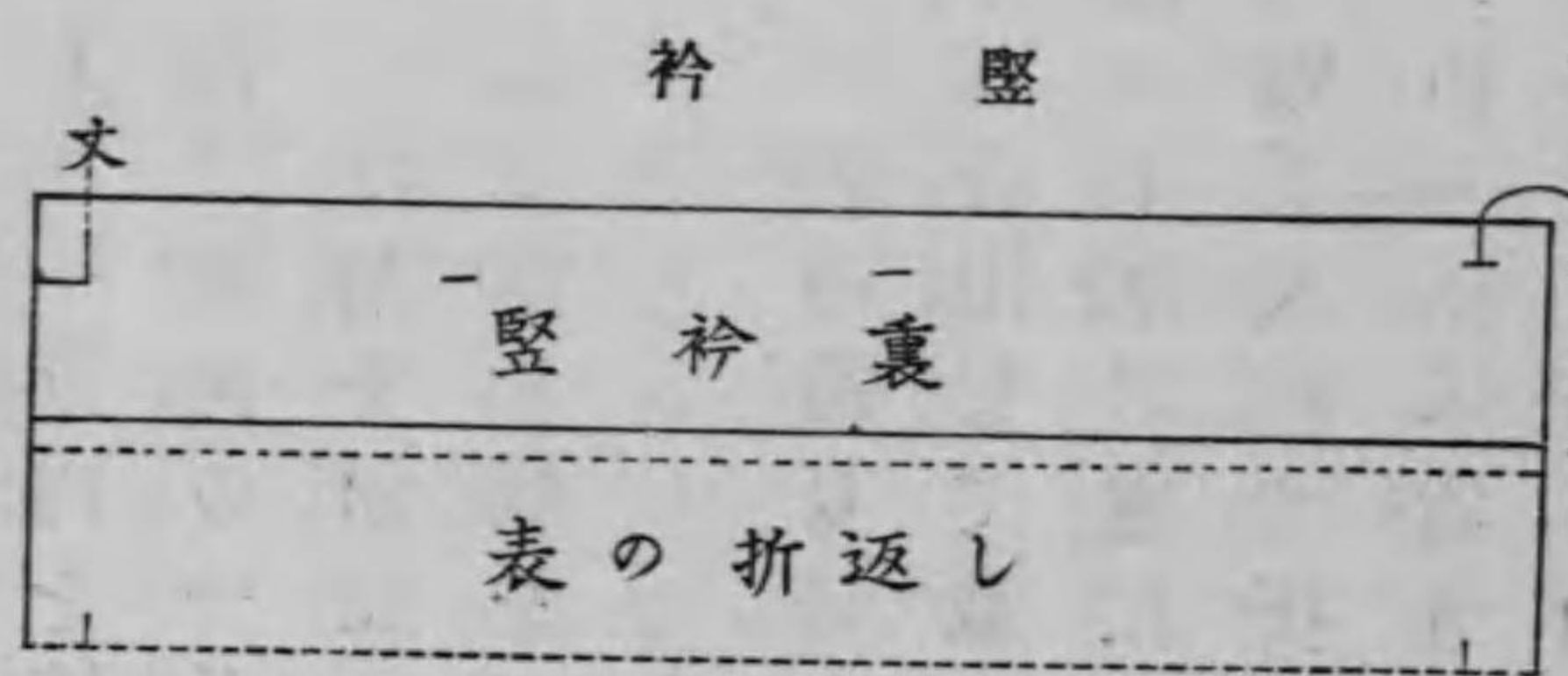
し、圖の如く後前の襦附の箆及び襦はぎの箆を附るべし。

一 縦衿の幅を裏表はぎ合せ、裏の方に折りて、躰を掛け、中表に合せて縦二つに折り、輪の方を手前になして、本裁被布の縦衿の如く、箆附をなすべし。

第五 一つ身袖無被布縫方順序

一 身頃前下り胴はぎの縫方襦及び縦衿の附け方は、總て本裁被布と同様なり。

二 襦の上部を裏表とも内側に折り、仕立上の如く表を出して、前身頃の裏表の間より、前の脇明の箆の處を四つ留になし、次に後を引き出して、同じく四つ留になし、襦の上部を



篋より一分内を幅だけ縫ひ次に脇明の所を表は幅篋の一分外裏は幅篋の一分内を合せて待針を刺し脇明の篋より一寸ばかりの間を斜になして待針を刺し其所を縫ひ合せ裏の方に折り表に返し襟を掛るべし。

第六 一つ身袖無被布綿の入れ方及び衿付け方

一 表の後身の裏を出して其上に真綿を引き、綿を裾丈より一寸五分出して載せ、裾綿を入れて折り返し、綿の上に真綿を引き、襠の上部の處にて綿を横にちぎり、脇明の所を少しく厚く裾綿の如く入れて折り返し、脇明より下部の綿を前身頃の裏表の間に折り込み置き、次に肩の處より裏表の間に手を入れ、兩方の裾口をつまみて引き出し、前身頃を平になし、其上に真綿を引き、後より續きの綿を肩及び襠の所より前身頃に折り返し、平に入

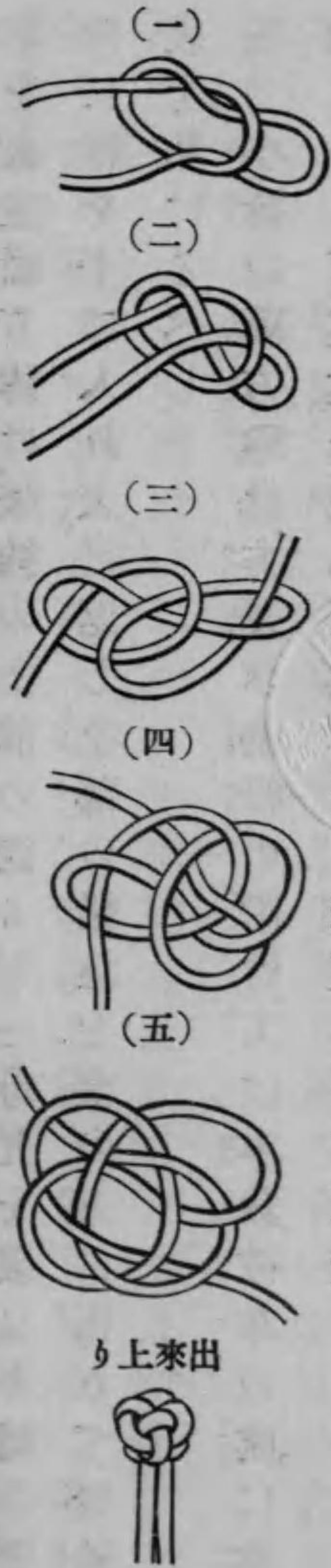
れ、其上に真綿を引き、表の下に手を差し入れ、其前を引き返して綿の上に被ぶせ平になし、裏表の布を正しく引き合せ置くべし。  
二 裾口及び脇明の處に綿を含めて、襟にて假綴ぢをなし、前襠附を表裏合せて中綴をなすべし。  
三 豎衿下りの明の裏に綿を含み、豎衿下りの篋を合せて、豎衿附を裏表綴ぢ付け、豎衿の上部の篋より一分先を裏より縫ひ、豎衿に綿を平に入れ、表に返し、上部の縫込を裏の方に折り、豎衿裏を衿けるべし。  
四 小衿の縫方付け方及び飾紐の付け方は、本裁被布の處に説明しあれば、其處を見らるべし。



第六章 飾紐結數種

(110)

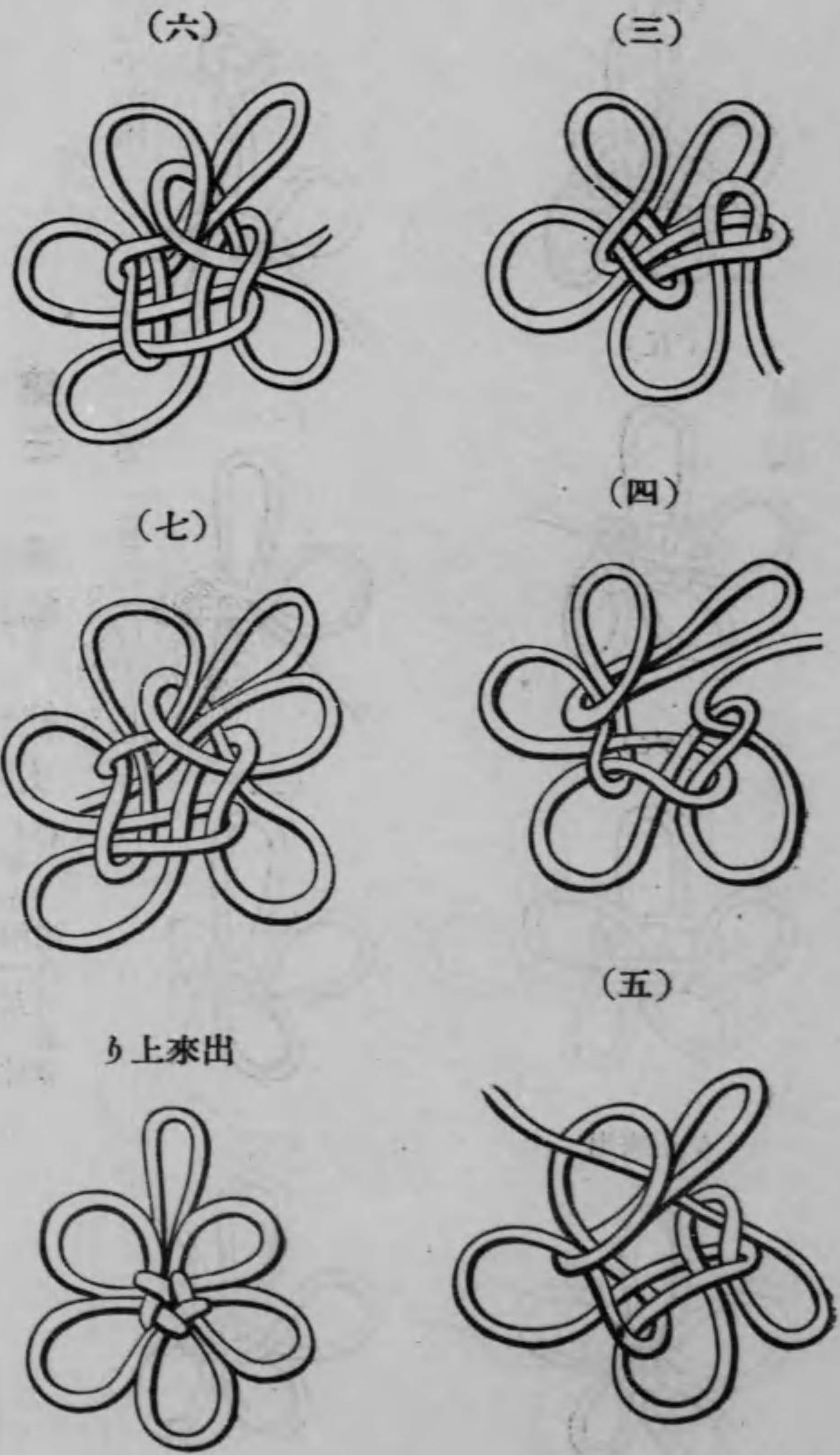
第一 しゃか結 紐丈 四寸五分



第二 梅結 紐丈 しゃか附一尺三寸



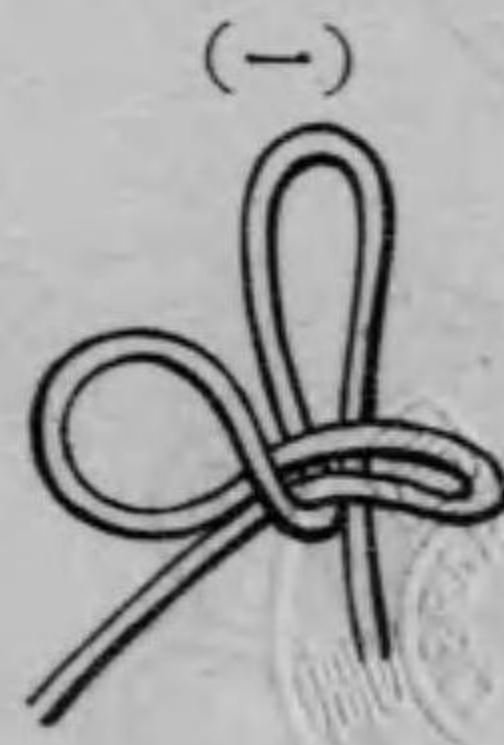
(111)



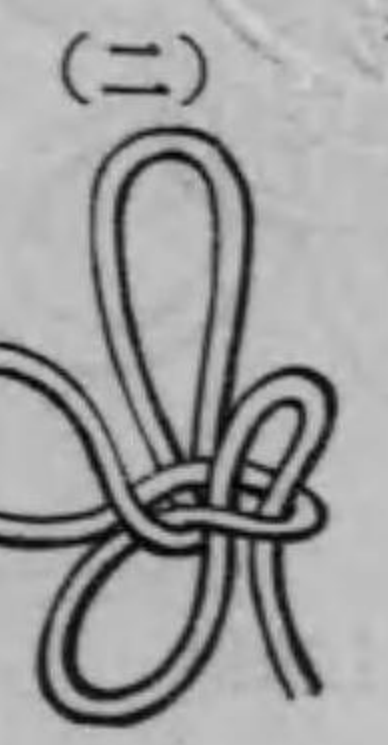
しやか附



わ附



第三 蝶結 紐丈 八寸五分



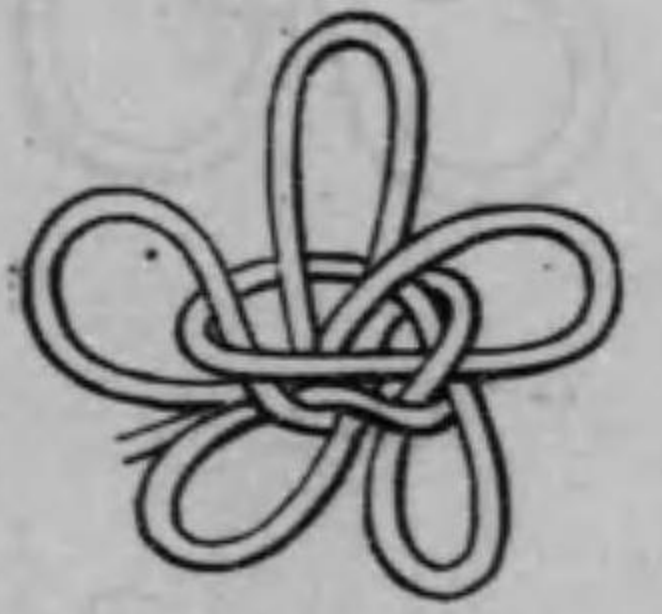
(四)



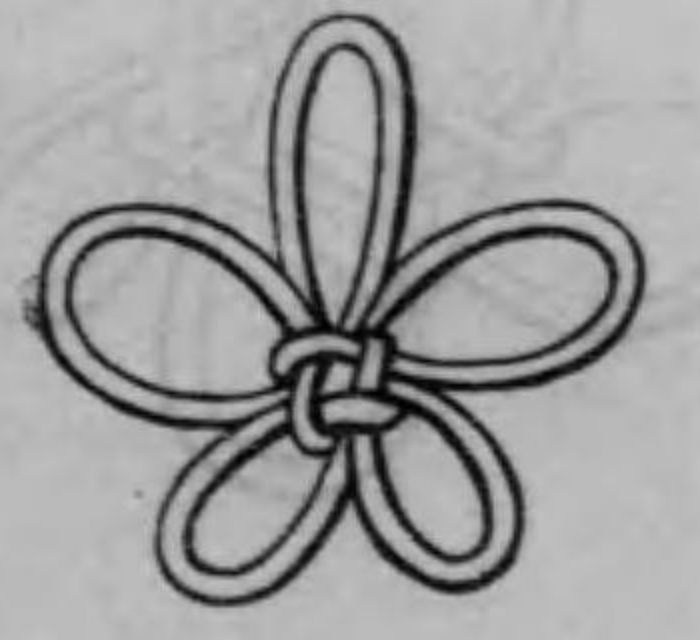
(五)



(六)

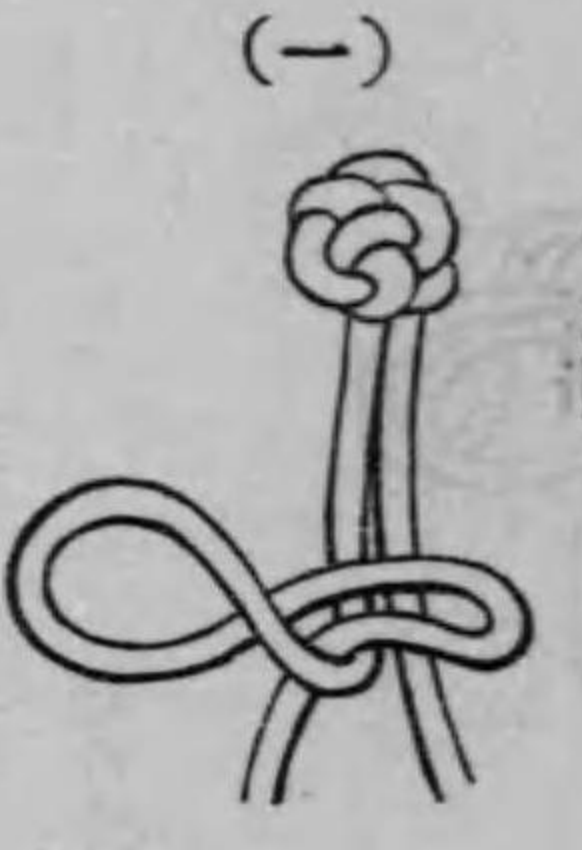


り上來出

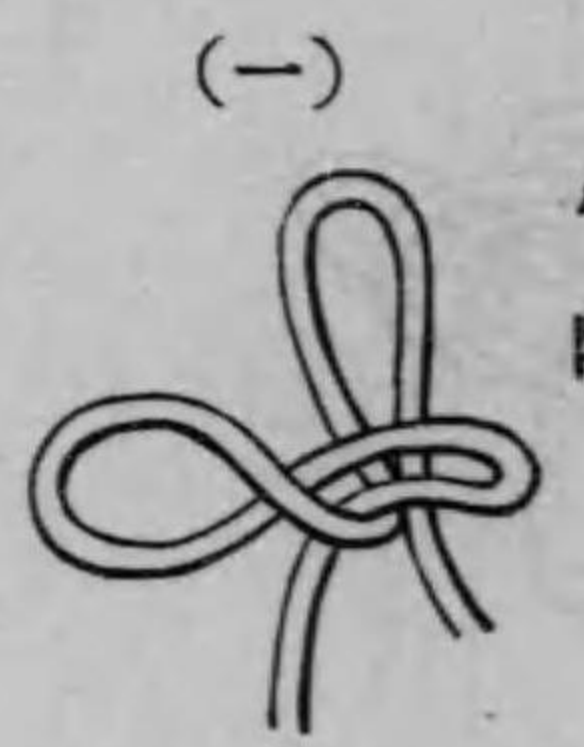


(11111)

しやか附



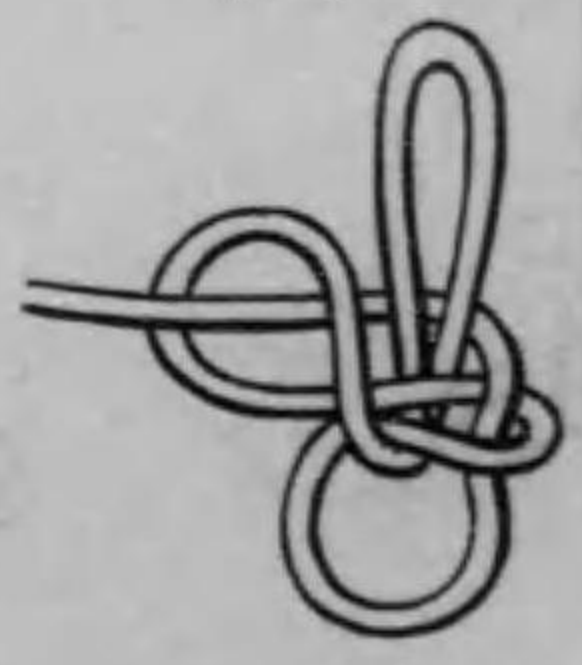
わ附



第四 くろう葉結 紐丈 八寸五分



(三)



(四)



(五)



り上來出



(11111)

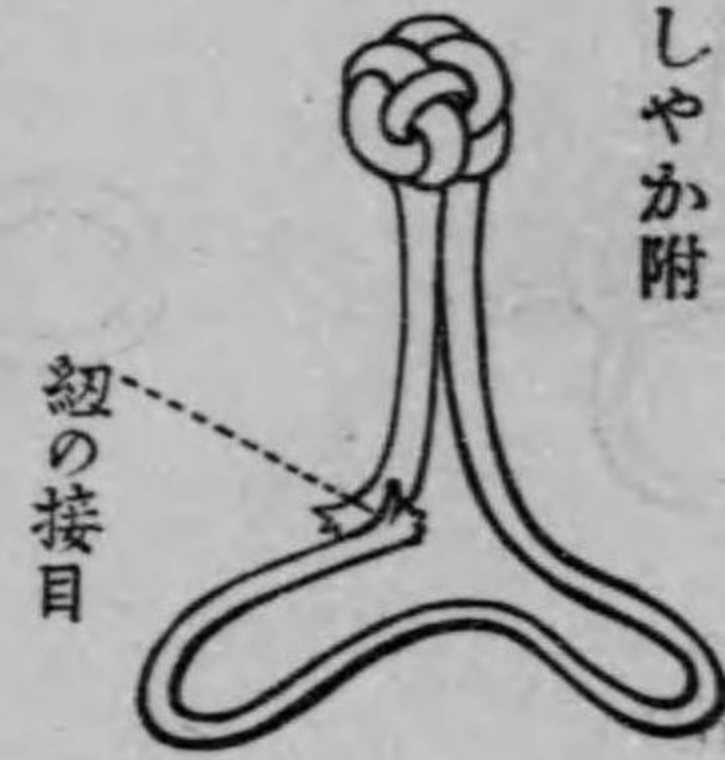
第五

新橋結

紐丈わしやか附八寸五分

(114)

(一)



しやか附

紐の接目

(一)

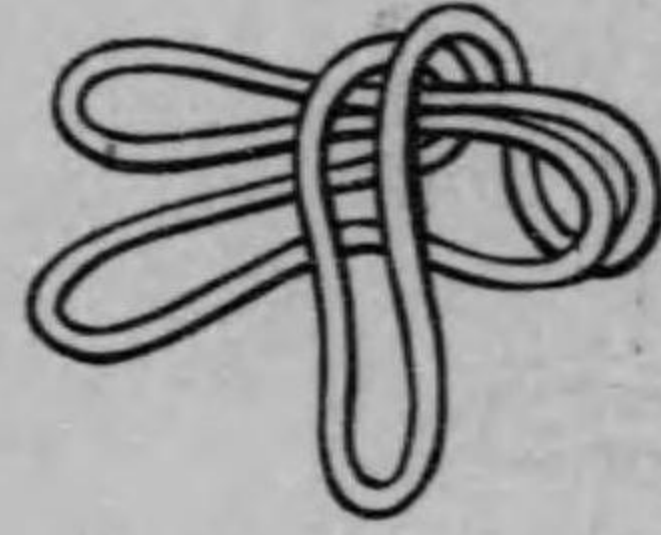


わ附

(二)



(三)



(四)



(五)



り上來出



第六

わらび結

紐丈わしやか附六寸五分

(115)

(一)



(二)



(三)

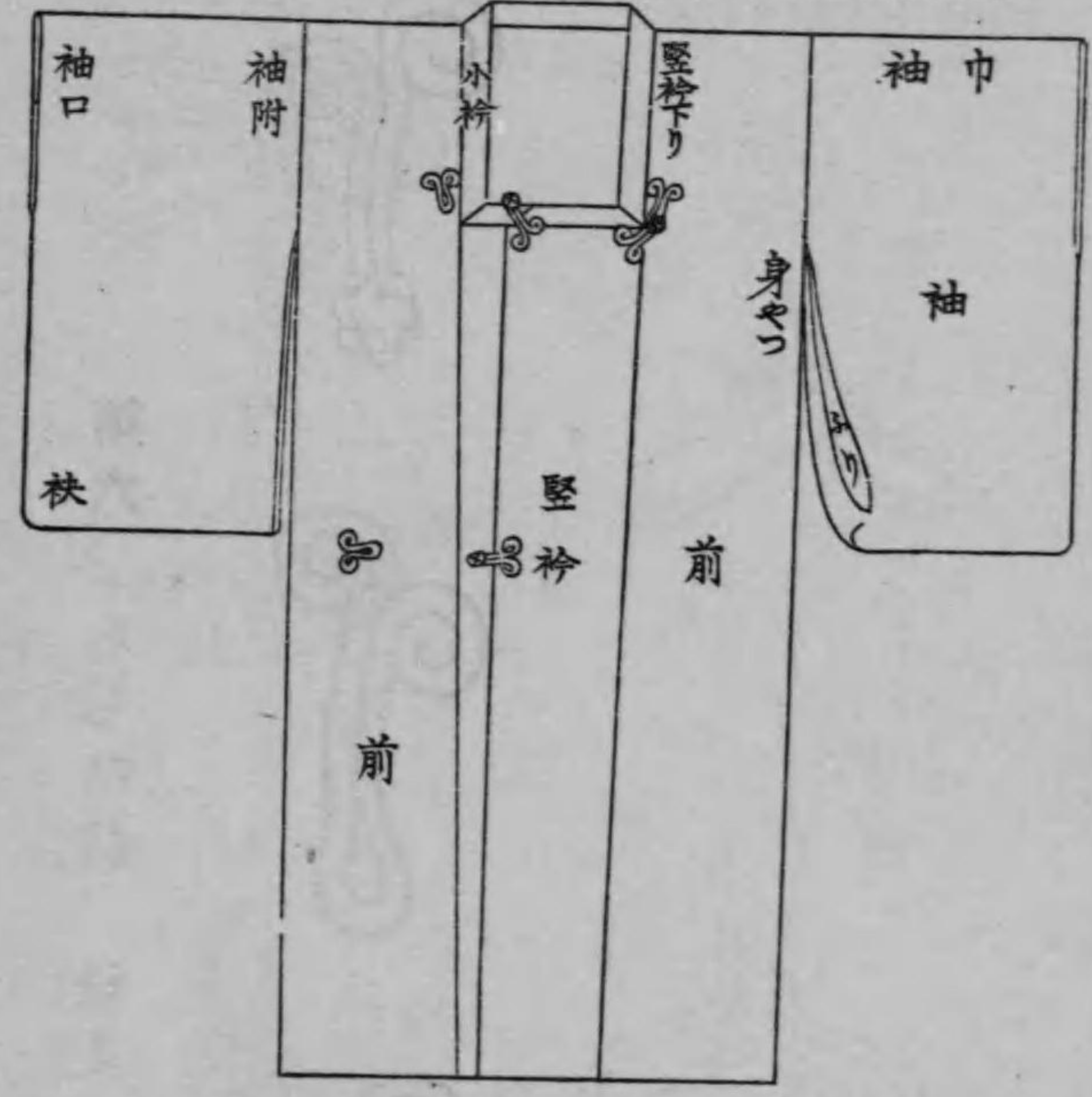


(115)

第七章 合羽

(二二六)

本裁女物道行合羽仕立上りの各部名称



第一節

第一

本裁女物道行衿 普通仕立上り寸法及び 圖並に各部 の名稱 三尺三寸 着物より二 分多く 袖口 着物と同寸

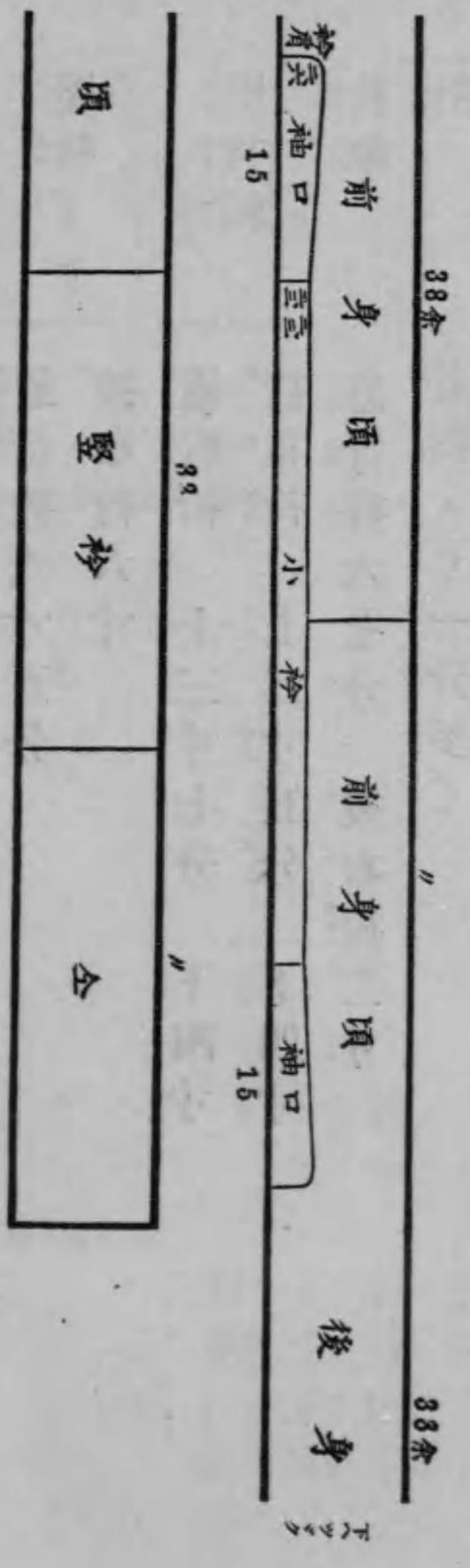
袖附 着物より二分多く  
 袖幅 着物より一分多く  
 身幅 着物より五分位多く  
 衿下り 道行衿六寸五分  
 被布衿六寸  
 道行衿 上三寸七分 下四寸  
 被布衿 上三寸五分 下四寸  
 道行衿 六七分 被布衿二寸  
 衿幅 着物より一分多く

第二 並幅物にて道行衿合羽の裁ち方積り方

及び切り離し方

(二二七)

並幅一反(二丈八尺)にて道行衿合羽の裁ち方



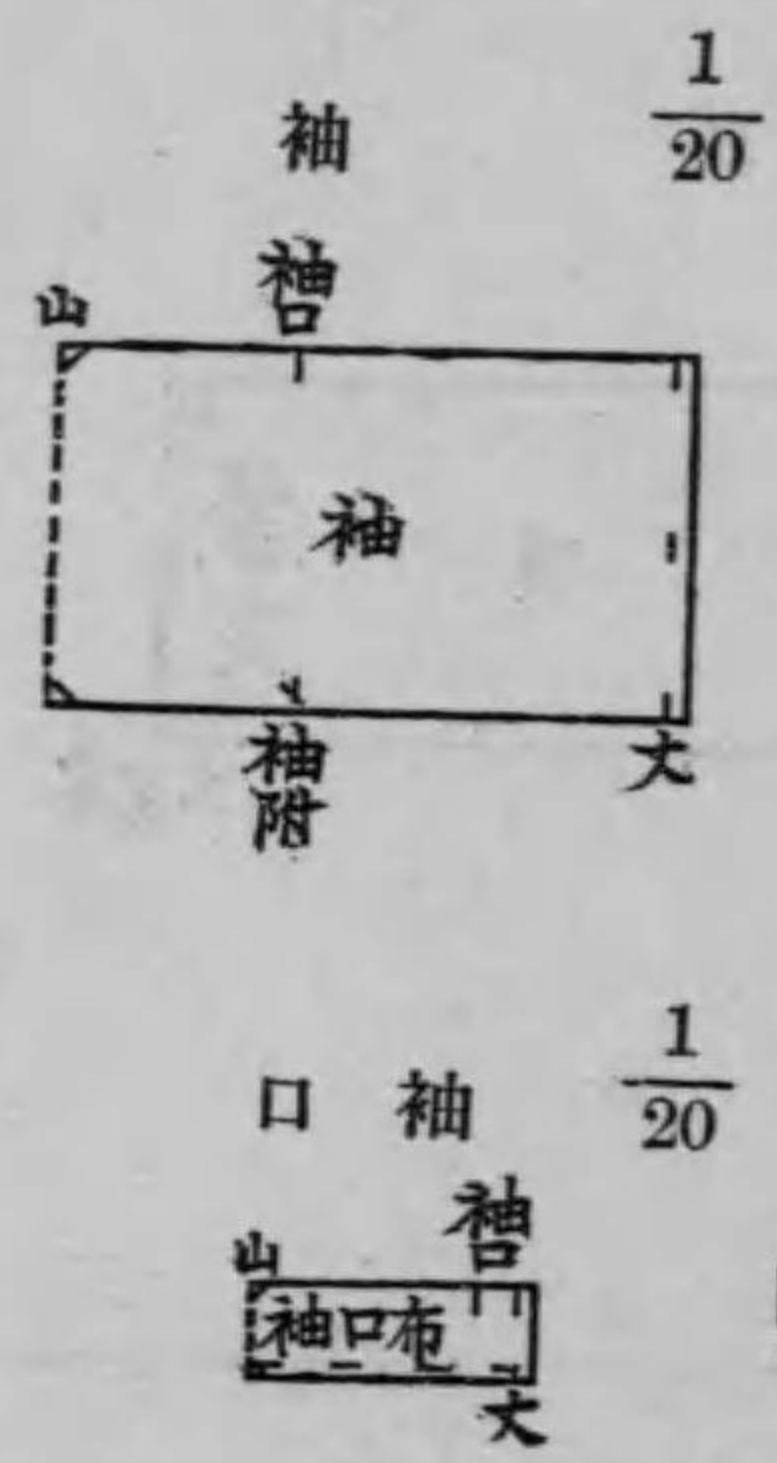
積り方

袖丈  $16.5 \times 4 = 66$       袖尺  $282 - 66 = 216$   
 $216 + 6 \times 2 = 228$        $228 + 6 = 38$  身丈

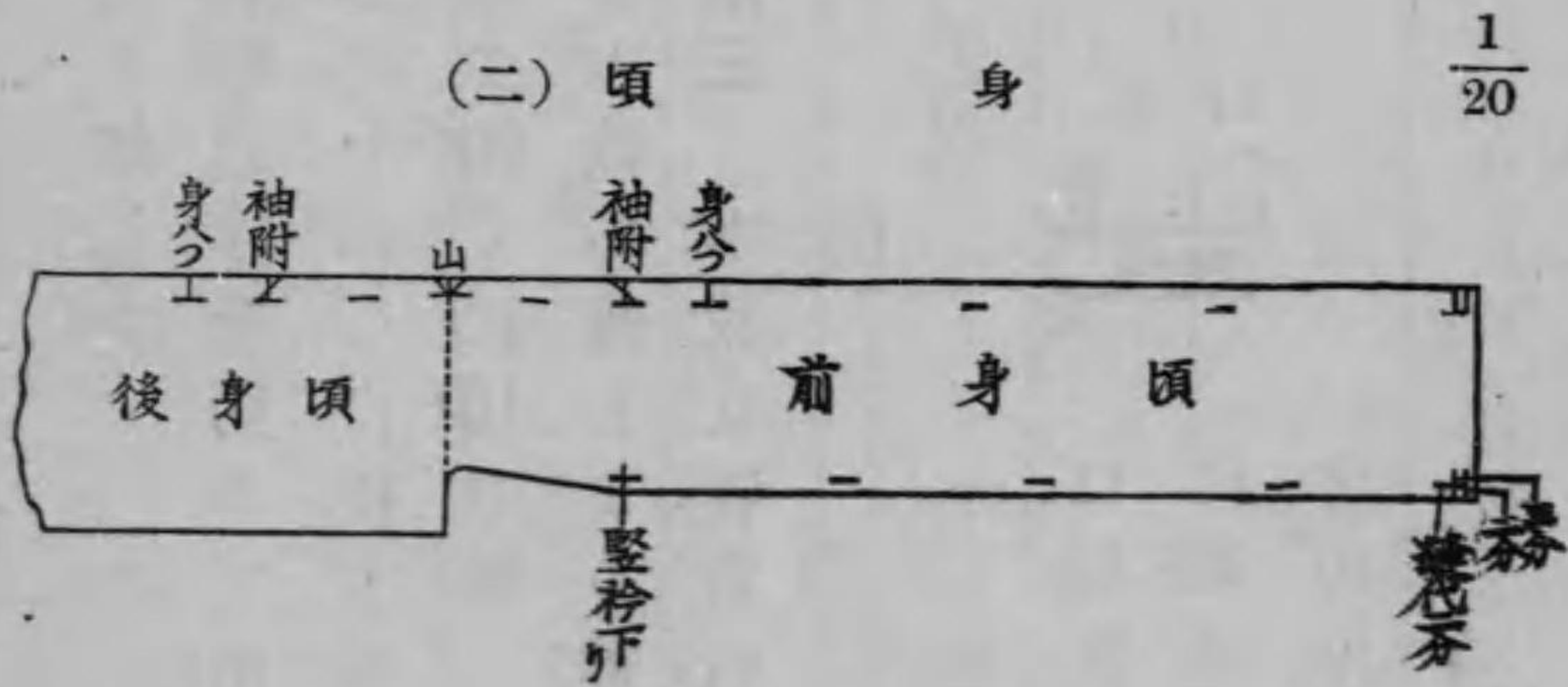
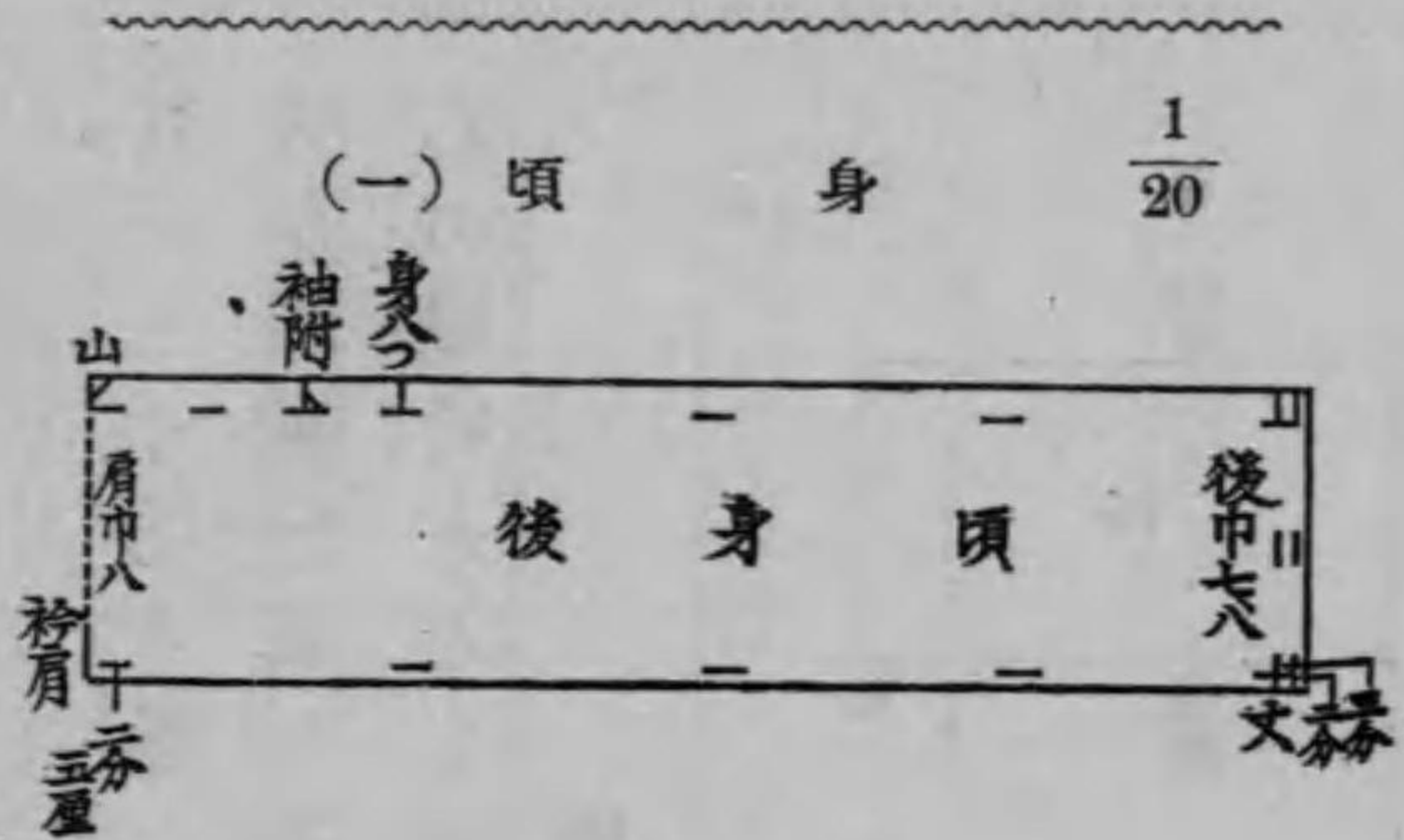
切り離し方

總尺の中より六尺六寸を切りて兩袖となし次に身頃を一丈五尺二寸切り離し之を四つに折り衿肩を寸法通りに輪の方に羽織の前を裁ち落す如くに切り離し残りの布を二つに切り左右の豎衿となし前の裁ち落しより袖口及び小衿を取るべし。

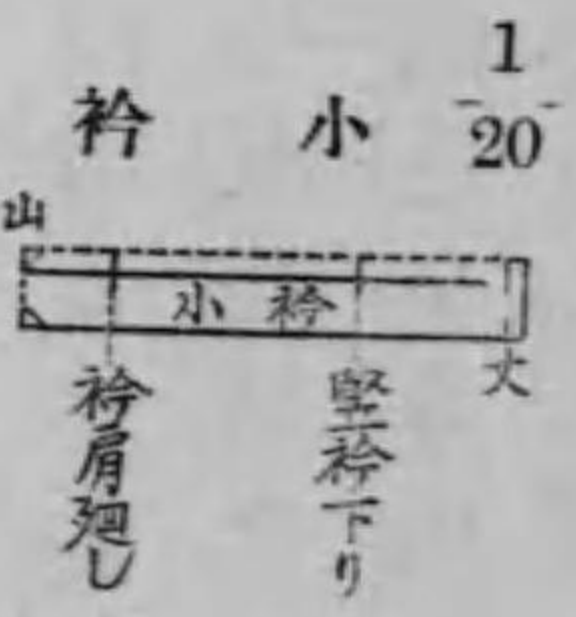
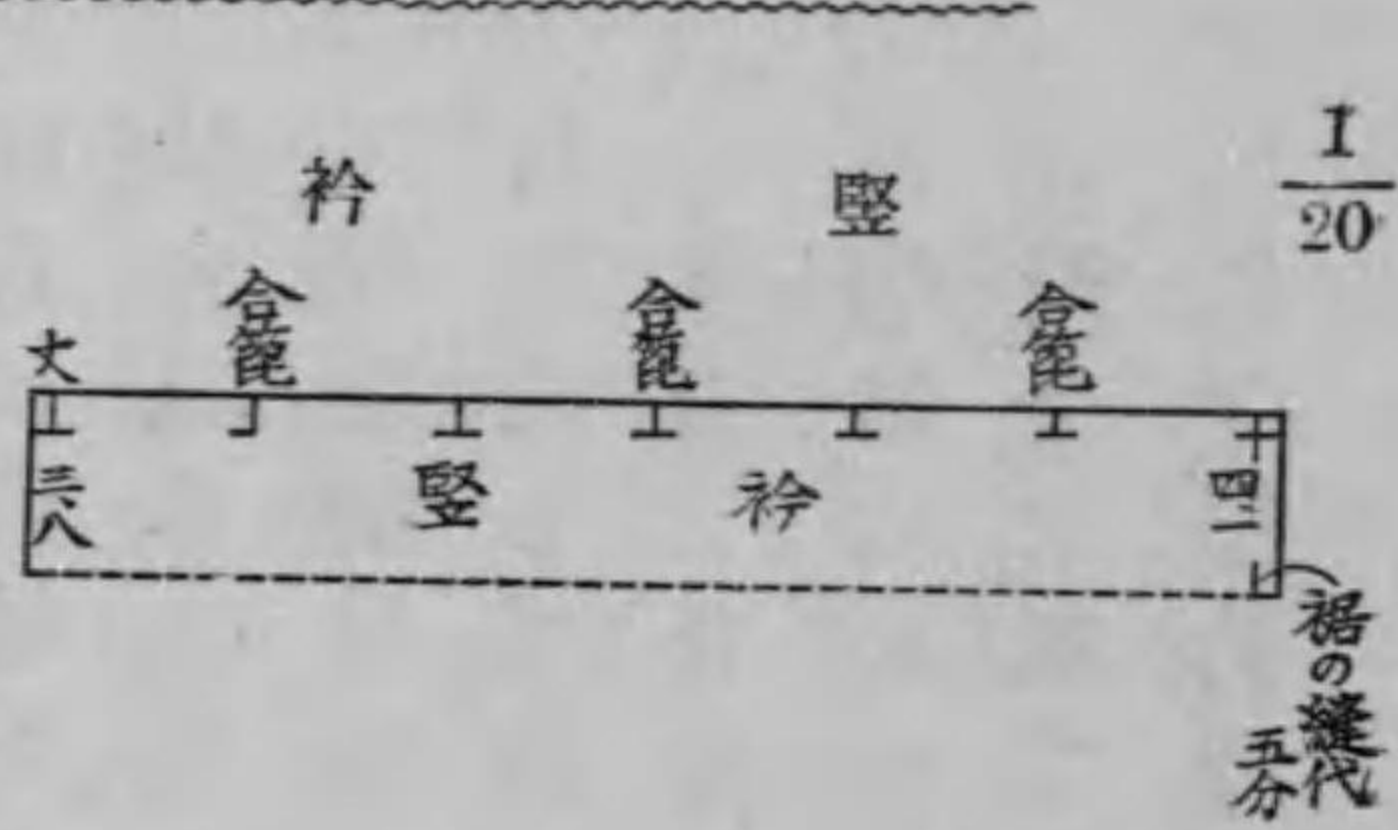
第三 本裁女物道行衿合羽の附け方及び説明



一 袖を普通女物の如く山丈袖に袖附袂の丸み等の鏡を附け別に袖口布を圖の如く山丈幅袖口等の鏡を附けるべし。  
 一 身頃を普通着物の如く山丈



(一三〇)  
袖附、八つ口等の籠を附  
け、脊縫の籠をなし、後幅  
及肩幅の籠を附け、後身  
頃を左に開きて、堅衿下  
り及前幅の籠を附け、堅  
衿の丈を(堅衿下りより  
裾口の籠まで)度り置く  
べし。  
一 堅衿を二枚合せ縦  
二つに折り、輪の方を手  
前になし、裾の縫代の籠  
をなし、其籠より堅衿丈



堅衿上部の幅と同じ寸法に衿丈の籠を附け、一方は丈の籠のみ  
附け置くべし。  
一 小衿は出来上り幅の二倍に  
縫代の五分を加へ、表を出して其  
處を折り、之を二つに折り、山、衿肩  
堅衿下り等の籠を附け、其籠より

第四 本裁女物道行衿合羽縫方順序  
一袖 左右とも袖口布の下を籠通り折りて、隠躰を掛け置き、次

に袖の表を見て袖下の両端を残して浅く縫ひ、袖の山と袖口布の山及び袖口明の篋を合せて待針を刺し、袖口明を縫ひ合せ表の方に折りを付け、次に袖口を右袖は袖口布を手前に見て左袖は袖口布を向ふに見て四留をなし、袖口布の終りまで細かに一針貫に四縫をなし、續きに袂の丸み及び振迄縫ひ廻し折を付け、袂の丸みの襷を取りて留め、之を表に返し袖口を毛抜合になし、て躰を掛け、袖口の奥を折りて、三四分の針目にて表に小さく針目を出して紵け附るべし。

二身頃 脊を二度縫になし、肩當布を單衣の如くなし、縫ひ附け、肩當の前の縫込を身頃に合せて中に折り込み、躰にて衿肩明と續きに綴ち置き、次に前の裾口を三つ折になし、假に躰にて留め置き、豎衿を篋通り折りを付け、裾の篋を身頃の裾山に表より

當て、待針を刺し、次に豎衿下りの篋を合せて待針を刺し、其間の合篋の處に、一々待針を刺し、豎衿にて身頃をくるみ、合篋を合せて待針を刺し、直し、其折通り三枚にて縫ひ、平鑊を當て、次に豎衿の裾を一分先を縫ひ、縫込を裏の方に折りて、豎衿附の縫目に綴ち付け、豎衿の上部より前身頃を引き出し、平ににして、豎衿の上部を躰にて綴ち置き、一方も同様になし、次に裾口の假躰を取り、左右の脇縫をなし、折りを付け、縫込を單衣の如くなし、身八つ口まで綴ち付け、裾口を三つ折り、紵になすべし。

三小衿 輪の方にて山を脊縫の表に當て、待針を刺し、衿肩廻しの處をつれぬ様、平に待針を刺し、豎衿下り及び豎衿の上部にも待針を刺し、下前より付け始め、豎衿下りの角にて一針返し、袖口掛の角の如く、豎衿下り及び衿肩を縫ひ廻し、一方の角も同様

なして上前の端まで縫ひ付け、衿先を縫ひ表に返し、衿先の縫込を裏の方に、くるみて衿紵をなし、堅衿の角を裏より三角に縫ひてまつり附るべし。

四袖附 左右とも単衣を友對に、身頃を開き袖を折りて袖附をなし、身頃の方に折を付け、振身八つ口及び肩當の端を、単衣の如く綴ち附けるべし。

五飾紐を仕立上り圖の如く上前の堅衿の兩角に綴ち付け、下前の堅衿の角に紐或はホックを付け、上前の飾紐の裏の處に紐或はかんぬき留をなし、次に上前の堅衿の端の處にて、裾下より二寸位下りたる處に飾紐を綴ち付け、下前の前幅の中央に上前と同じ高さの飾紐を綴ち付け、又別に布にて幅三分長さ五六寸位の紐を三本紵け之を下前の堅衿の端と、左の脇の縫込の裏とに

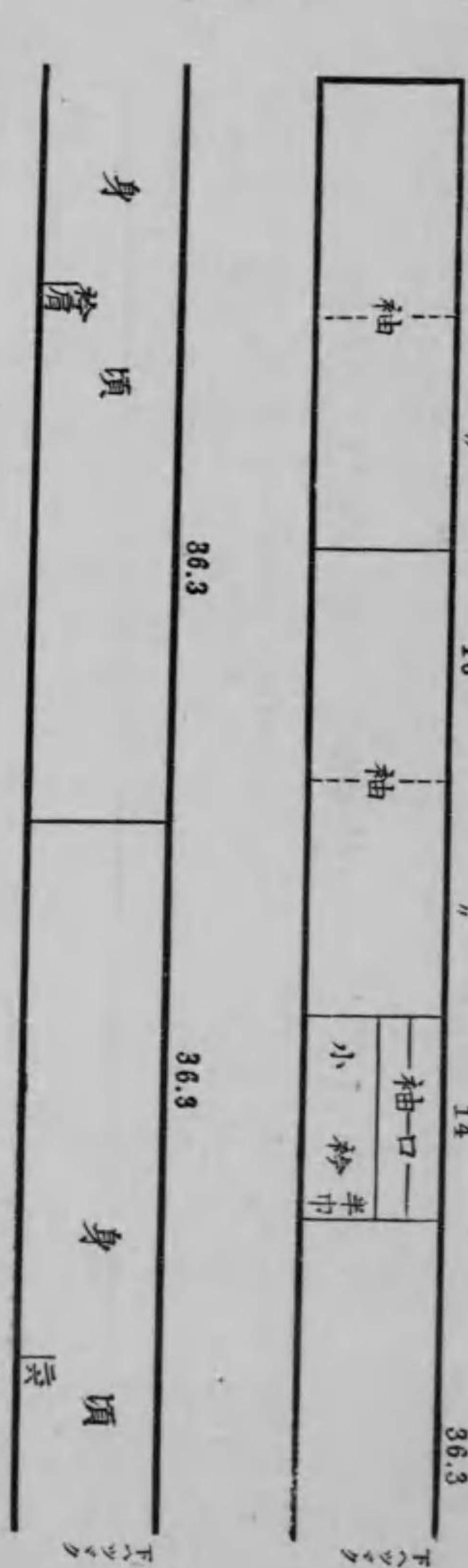
縫ひ附るべし。

裾下位の高さに縫ひ附るべし。

第二節 本裁女物被布衿

第一 並幅物にて被布衿合羽の裁ち方積り方及切り離し方

並巾二丈八尺五寸にて被布衿合羽の裁ち方





36.3

30.8



(133K)

積り方

袖丈  $16 \times 4 = 64$  袖尺  $28.5 - 6.4 - 1.4 = 20.7$   
 207 + 5.5 × 2 = 218 218 ÷ 6 = 36.3餘身丈  
 $36.3 - 5.5 = 30.8$  整衿丈

切り離し方

總尺の中より六尺三寸を切り離して、之を兩袖となし、次に一尺四寸切り離し、半幅に切りて一枚を小衿となし、他の一枚を二つに切りて、袖口となし、次に一丈四尺五寸二分を切り身頃となし、之を單衣の如くなし、次に一丈四尺五寸二分を切り、残りの布を二つに切りて、

整衿となすべし。

第二 本裁女物被布

衿合羽、袖の附方及説明

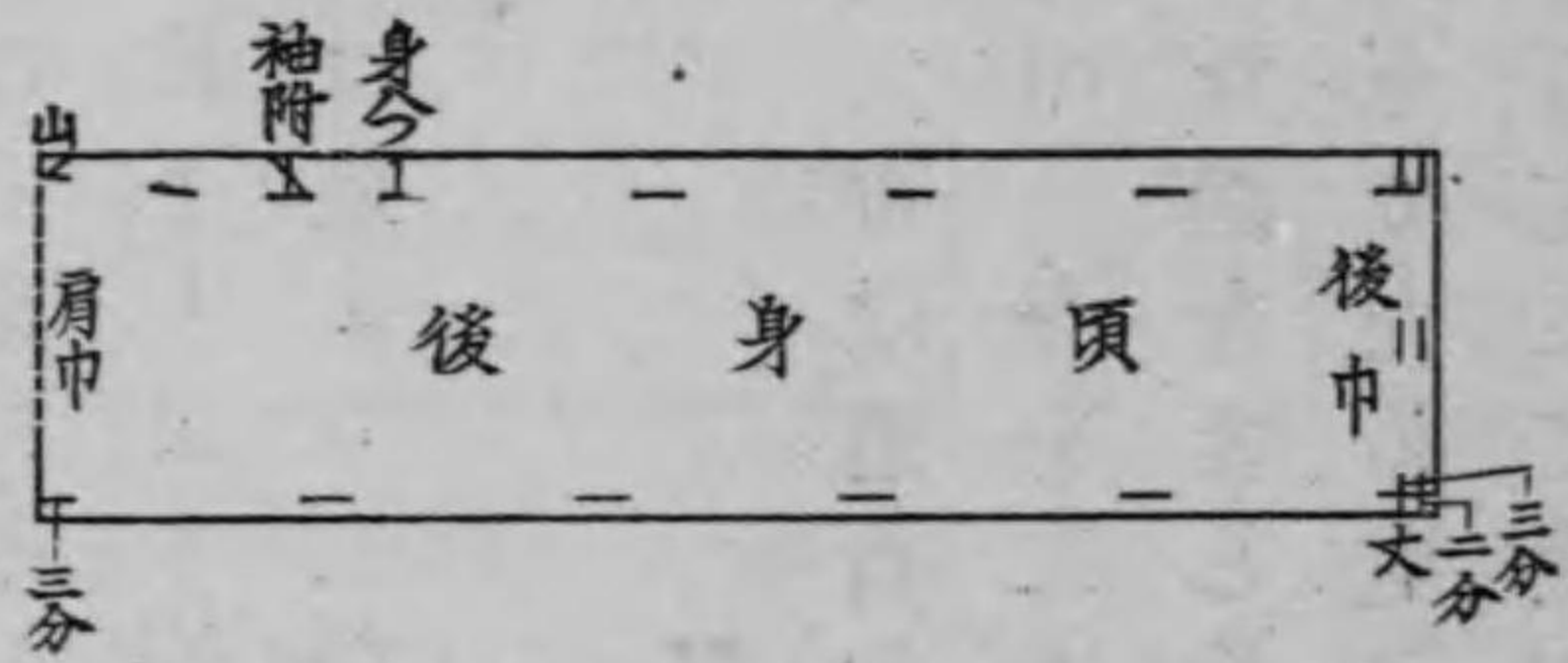
袖及整衿は、道行衿合羽と同様なれば省き、其他を説明す。

一身頃を普通着物の如く、山丈袖、附身八つ口等の、篋を附け、脊縫の篋をなし、後幅及肩幅の篋を附け、後身頃を左に開

(1337)

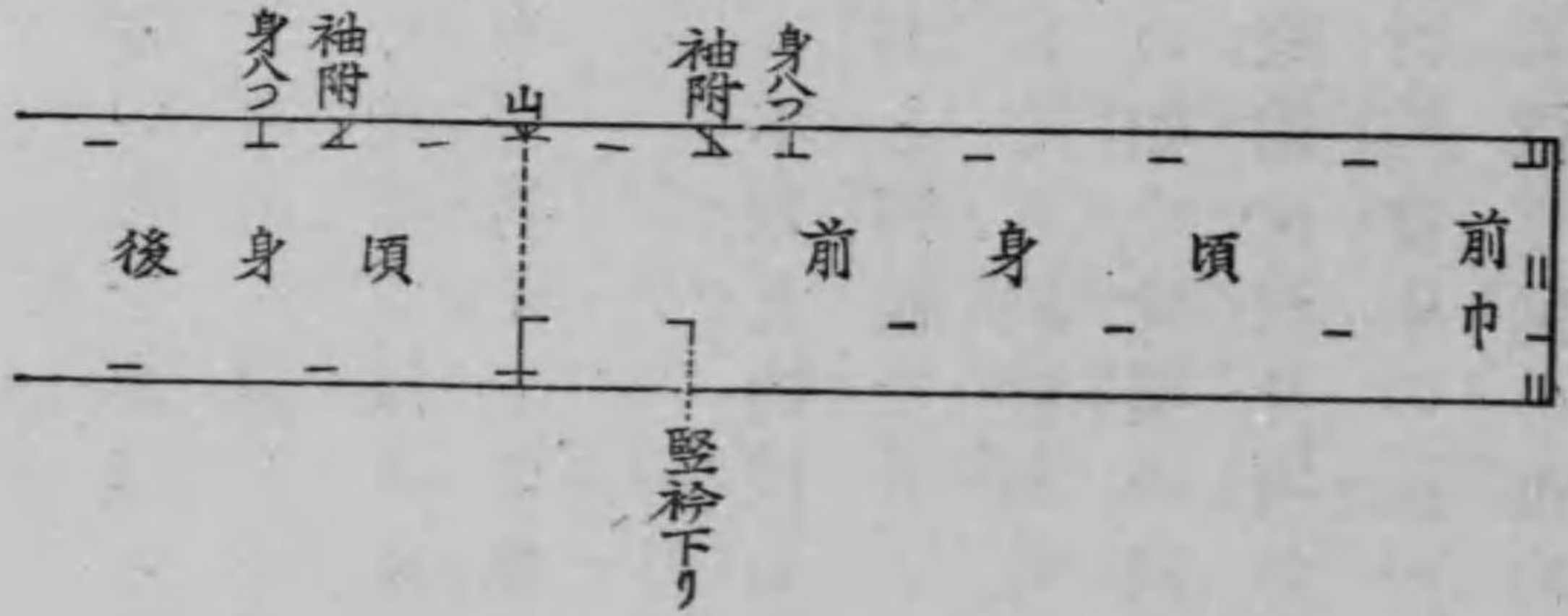
1/20

(一) 身頃



1/02

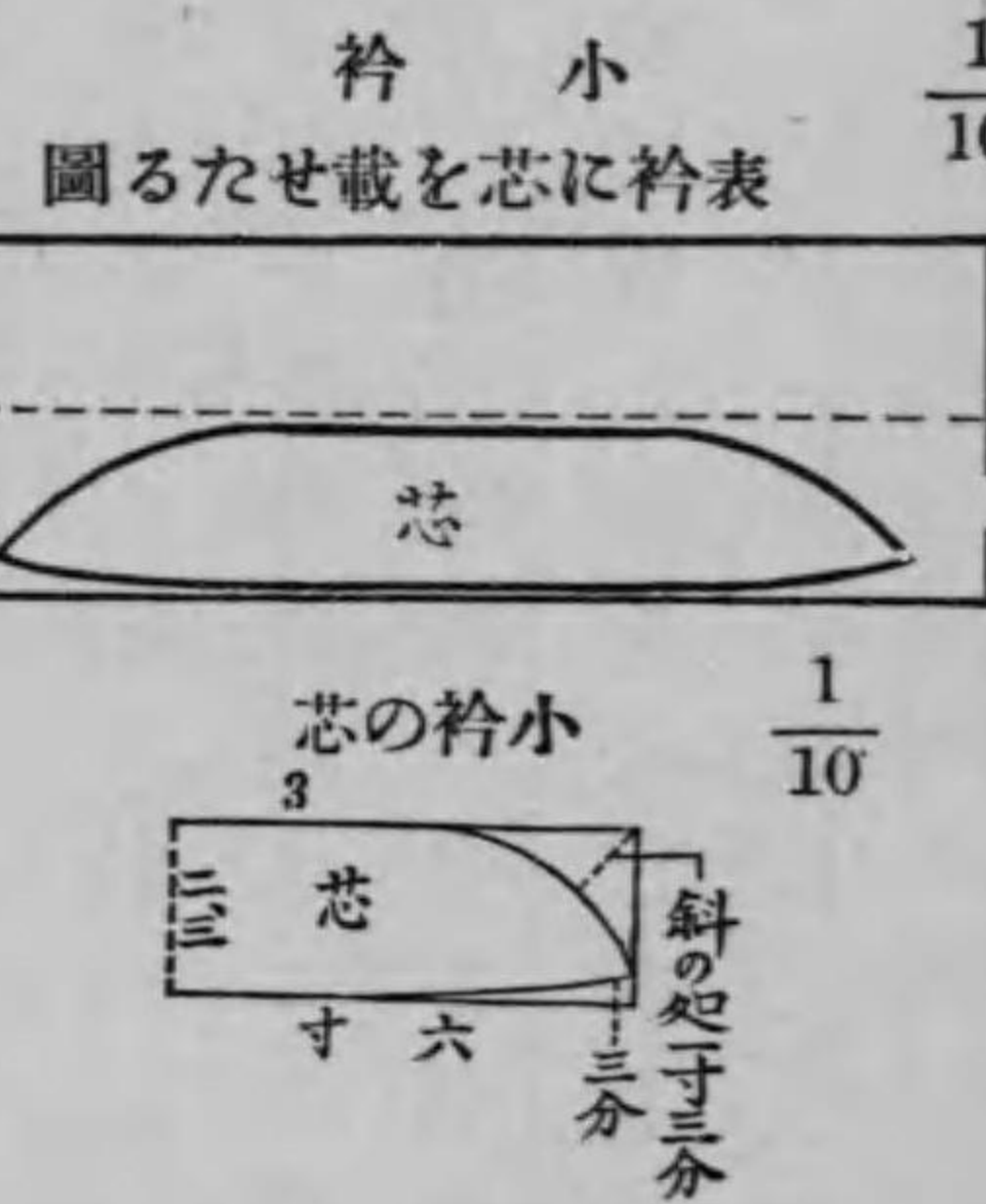
(二) 身頃



きて、**縦**の**下**り及び**前**幅の**籠**を**裾**口の**處**にて**附**け**衿**肩**明**の**處**より**裾**口の**籠**に**糸**を**渡**し**其**糸に**做**ひて**所**々に**籠**を**附**け**端**衿の**丈**を**縦**衿**下**りより**裾**口の**籠**まで**度**り**前**の**縫**込を**別**々に**裏**の方**に**を**籠**より**二分**先を**縦**衿**下**りの**處**は**籠**通りに**斜**に**折**り**置**くべし。

**第三** 本裁女物被布衿合羽縫方順序

一袖 袖は道行衿合羽と同様なり。  
 二身頃 脊を二度縫になし、肩當布の下を二つに折りて隠し、掛かけ縫をなし、單衣の如く身頃に向ふに當て、衿肩明より一寸位下りたる處より縫附け前身頃の縫込の端を縦衿下りの處まで耳筋にて縫附け、肩當布の前の縫込を表に做ひて中へ折り、表と共に裏にて縫附け、前の裾口を三つ折になし、假に裏に



第七章 合羽

(一三九)

て**綴**ち**置**き、次に**縦**衿を**道**行衿の如く**袋**附になし、**平**鏡を當て**縦**衿の**裾**を**縫**ひ**縫**込を**綴**ち**附**け、**縦**衿の**上**部を**縦**の**縫**込を**表**側にくるみ、**籠**通りに**中**に**折**りて**其**處を**筋**け、一方も**同**様に**なし**、次に**裾**口の**假**裏を取り、**左**右の**脇**縫を**なし**、**折**を**附**け、**縫**込を**單**衣の如く**身**八**口**まで**綴**ち**附**け、**裾**口を**三**つ**折**筋になすべし。  
 三小衿 芯布を幅二寸三分長さ一尺二寸に切りて之を二つに折り圖の如く裁ち、之を小衿布の裏側に載せ、其廻りを裏にて假に縫附け、小衿布の幅を中表に二つに折り、芯布の廻りの一分五厘先に籠を附け、芯のある方は籠

通り一方は箆より二分下りたる處へ待針を刺し丸みの處は弛みたるまゝ、布のねぢれぬ様に待針を刺し其處を縫ひ合せ丸みの處を縫目の糸より三分位つゝ離して二三本縫ひ縮め、芯なき方に折り縫縮の糸を引き芯の形に倣ひて恰好よく糸を引きしめて留め、襷を平になし表に返し廻りを一分程裏の方にふかせて裏表一所に廻りに躰を掛けるべし。

四小衿附 小衿の中央を表の脊縫に當て肩當布を離して待針を刺し、豎衿下りの假躰を取り表のみに小衿を縫附け、身頃の方へ折り肩當布の衿附の處を折りて縫目の際に當て待針を刺し、豎衿下りの明と續きに紵け附るべし。

五袖附 左右とも單衣と反對に身頃を開き袖を折りて袖附をなし、身頃の方に折を附け振身八つ口及肩當の端を單衣の如く

綴ち附るべし。

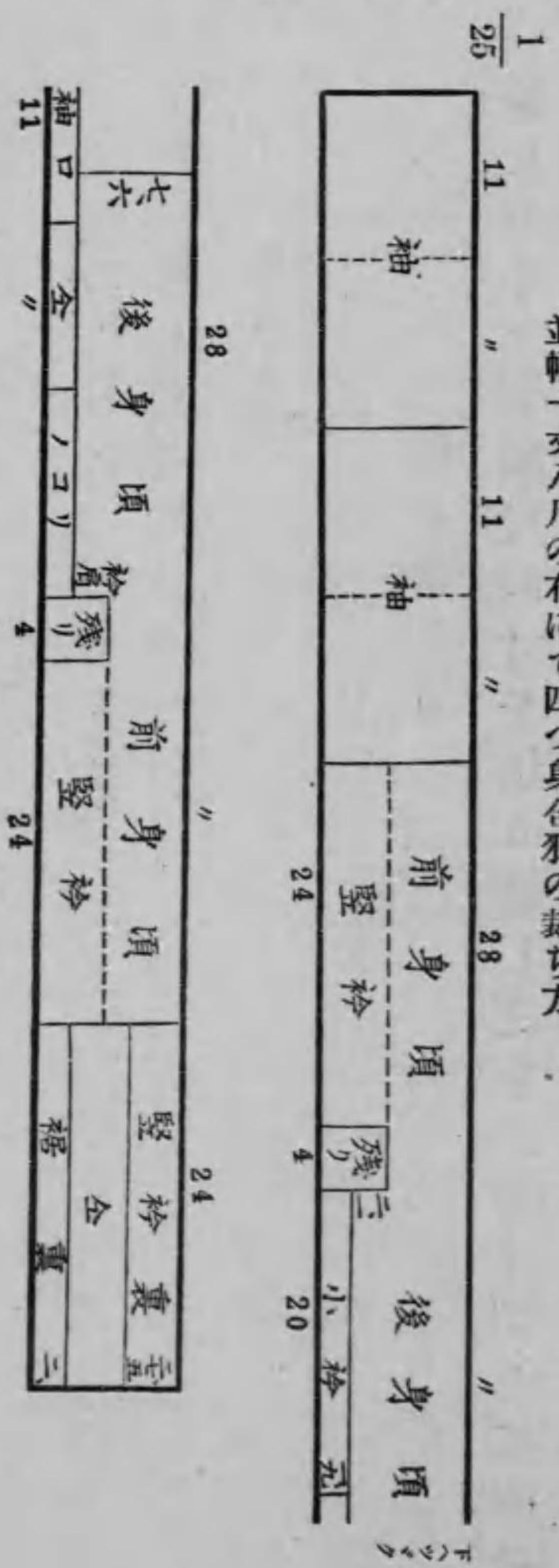
六節紐 道行衿合羽と同様に附けるべし。

### 第三節 四つ身

第一 並幅物にて四つ身合羽元祿袖裁の裁方

積り方及び切り離し方

並幅一丈八尺の布にて四つ身合羽の裁ち方



積り方

袖丈  $11 \times 4 = 44$       180 - 44 = 136  
 136      14      140      140 + 5 = 28  
 28 - 4 = 24

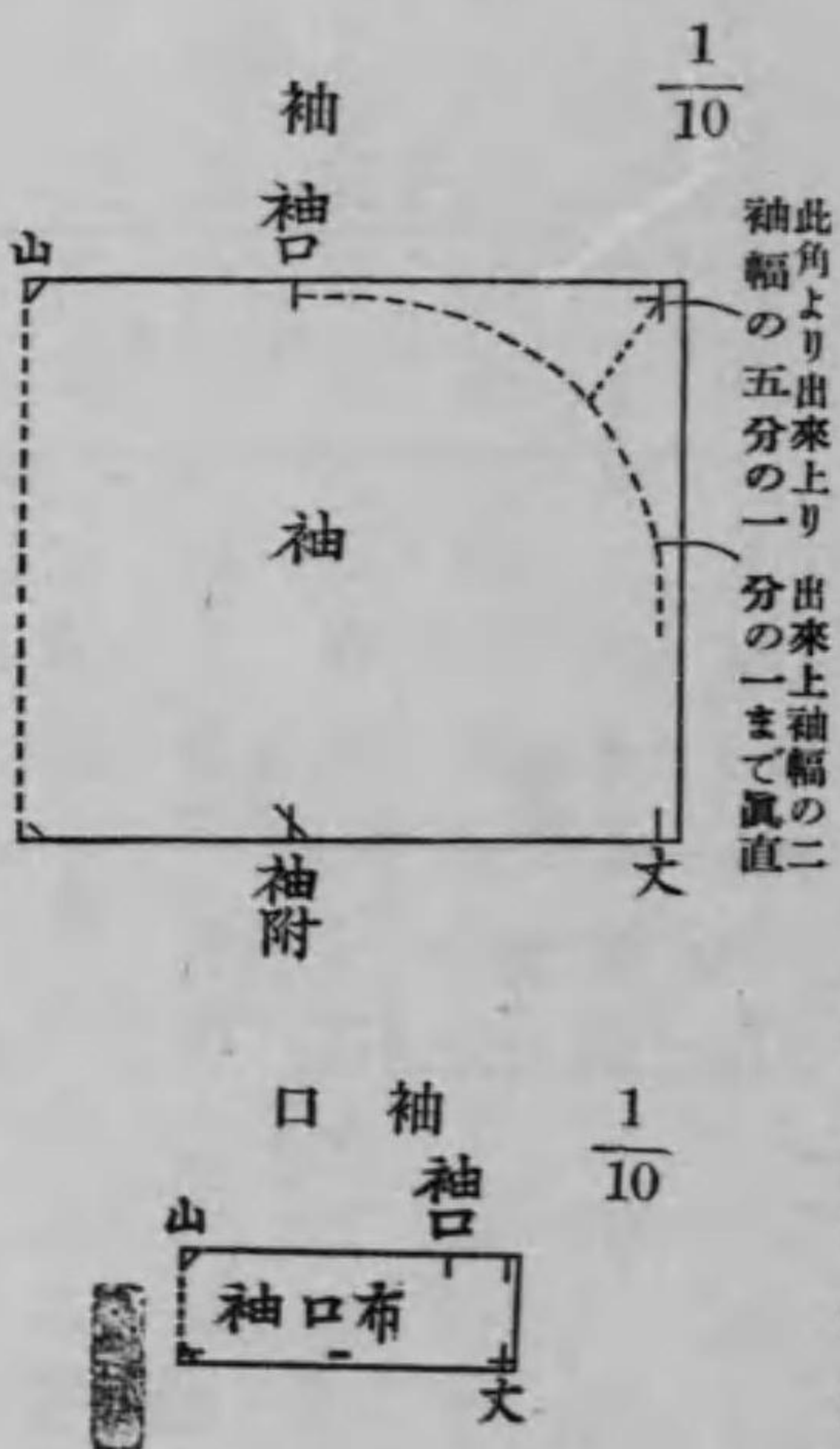
(一四二)

切り離し方

總尺の中より四尺四寸を切り離し之を二つに切りて兩袖となし次に豎袷裏の二尺四寸を幅七寸五分に切り離して之を縦二つに切り残りの二寸幅のものを裾裏となし次に身頃の布を四つ折になし二枚重りたる輪の處にて衿肩を四寸切り込み後身頃の端より幅一寸九分に切り落し袖口及び小衿を寸法通り切り離し次に前身頃の方にて豎衿下りの四寸を切り落

すべし。

第二 四つ身道行衿合羽



一 袖を中表に二枚合せ丈を二つに折り輪の方を自分の左になして圖の如く山丈袖口袖附袖幅及袂の丸み等の籠附をなし次に袖口布を二枚合せて二つに折り

山丈袖口等の籠附をなすべし。

一 身頃を二枚合せ衿肩明を自分の左の手前になし後身頃を上にして山籠をなし丈を度り袖附身八つ口の籠を附け後身頃



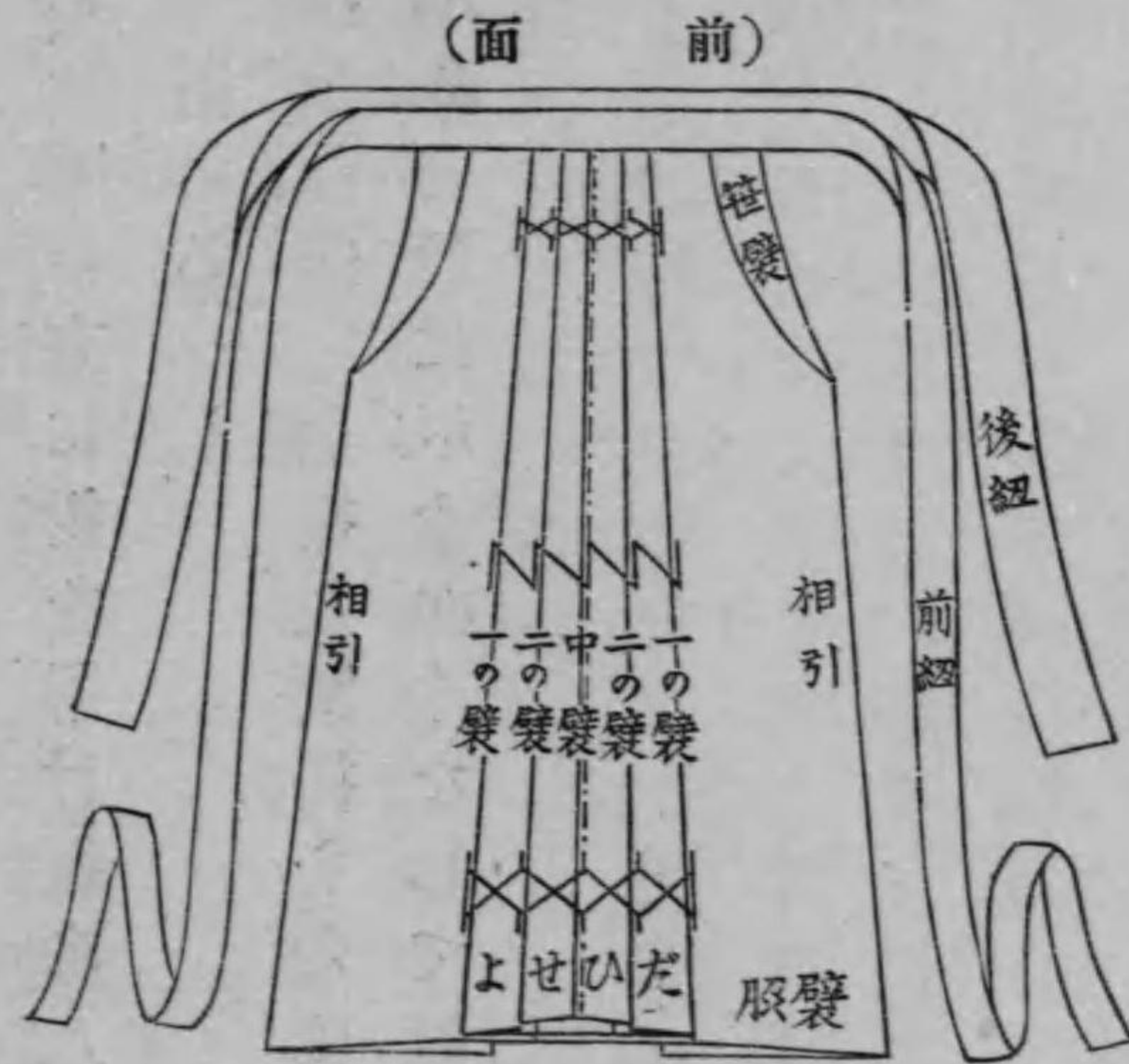
篋を合せて裾口を四分位残して縫ひ、  
 肩當布を單衣の如くなし、縫ひ附け、  
 前に表に做ひて裁落し、  
 裾布の裁目の方を裾口に縫ひ附け、  
 毛抜合せになし、  
 一方の端を耳緒にて身頃に縫ひ附け、  
 次に左右の脇縫をなし、  
 折を附け、  
 返し、  
 縫目に拵け附けるべし。  
 三小衿、  
 芯布を小衿布の裁目の方に揃へて、  
 襷にて縫ひ附け、  
 山を脊縫の表に當て、  
 待針を刺し、  
 本裁道行衿合羽の衿附と同様に  
 になすべし。  
 四袖附、  
 左右とも單衣と反對に、  
 身頃を開き袖を折りて袖附を

なし、  
 身頃の方に折を附け、  
 振身八つ口及肩當の端を單衣の如く  
 縫ひ附けるべし。  
 五揚及飾紐、  
 肩揚及腰揚を着物の卷共通要項に示す、  
 なし、  
 飾紐を本裁合羽に示す如くなし、  
 附るべし。

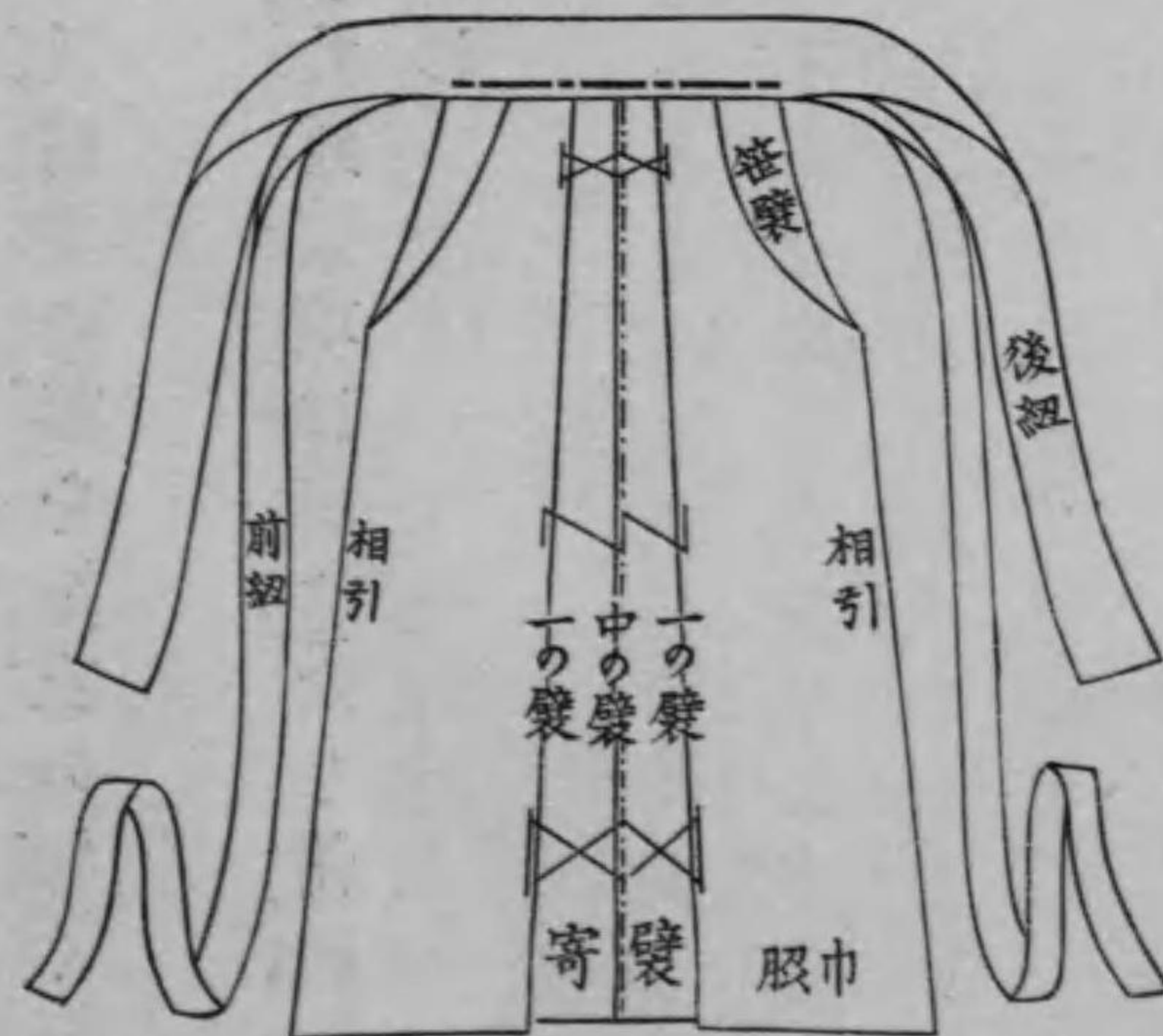
第八章 女袴

第一節 本裁女袴

稱名び及圖り上立仕袴女裁本



し廻蹴 (面後)



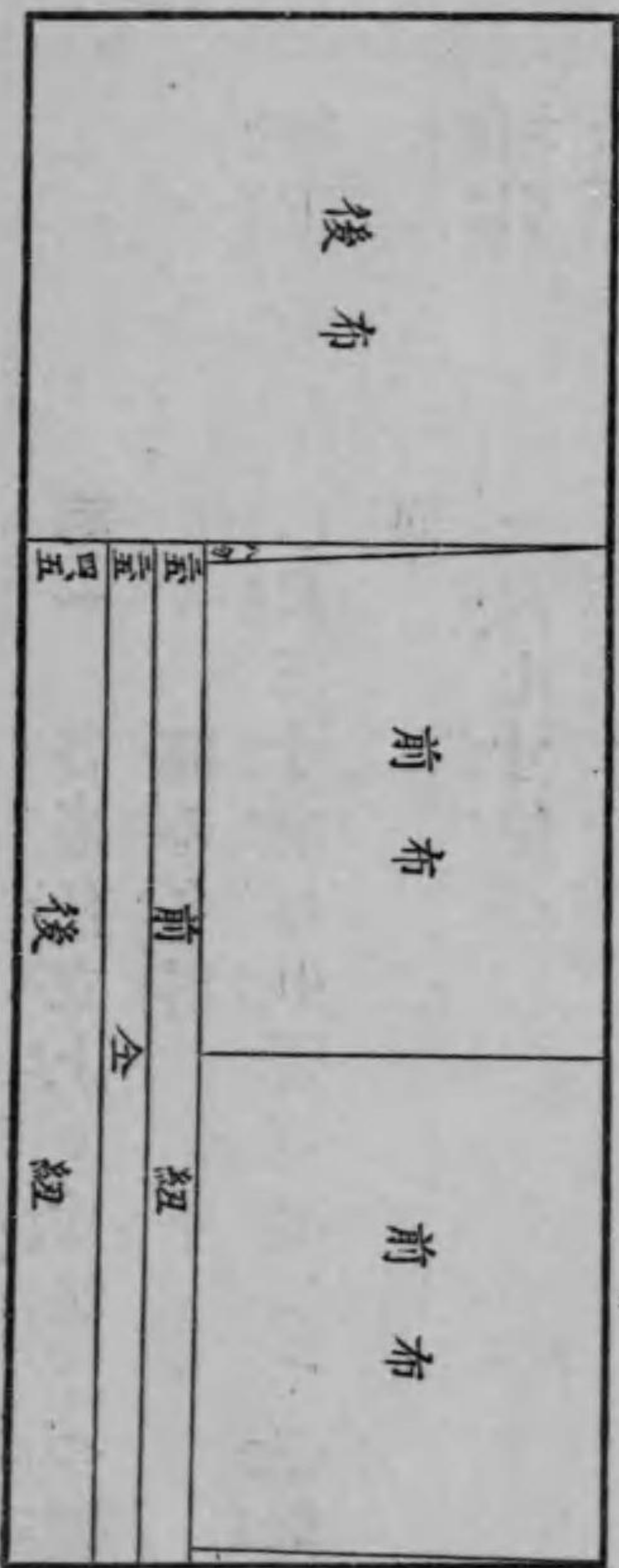
紐下 相引 後幅 後脇幅 後重ね幅 後寄襷幅 後笹襷幅 腰幅 前脇幅

第一 普通仕立上り寸法(三つ襷)及び圖並に各部の名稱

二尺三寸(前の中襷の處にて紐附より裾口迄の間) 一尺七寸位 八寸 六寸 一寸内外 上一寸 下一寸五分 八寸 四寸八分

前寄襷幅 上八分 下一寸六分  
 前篋襷幅 一寸二分  
 前紐幅 八寸或は八寸五分  
 後紐幅 一寸或は一寸五分  
 寸法の割り出し方は共通要項に示す。

25 三尺幅にて女袴無袴(後三つ襷)の裁ち方紐下二尺三寸上りと假定す  
 27  
 26



第二 三尺幅物にて女袴の裁ち方及び積り方

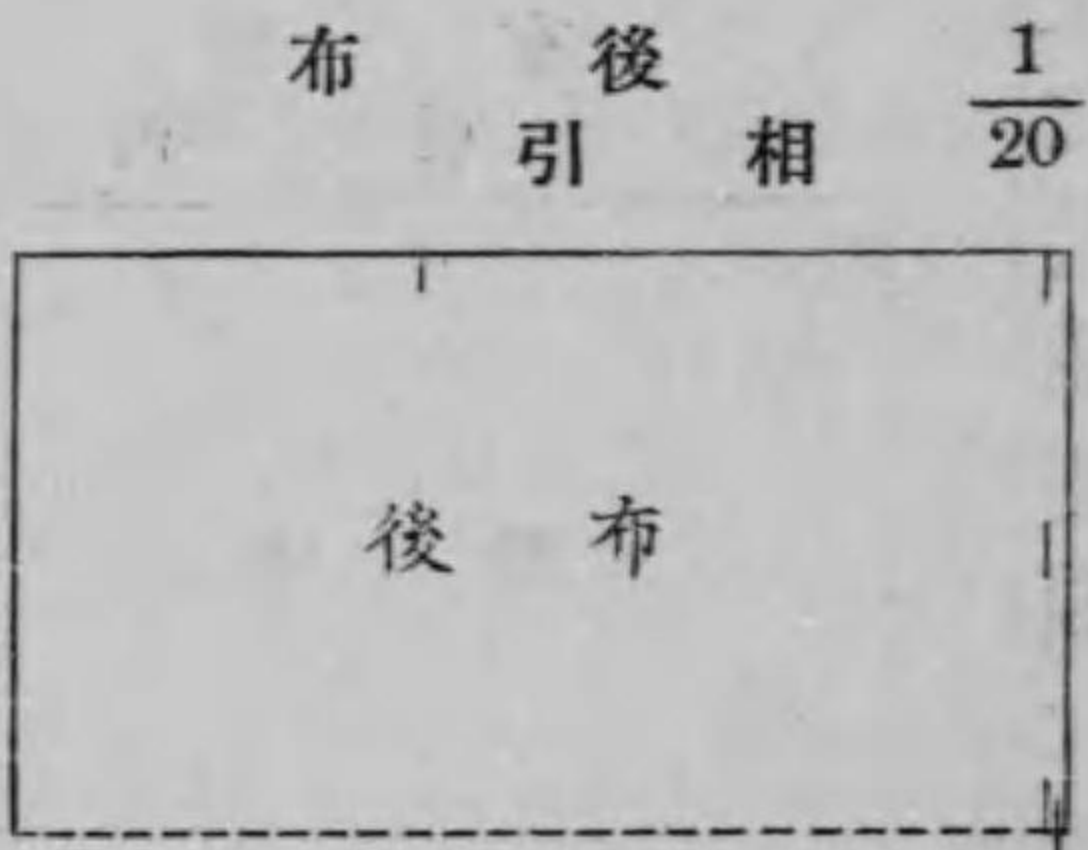
積り方

紐下 縫代 23+3=26 前布丈  
 26×3+1=82 後前用 差 布

第三 本裁女袴篋の附方及び説明

一 後布を中表になして縦二つに折り、裾口を右に輪の方を手前になして裾縮の篋をなし、向ふ側に相引の篋をなすべし。

二 前布を中表に二枚合せ、裾口を右になし、手前の方にて、切上八分と篋をなし、其篋と向ふの端とに斜に通し篋をなし、裾縮の篋をなしたる後、向ふ側に相引の





1/20



筒をなすべし。

第四

本裁女袴縫方順序及び襷の取り方圖

上に共通要項に示せる如く縫ひ、前布の方に折り襷を掛け、相引の裾切の方を返して隠躰を掛け、表布を二分裏に折り返し、裾切の上を拵け附るべし。

て三四分の針目にて相引の處より拵け附るべし。

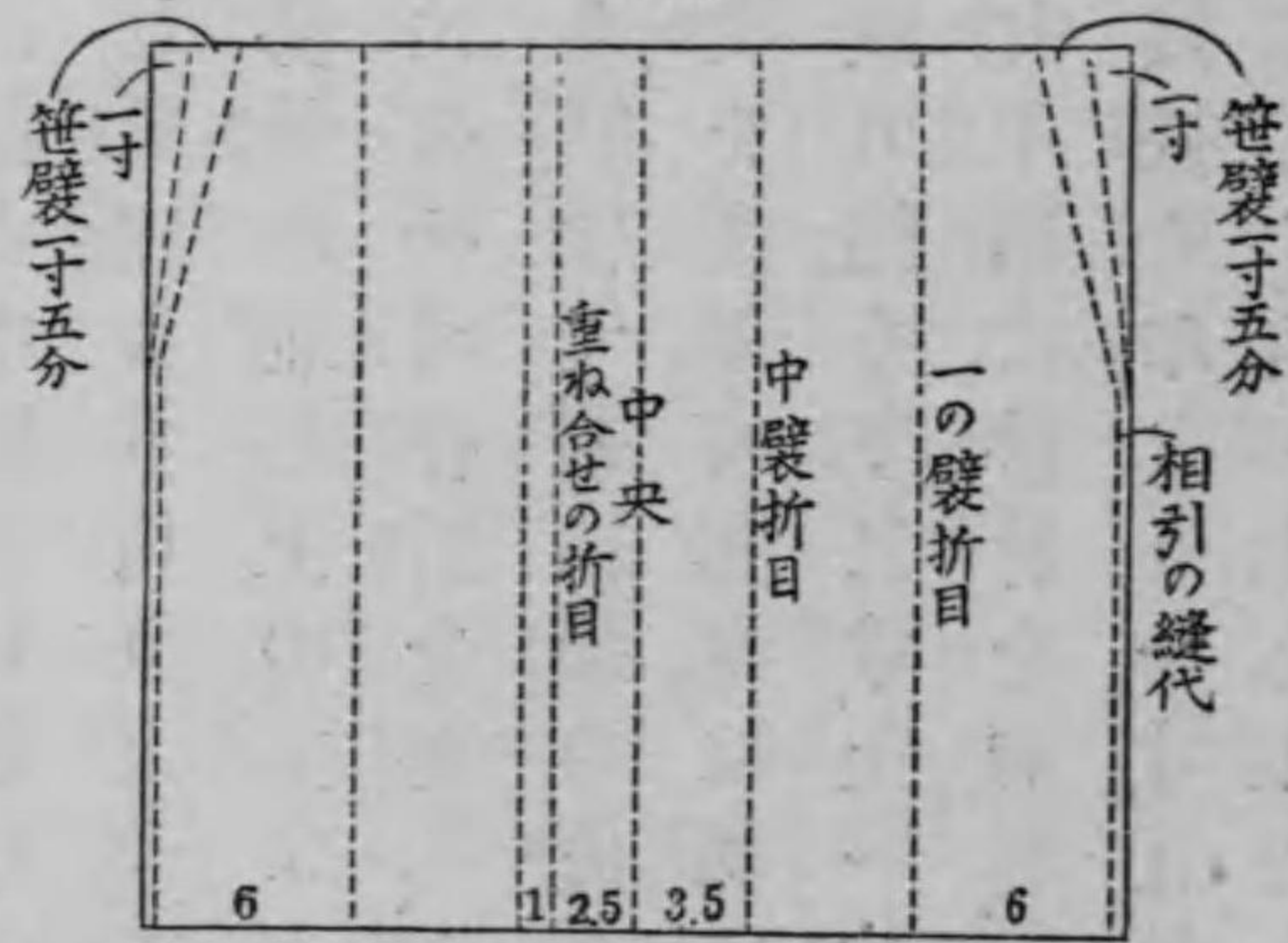
上、前布の裁目の方を袋縫ひになし、上部を右に持ちて手前に折りて襷を掛け、次に後布を合せて左右の相引を縫ひ、前布の方に折り襷を掛け、相引の處より拵け附るべし。

拵け附るべし。

(一五二)

1/20

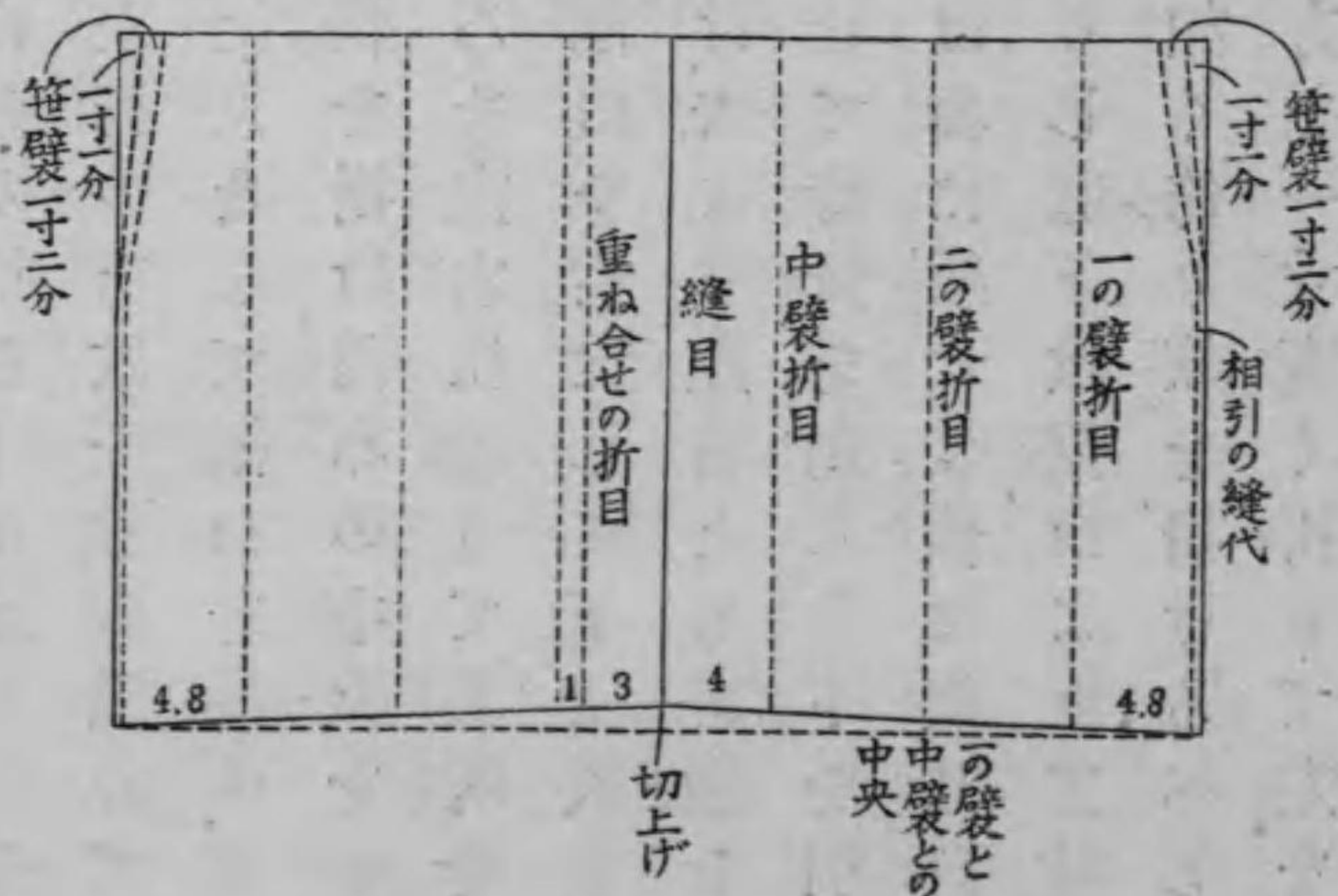
圖方り取の襷び及せ合ひ縫袴女裁本 (後)



第八章 女袴

1/20

圖方り取の襷び及せ合ひ縫袴女裁本 (前)



(一五三)

二 縫合せ及び襷取り方圖の如く各襷の折を寸法通り上迄眞直に付け、後の中襷の折目を合せて左脚の方は一寸の重ねだけ廣くなし、其處より折り返す右脚を上になして裾口を揃へ、四枚一緒に待針を刺し、上方より見て襷を掛け、後布の中央を中襷の折目に合せて待針を刺し、ふところを左右に開きて其所を眞直に折り、襷にて假に綴ち置き、次に裾口を右にして下に置き、裾口より丈を度りて、其處に絲印を付け、夫より左右とも寄襷を仕立上り、圖の如く下二寸、上一寸に寄せて待針を刺し、上下を引き合して、其中間に待針を刺し、上の處は横に襷にて假に綴ち置き、次に上は衿附印より一寸五分位下りし處、下は裾口より二寸位上りし處及び其中間仕立上り圖の如く飾り襷を掛けるべし。

三 前布の中襷の折目を合せ、右の方を一寸廣く折りて左を上

になし、四枚一所に待針を刺し、上方より襷を掛け、後の中襷の仕方と同様に前の縫目を中襷に合せて待針を刺し、ふところを左右に開きて、其折を眞直に折り、襷にて假に綴ち置き、次に後を下側にして、裾を右になし、前後の眞中を即ち中襷の折を能く合せ、正しく下に置き、中襷の處にて裾口より紐下を度りて、其處に絲印を付け、寄襷を寸法通りに二の襷一の襷と順次に定めて待針を刺し、紐附の處は襷にて綴ち置き、夫より後の如く上中下に飾り襷を掛け置くべし。

四 後の笹襷を圖に示したる如く、始めの折の寸法は紐下の印より五分位上りたる處にて度り、相引の處より斜に裏の方に折り、其次の折も同じ處にて度り、同じく裏の方に折り、其折山を寄襷の方に寄せ、腰幅八寸のものなれば、笹襷の端より始めの折中

鬘びだまで其その半はん數すうの四寸すんになる様ようになして待まち針はりを刺さし、夫それより笹さ鬘まを格かつ好こうよくつくり、始はじめの折ひを伸のばさぬ様ように注ちゆう意いして二度目にどめの折ひ山やまを少すくしく伸のばす、其その真ま中ちゆうを舐しめて綴ずいち其上そのうへに紙かみを載のせて鑊くわを掛かけ、夫それより先まへに掛かけし舐しめて取りて中なかより折ひ山の一分ぶん内うちを六七分ぶちの針はり目に隠かく躰たいの如ごとく綴ずいひ、未端みづか三分ぶん位くらゐは殘のこし置まく、次つぎに端はしの合あせ目の處ところを紵ぬけ、一方いつぱうも同どう様ようになし、之これを返かへして裾すそ口くちを右みぎになし、前まへを上うへに出いだして前まへの笹さ鬘まを寸法すんぽう通り後うしろの笹さ鬘まと同どう様ようの方法かたにし、格かつ好こうよく作り、夫それより相引あひひの中央ちゆうちゆうより裾すそを上うへの方に折ひり、其その裾すそ口くちより五分ぶん程ほど離はなして上部じやうぶを其上そのうへに折ひり重ねて三さんつに疊たみて壓おしをなし置まくべし。

五ご 前後まへうしろの紐ひもに芯しんを入れ、紐ひもの兩先りやうせんを縫ぬひて芯しんの端はしを縫ぬ込こみに縫ぬぢ附つけ、之これを表おもてに返かへして前紐まへひもは一尺二寸位しちふたすんくらゐ、後紐うしろひもは一尺四寸位しちよんすんくらゐ、何なに

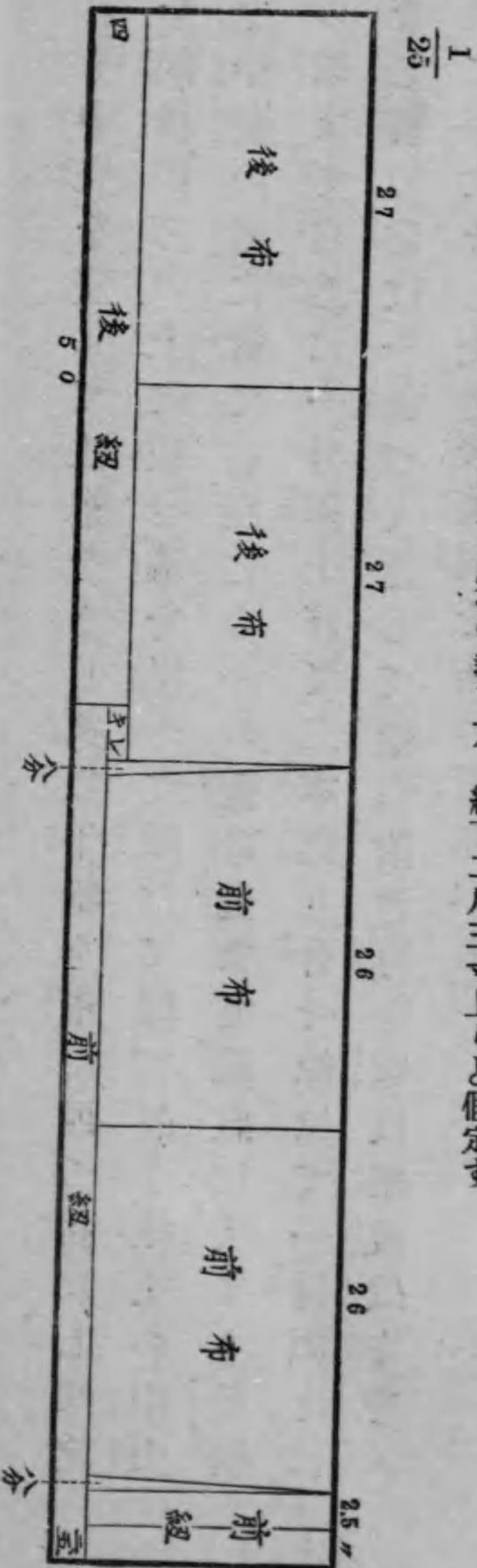
れも中央ちゆうちゆうを殘のこして紐ひもをなし、次つぎに半紙はんしを横よこに四つ折よりにして之これを前紐まへひもの芯しんの上うへに載のせ、端はしを揃そろへて舐しめて綴ずいち置まき、紐ひも丈たけの中央ちゆうちゆうを中ちゆう鬘まの處ところに當あたて右左みぎひだりとも一の鬘まの處ところまで真直まっすくに夫それより笹さ鬘まの端はしまで自然ぜんぜんに一分ぶん程ほど上げて二本ふたぽん撚より合あわせ、絲いとにて一針ひとはりぬきになし、鬘まの處ところは一針ひとはりづゝ返かへして縫ぬひ附つけ、薄うすき處ところは紙かみ或あるは布ぬいを入いれて平たいらになしたる後裏側のちうらがはを紵ぬけ附つるべし。

六ろく 後紐うしろひもの中央ちゆうちゆうに厚紙あつがみを共通要項きゆうつうようかうに示しせる如ごとくなして綴ずいち附つけ、紐ひも飾かざりをなし、其その中央ちゆうちゆうを腰幅こしはらの中央ちゆうちゆうに當あたて、絲いとを二本ふたぽん撚より合あせて一針ひとはり抜きに縫ぬひ附つけ、鬘まの處ところにて一針ひとはり返し縫かへせぬい込こみ、厚紙あつがみの中なかに入いれ、裏側うらがはを紵ぬけ附つけ、紙かみを當あたて全體ぜんたいに火熨斗ひおしを掛かけ、前まへの如ごとく三さんつに疊たみ、袴はかまの上うへの方ほうを向むかふ側がはになし、後紐うしろひも丈たけを二つに折ひりて、後うしろ布ぬいの上うへにやりちがひにして載のせ、前紐まへひもは初め前布まへぬいの内側うちがはにて左ひだり

右の紐をやりちがひになし其先を兩横より出し左右交互に折り重ねて後紐の上に一文字に載せ中央を後紐と一所にして五分位の針目に二本糸には飾綴ちをなし兩端は前紐のみ同じく飾綴ちをなすべし。

第五 二尺幅にて後三つ襷女袴の裁ち方及び積り方

二尺幅にて女袴無袴(後三つ襷)の裁ち方、紐下二尺三寸上りと假定す



積り方

紐下

23 + 3 = 26 前布丈

26 x 4 + 2 + 2.5 x 2 = 111  
の前の紐幅  
二後の差  
用布

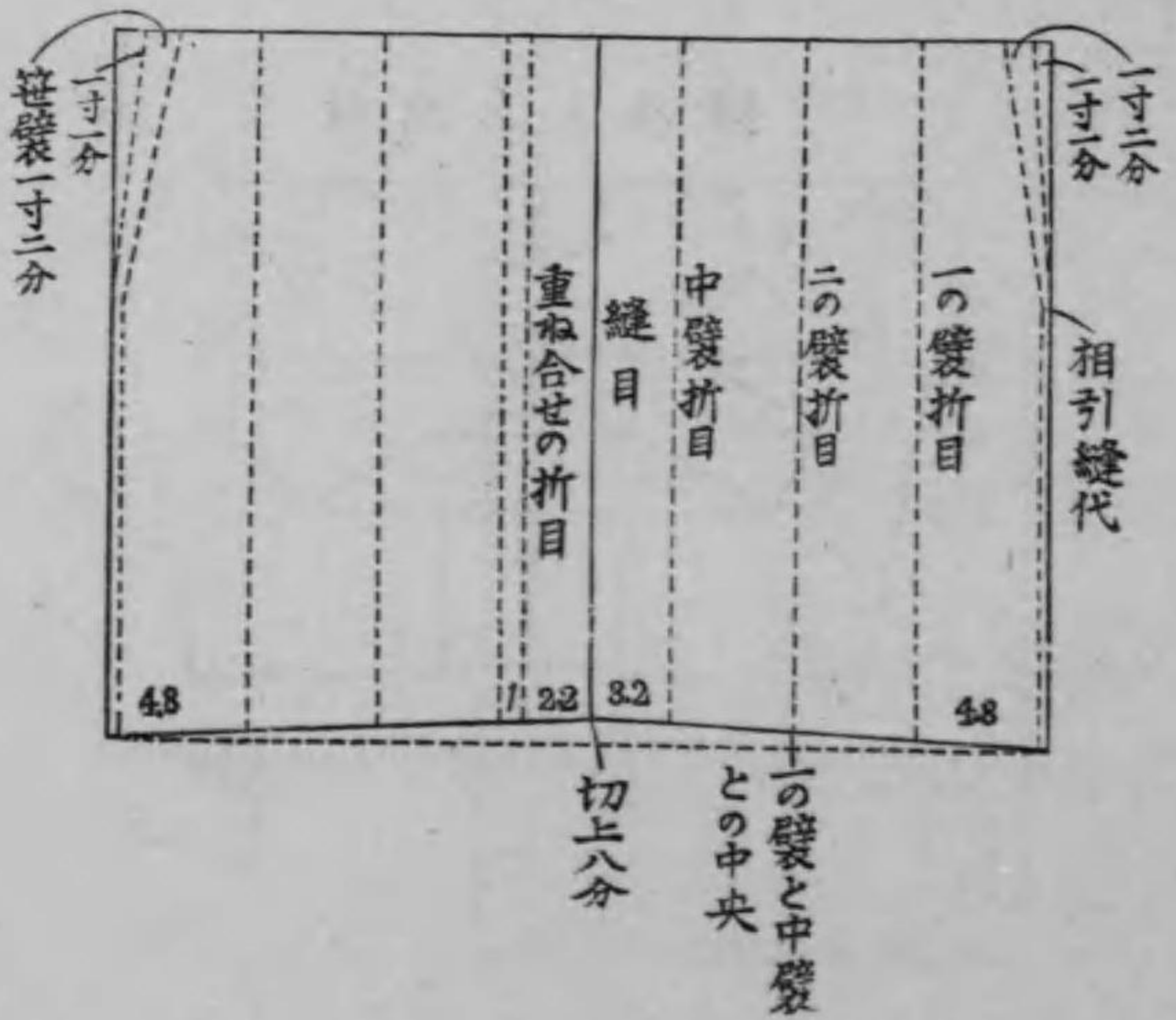
笠の附方及び縫方順序は三尺物に做ふべし。

第六 本裁女袴縫合せ及び襷の取り方圖

本裁女袴縫合せ及び襷の取り方圖

本裁女袴縫合せ及び襷の取り方圖 (前)

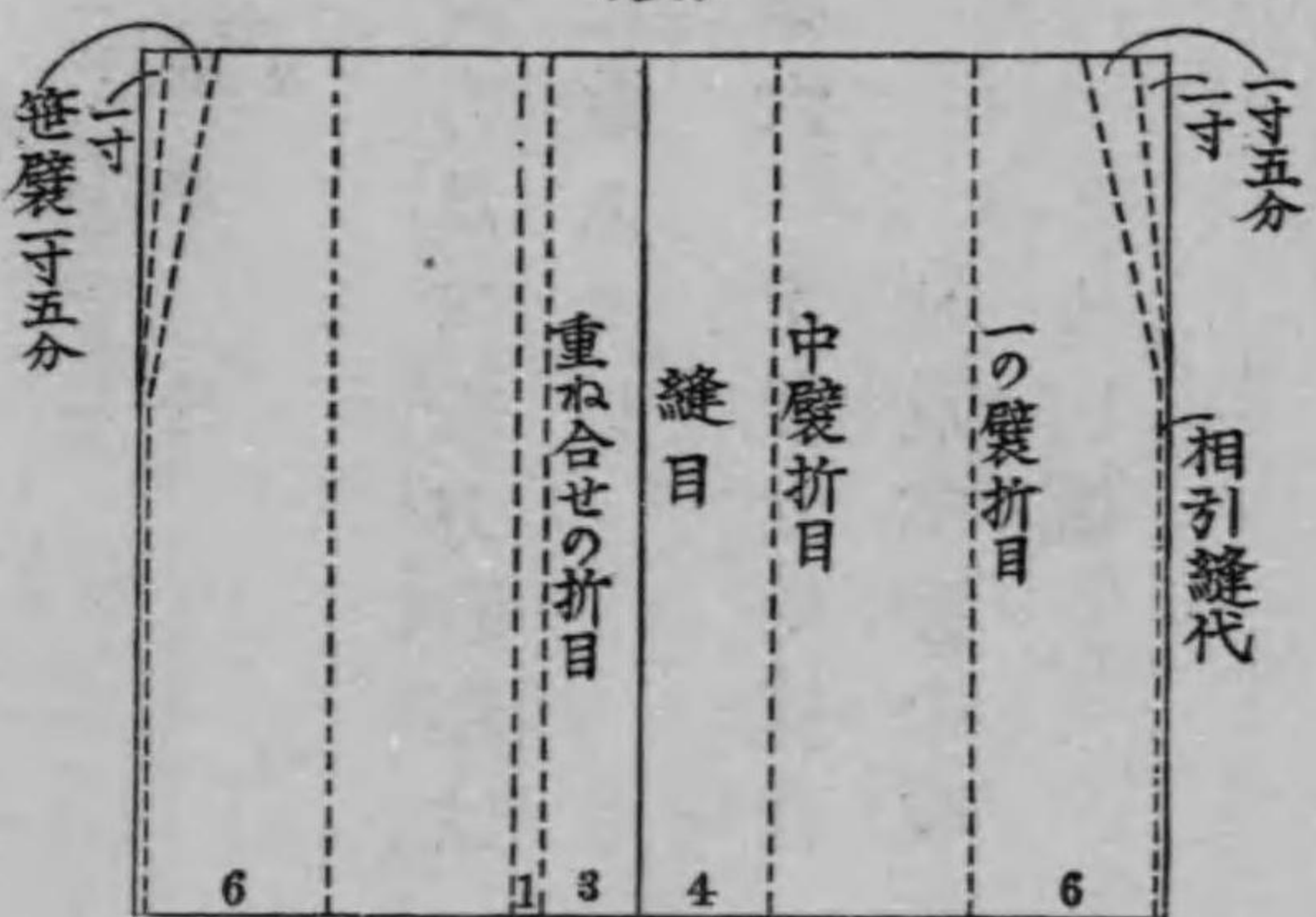
1/20



1/20

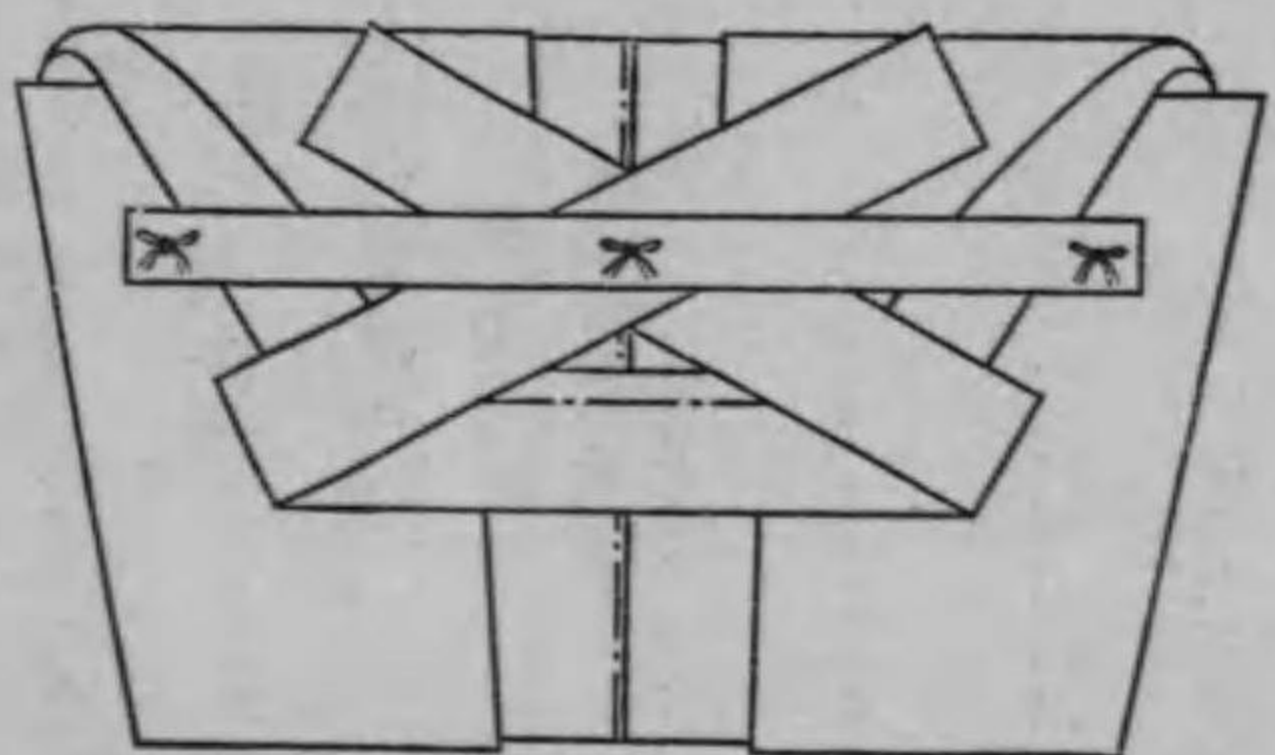
本裁女袴縫合せ及び取方り圖

(後)



1/20

仕立上り圖



(一六〇)

第二節

中裁及び小裁

第一 二尺幅にて十一二才女兒袴の裁方及び

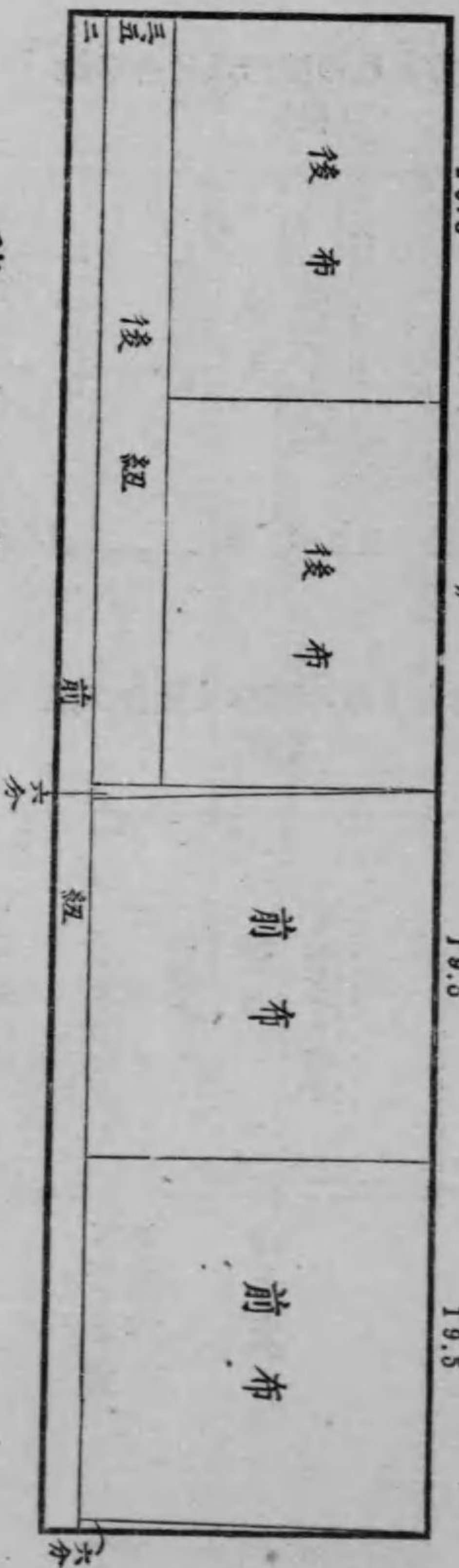
積り方

幅二尺長さ八尺にて十一二才女兒袴無袴(後三つ襷)の裁方

紐下一尺七寸五分上りと假定す

丈に揚をなすには揚の分だけ用布を餘分に見積るべし

1/25



積り方

17.5 + 3 = 20.5 後布丈

20.5 x 4 - 2 = 80 用布の倍の二の

後布の二の倍の用布

篋の附方及び縫方順序は大人物に倣ふべし。

(一六一)

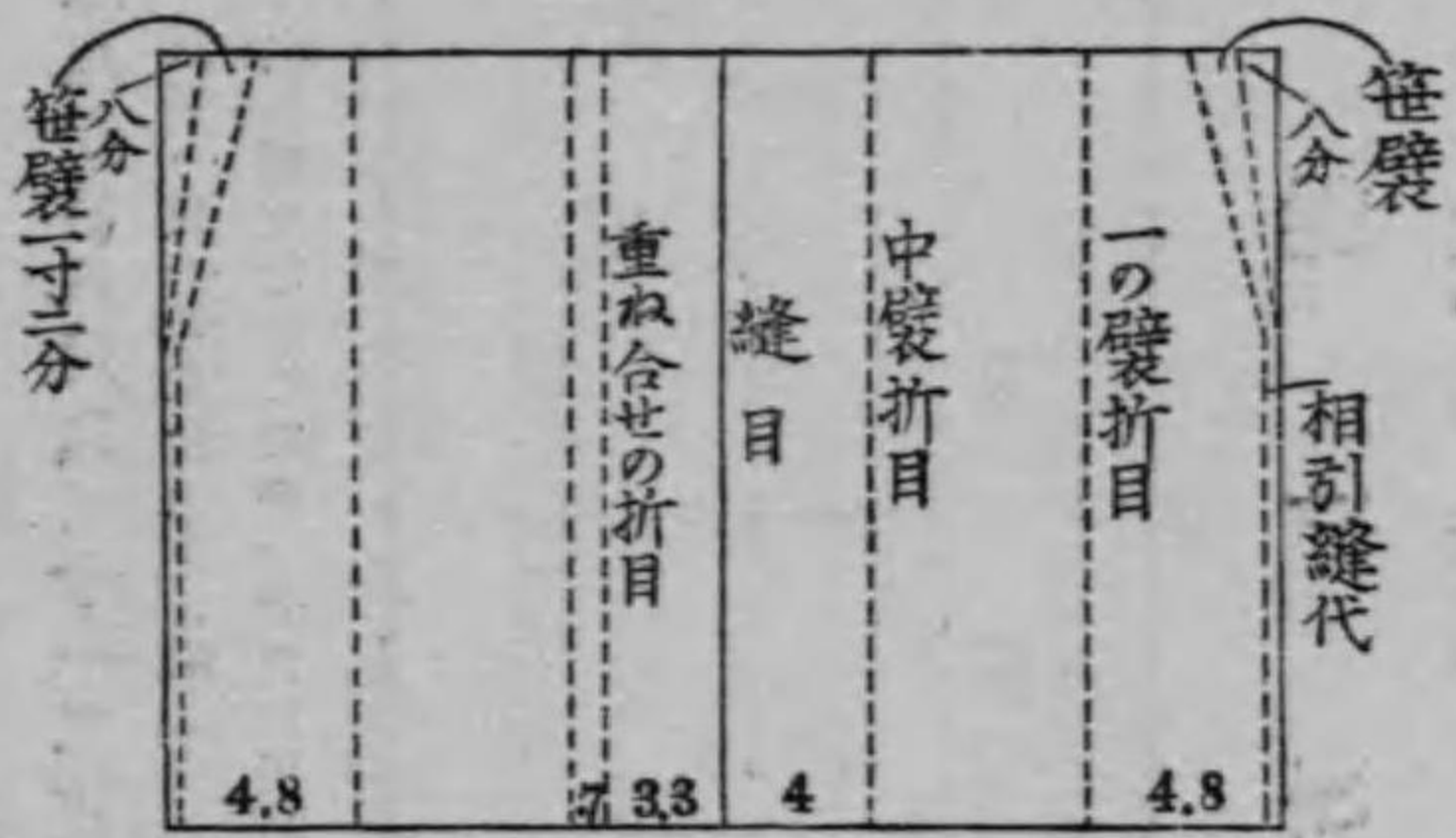
第二 十一二才女兒袴の縫合せ及び襷の取り

方圖

1/20

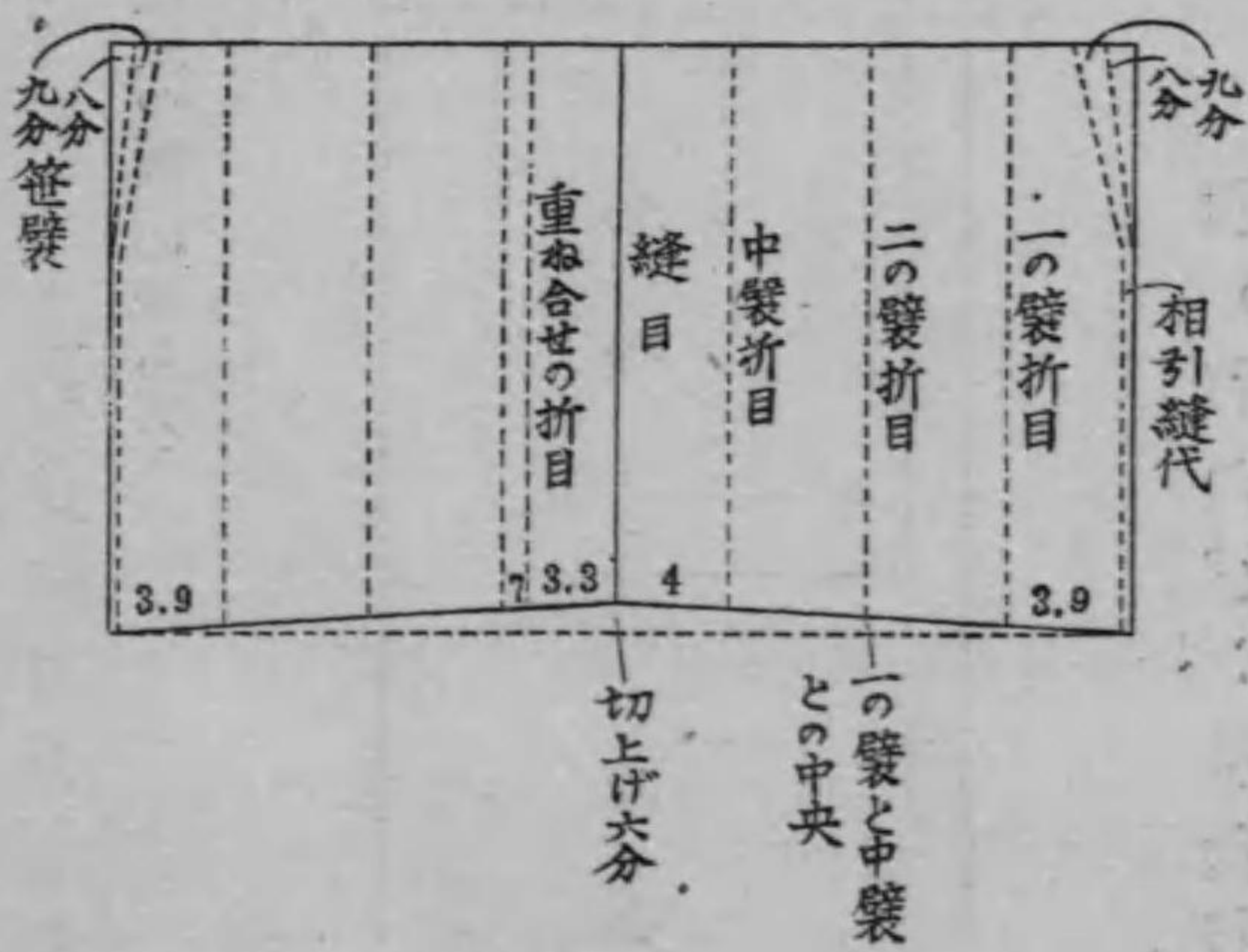
圖方り取の襷び及せ合ひ縫 (後)

1/20



圖方り取の襷び及せ合ひ縫 (前)

1/20

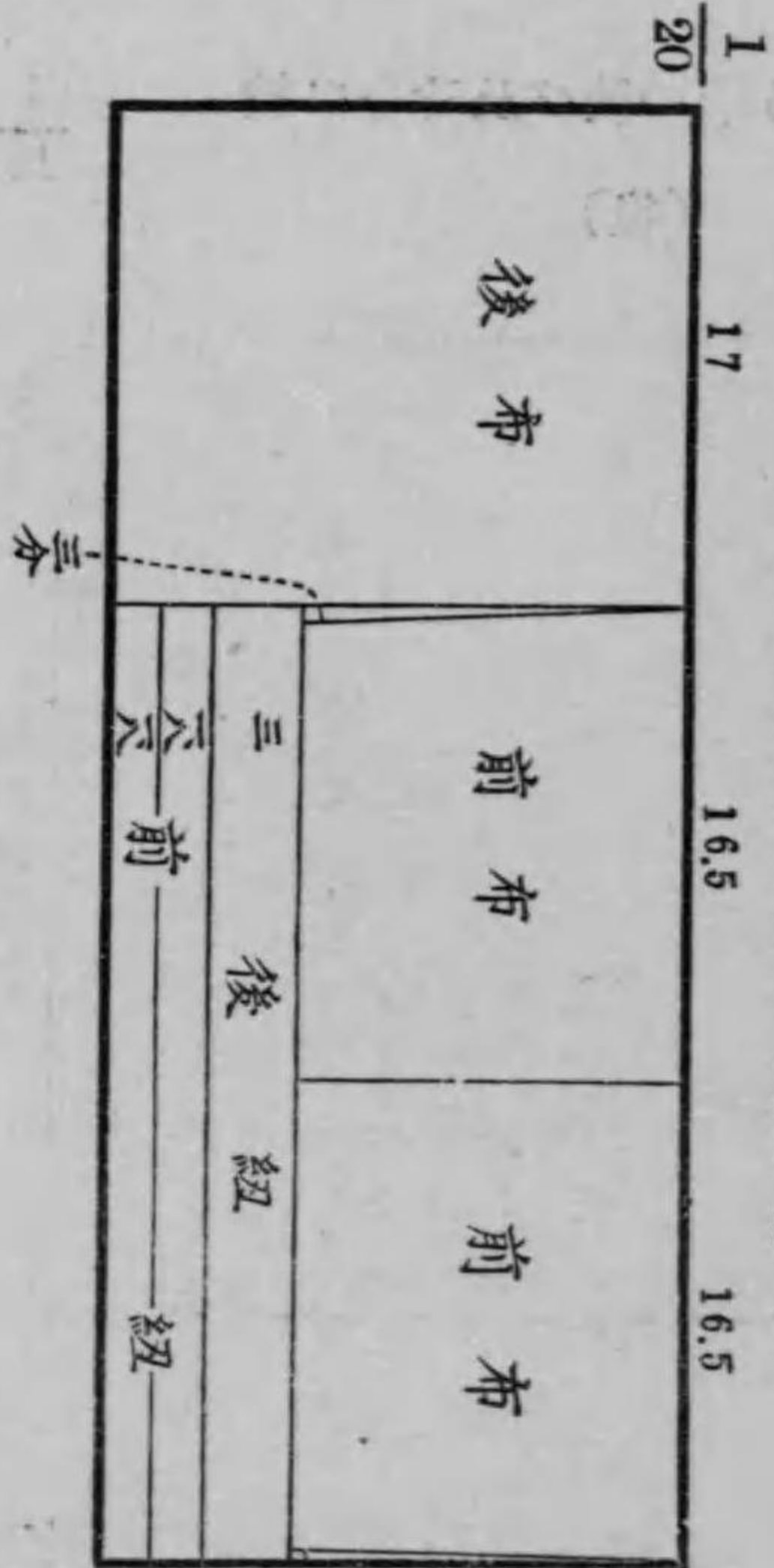


第三 二尺幅にて六七才女兒袴の裁方及び積り方

二尺幅の布にて六七才女兒袴無袴(後一つ襷)の裁ち方

紐下一尺四寸五分上りと假定す

丈に揚をなすには揚の分だけ用布を餘分に見積るべし



後三つ襷は五寸幅位を後布に足し大人物の割出しに縫ひ取り

積り方

紐下 14.5 + 2.5 = 17  
17 x 3 - 1 = 50  
の前後の差用布

1/10

縫ひ合せ及び襷の取り方圖 (後)



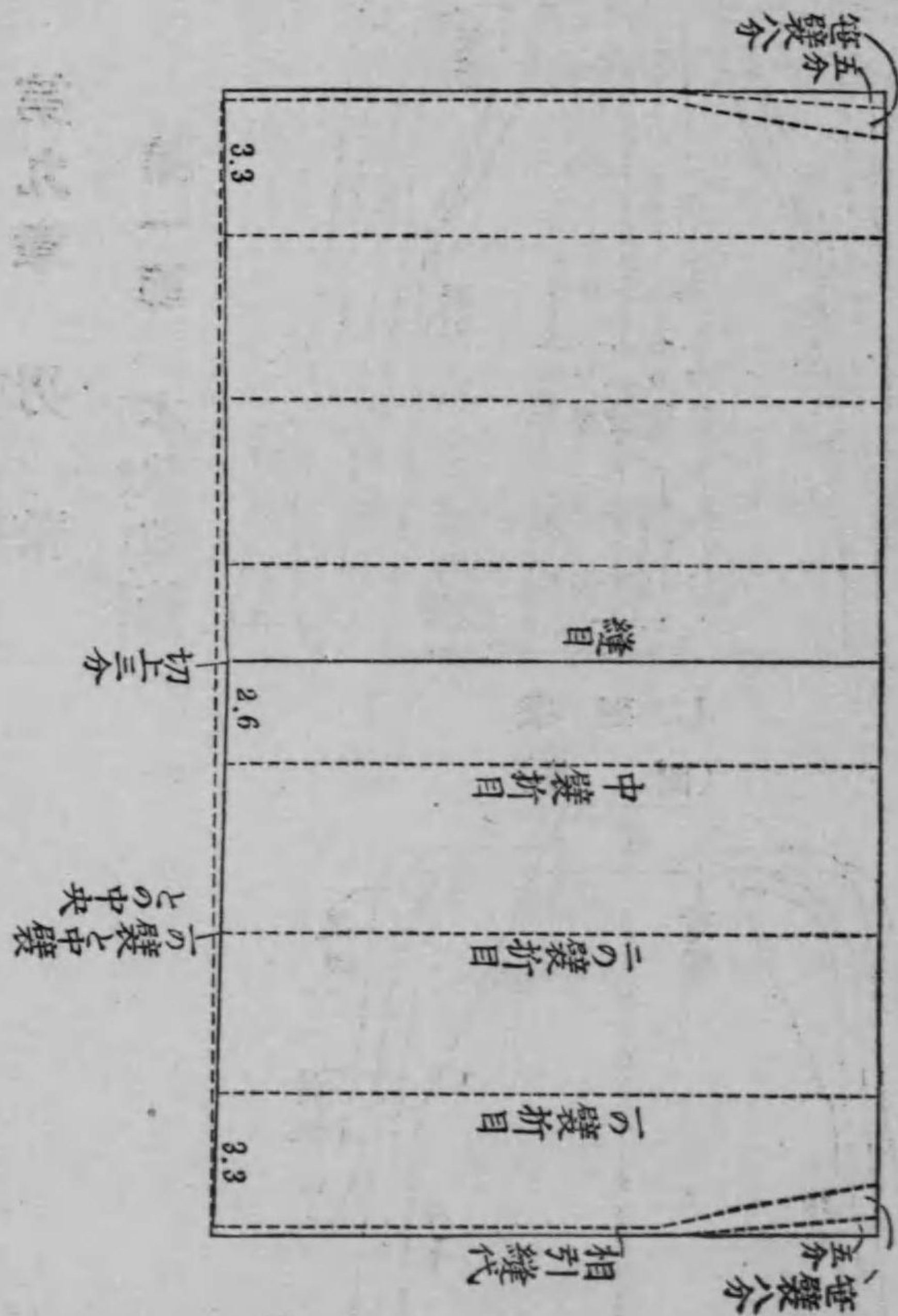
(二六四)  
 縫方の順序は大人物に做ふべし  
 但し前布の中襷は片返しになす

第四 六七才女兒袴

の縫合せ及び襷の取り方圖

1/10

縫ひ合せ及び襷の取り方圖 (前)

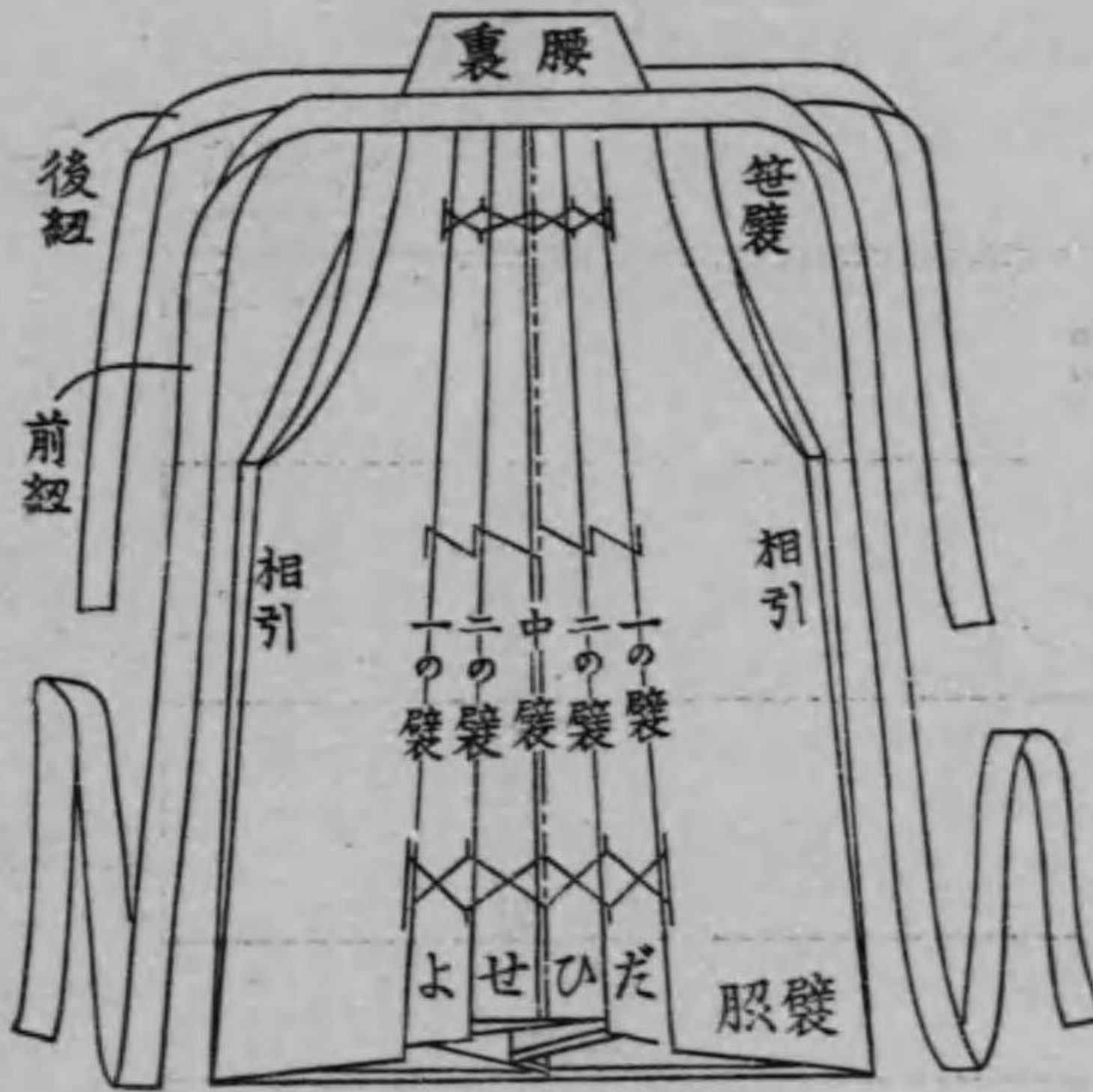


(一六五)

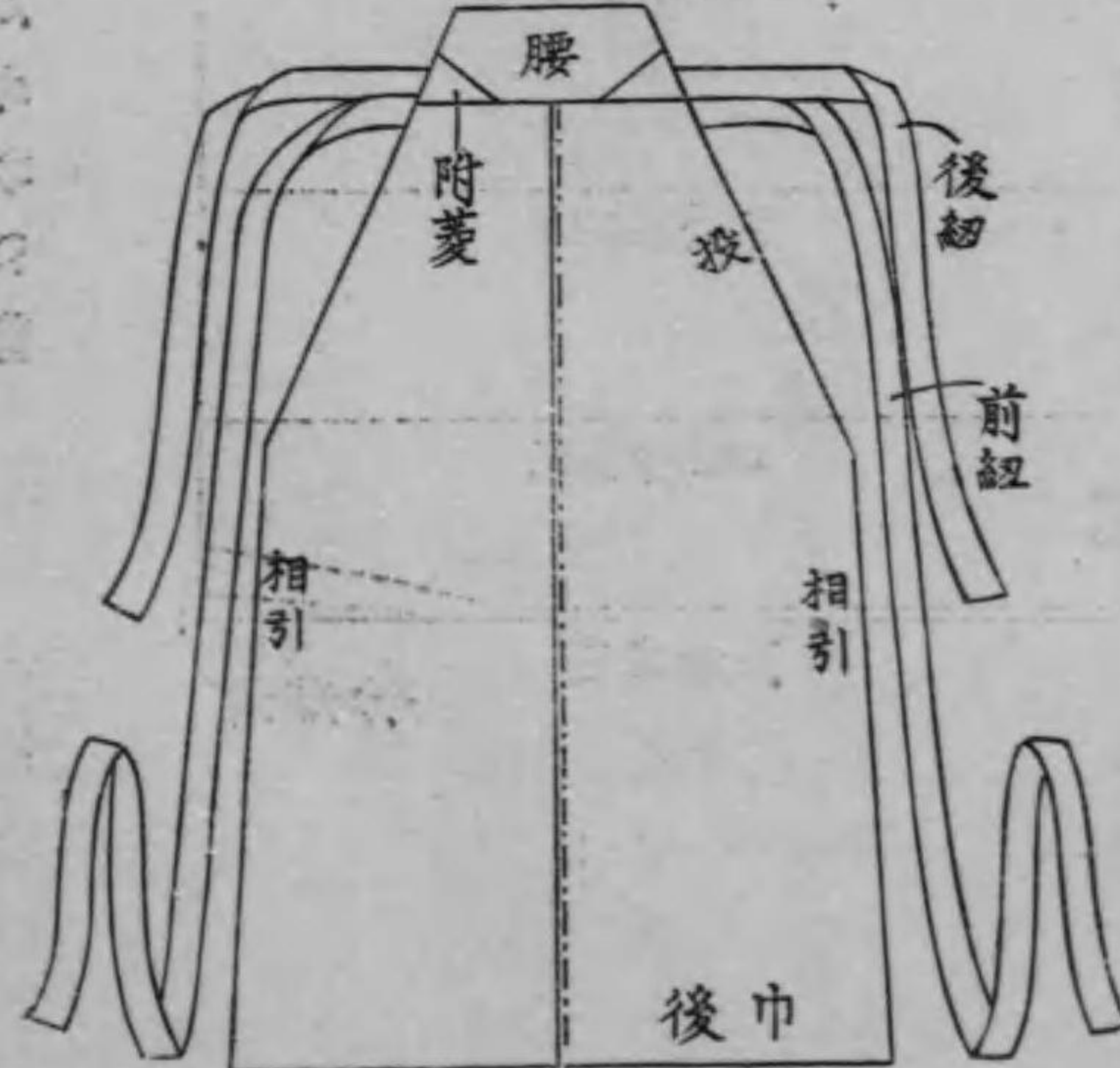
第九章 男袴

第一節 本裁單袴

稱名及び圖り上立仕袴男裁本 (面前)



し廻蹴 (面後)



第一 普通仕立上り寸法及び圖並に各部の名

普通仕立上り寸法

紐下	二尺二寸
相引	一尺四寸七分
後幅	八寸(着物の後幅と同寸)
腰幅	六寸五分
後重ね幅	八分より一寸迄
襠の高さ	一尺三寸五分
中襷の深さ	二寸八分
脇幅	四寸八分
乗り間	八寸より一尺まで



前寄髪幅 上八分 下一寸六分

前紐附幅 一寸二分

腰板幅 八寸

切り上げ 六寸五分

腰板高さ 一寸六分

附菱幅 二寸三分

附菱高さ 二寸三分

後紐 一寸四分

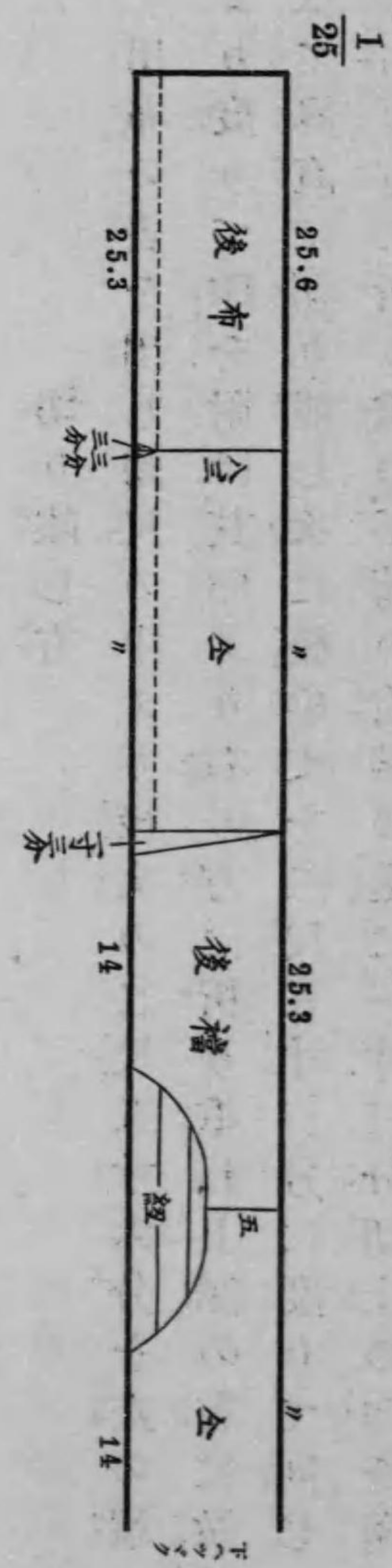
前紐 丈九尺内外

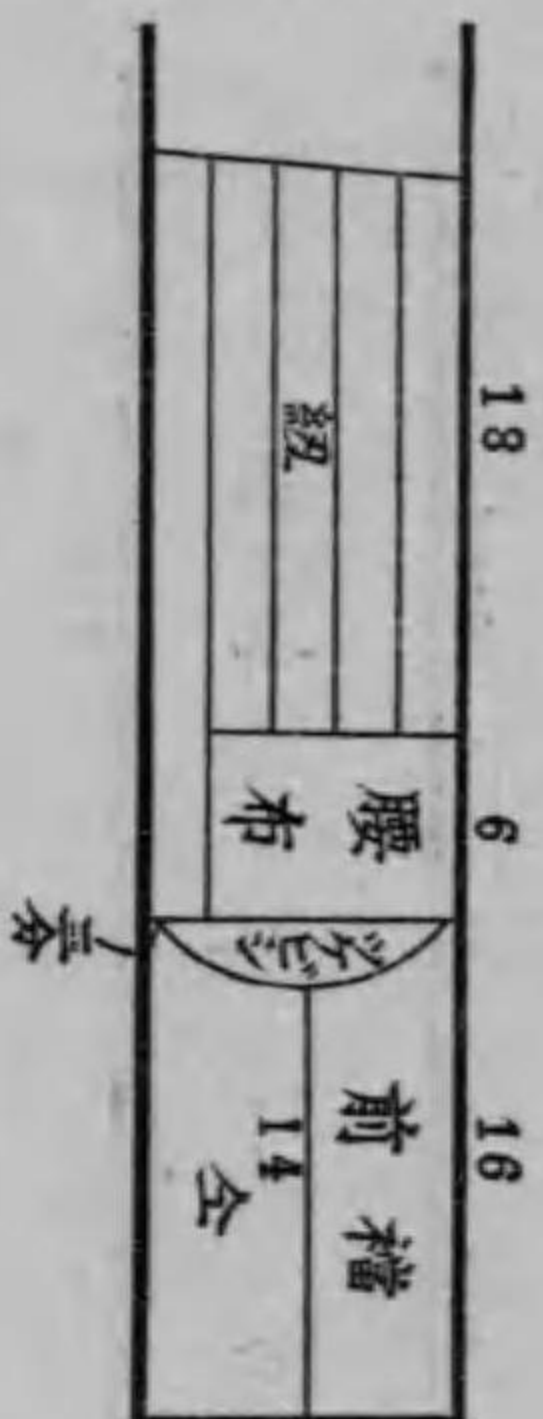
寸法の割り出し方は共通要項に示す

第二 並幅二丈四尺一寸の袴地にて本裁男袴

の裁ち方積り方及び切り離し方

二丈四尺一寸の袴地にて本裁男袴の裁ち方 前紐丈九尺内外 後紐丈二尺八寸





積り方  
 後紐 前襟  
 $18+6+16=40$   
 腰切 裁ち違ひ  
 $241-40+3.8=204.8$   
 $204.8+8=212.6$   
 後布北

(170)  
 用布の丈短き  
 時或は紐下の  
 長き時は四布  
 使の裁ち方を  
 應用すべし。

切り離し方

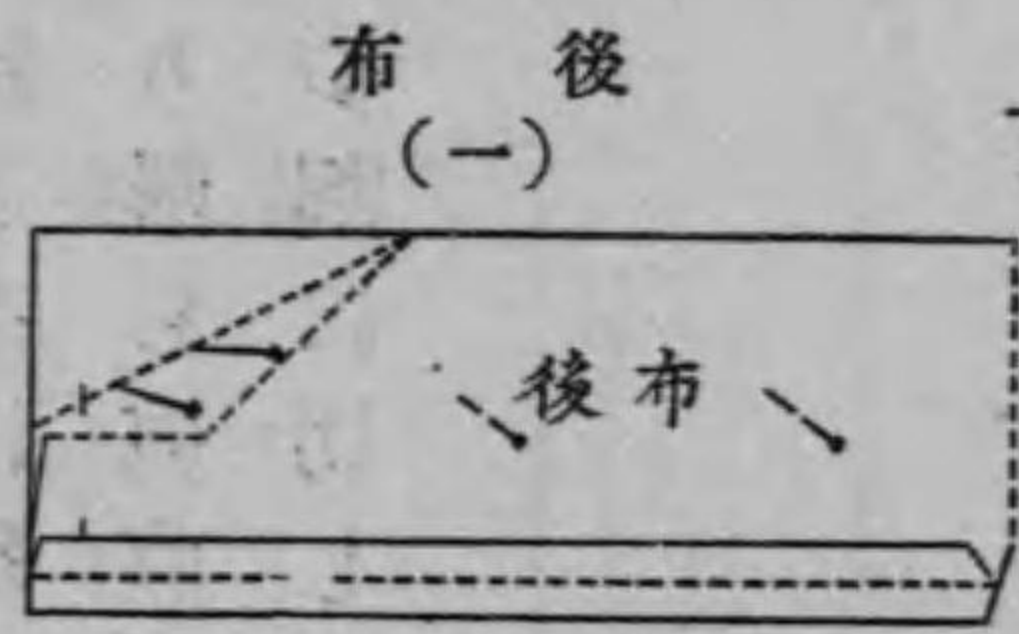
用布の表を出し總尺の中より後丈の二尺五寸六分を左の端より度りて印を付け、其印より右の方に折り重ね上側の布に倣ひて真直に切り離し、次に後襟丈を二尺五寸三分に度りて同じく右の方に折り重ね、手前の右端の處に一寸三分切上の印を付け、其印と向ふ端とに尺度を渡して斜に通し、篋を付け、篋通り二枚裁ち落とし、次に向ふ端にて脇布の丈を二尺四寸八分に度り、右

の方に折り重ね、手前の左端より後丈と同寸に度りて印を付け、其印と向ふ端とに尺度を渡して同じく通し、篋をなし、二枚共に切り離し、次に向ふ端にて奥布丈を二尺四寸八分に度りて印を付け、右の方に折り重ね、上側の布に倣ひて斜に切り離し、次に布の右端にて前襟丈を一尺六寸切り離し、中表に縦二つ折になし置き、次に残りの布の長さ方にて紐を一本、布幅の五分の一を切り離し、真直なる方にて腰切を六寸切り離し、残りの紐布を幅四つ割に切り離すべし。

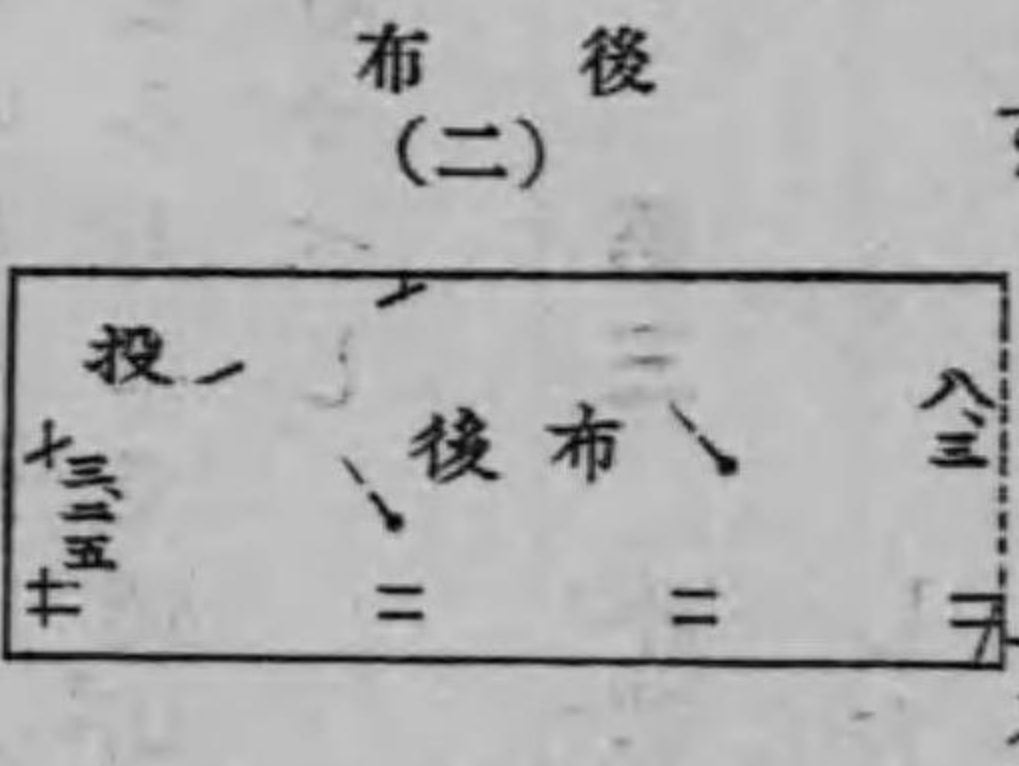
第三

本裁男單衿篋の附方及び各部の裁ち落し方の説明

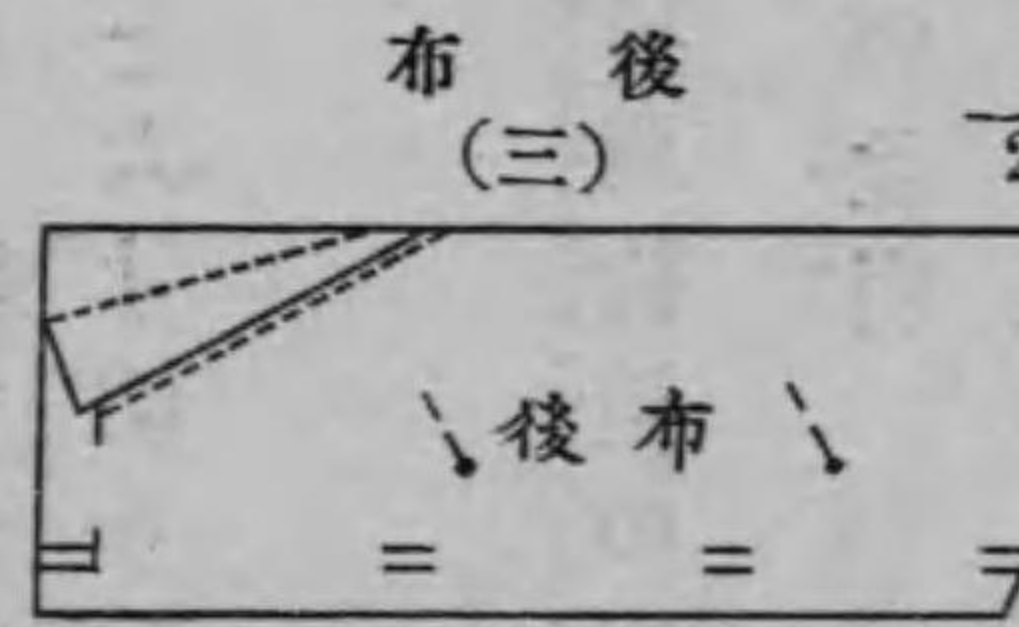
1/20



1/20



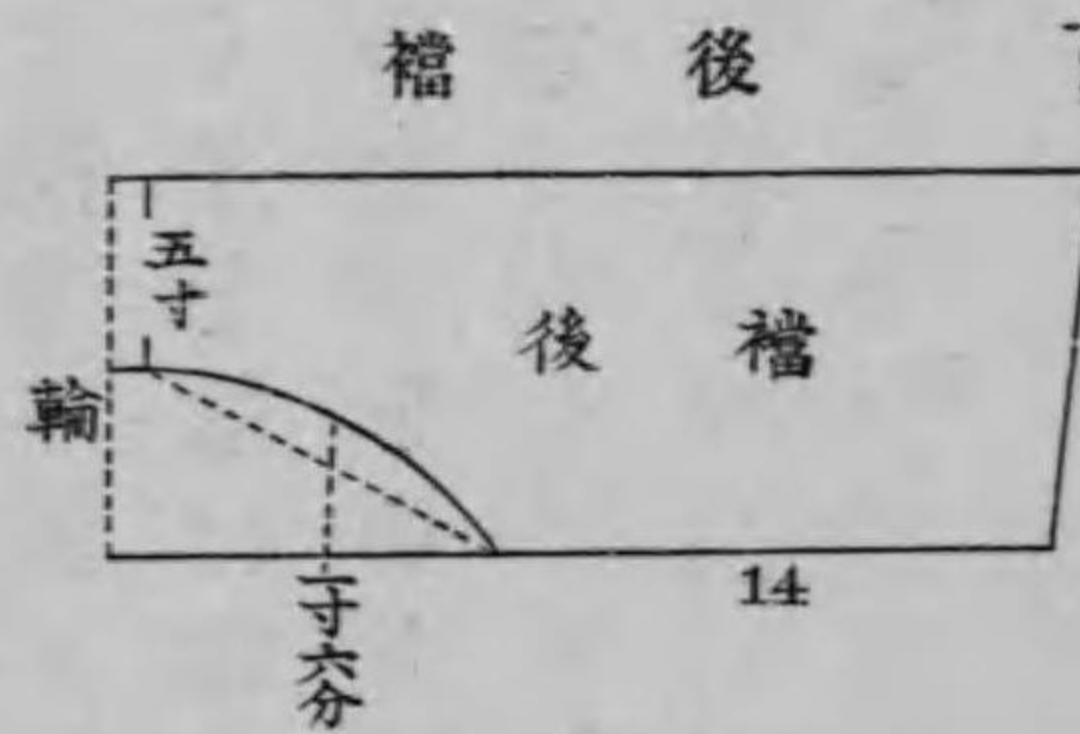
1/20



分度り幅印の處迄斜に篋を附けて裁ち落し、次に幅印より八分  
 離して後重ね合せの折の篋を附け、幅印の處にて丈の篋を附け、  
 (仕立上り紐下の寸法に裾新代五分と切上一寸六分とを加へた  
 るもの)其處にて向ふの端より八寸三分の篋を附け、其篋より腰  
 板幅の二分の一(三寸二分五厘の處に篋を附け、其處に丈印を附

(一七二)  
 一 後布の輪の方  
 を右になし、裾口  
 を向ふの端より八  
 寸三分度り(後幅に  
 相引の縫代を加へ  
 たるもの)て篋を附  
 け、手前の端にて三

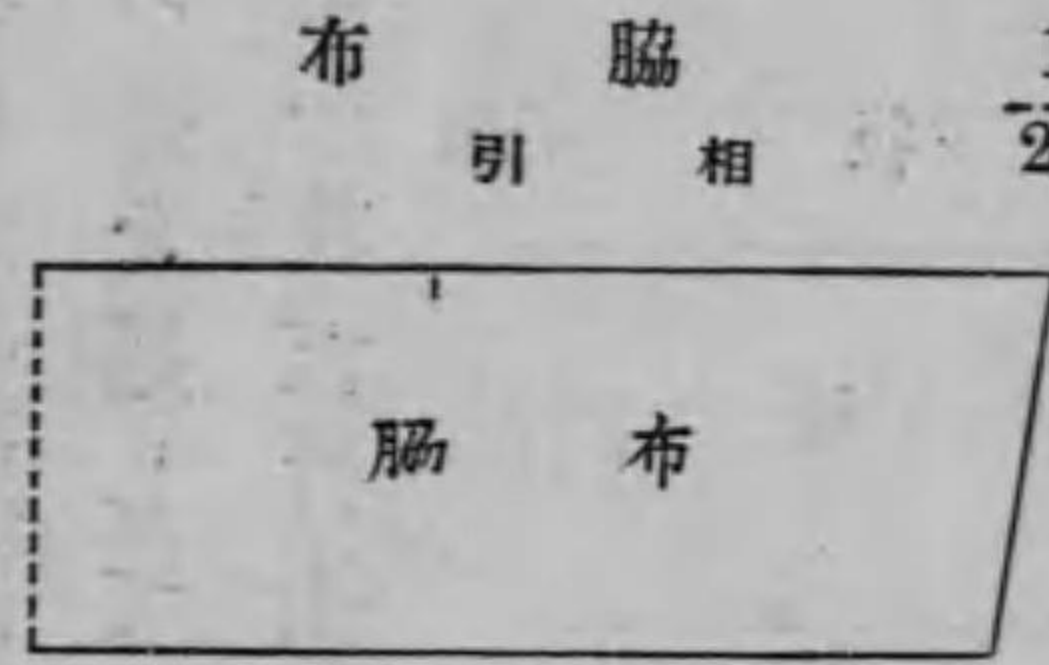
け、次に相引の篋を附け、其篋と腰幅の篋とを差渡し三ヶ所に篋  
 を附け、上の一枚を伸ばし、内側を一分引きて投を三つ折に  
 なし、角の處は縦の布目に倣ひて内側に折り、布のつれぬ爲め下  
 の布を通して待針を刺し、次に幅印より八分先の篋を同しく上  
 の一枚だけ折り、其儘下の布を出して投を同様に折り、幅の  
 1/20  
 篋通り折を附け、それより輪の處を切り離す  
 べし。



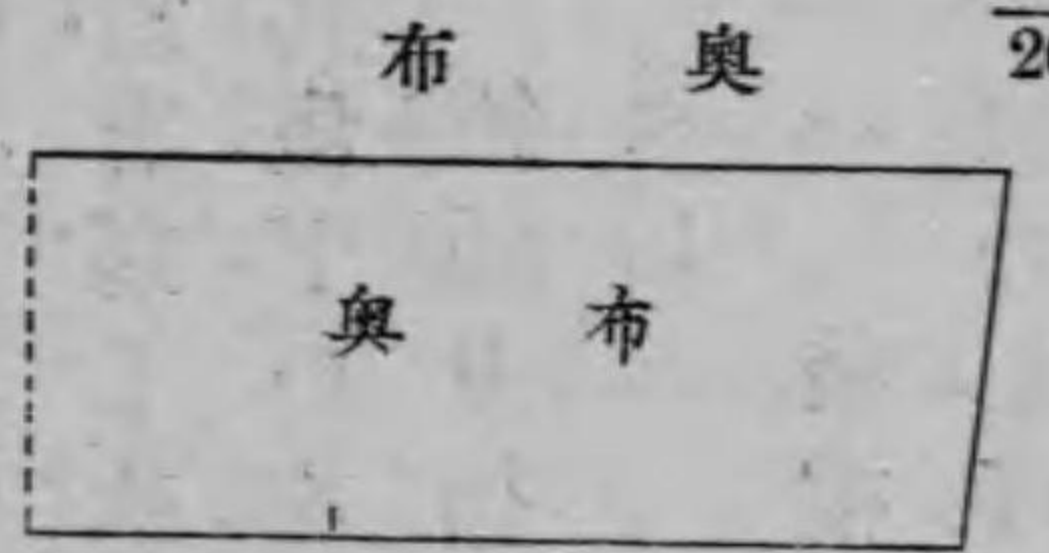
一 後襠を輪の方を左になし、長き方を向ふ  
 になし、手前の右端より襠の高さ一尺四寸と  
 篋を附け、向ふ端にて丈の篋を附け、後丈より  
 三分短く輪の處にて向ふより幅五寸に篋を  
 附け、丈の篋の處まで真直に篋をなし、其篋と

襠の高さをの鏡とに尺度を渡し、其中央を一寸六分位出して圖の如く鏡を附け鏡通り裁ち落とし、其布にて紐を二本切り離し、次に襠の上部を切り離すべし。

1/20



1/20



前襠

脇相

脇布

奥布

奥

一 輪の處を切り離すべし。  
一 前襠の輪の方手前にして襠の高さ一尺四寸に鏡を附け、左

一 脇布の輪の方を左にして長さ方を向側になして右の端より相引の鏡を附け輪の處を切り離すべし。  
一 奥布の輪の方を左にして長さ方を向側になし、手前の右の端より前襠附の鏡(一尺六寸)を附け

1/20



の向ふ端にて幅三分に縫代の鏡を附け、其間に尺度を渡し中央を凡四分位出して圖の如く鏡を附け鏡通り裁ち落とし、輪の處を切り離し、裁ち落しの布を附菱となすべし。

第四 本裁男單袴縫方順序及襷の取り方圖

一 投 左右とも投を六七分の針目に表は小針に出して紵け附け絹物の時は投の折目の伸びざる様五六分幅の眞直の布を裏の方より折目に當て、折目より一分内を七八分おきに小針に布の縦目を抄ひて綴ち附け置くべし。  
二 後及び前の縫合せ 左右とも後布に後襠を縫附け、縫込を後襠の方に折り、次に脇布の短き方に奥布の長き方を縫ひ附け、縫込を奥布の方に折り、次に脇布の短き方に奥布に前襠の長き方を縫ひ附け、前襠